

資 料 編

- 資-1 令和元年度 アンケート及びヒアリング調査の結果
- 資-2 令和 4 年度 アンケート調査の結果
- 資-3 令和 6 年度 アンケート及びヒアリング調査の結果
- 資-4 環境年表
- 資-5 SDGs の 17 のゴール
- 資-6 温室効果ガス排出量の算定方法
- 資-7 四日市市環境基本条例・快適環境都市宣言

資-1 令和元年度 アンケート及びヒアリング調査の結果

(1) 調査の概要

① 調査目的

- 調査目的は、以下のとおりです。

- ・市民や事業者の環境保全への意識や取組状況等を把握する。また、今後の意向や積極的に取り組むために必要なことを把握し、施策の検討に反映する。
- ・四日市市環境計画の認知度や施策の満足度・重要度等を把握し、第3期計画の評価や第4期計画における重点施策の検討に反映する。
- ・市民や事業者に対して、四日市市環境計画（四日市市の環境行政）の周知を図る。
- ・市民協働による環境施策の推進に資するため、市内で環境活動や環境学習を行う団体等を対象として、将来の四日市市の望ましいまちの姿、望ましいまちの姿の実現に向けた提案、期待、要望等、行政及び市民・事業者との連携のあり方に関するヒアリング調査を実施する。

② 調査対象及び方法

- アンケート調査の調査対象は、市内在住の市民 3,000 名及び市内に拠点を置く事業所（本所・支所や事業所規模を問わない）500 事業所としました。市民 3,000 名については、過年度の市政アンケート調査の手法に倣い、18 歳以上の市民を対象にした無作為抽出としました。調査方法は、郵送配布・郵送回収とし、2019（R1）年 8 月 30 日から 9 月 13 日までを調査期間としました。
- ヒアリング調査の調査対象は、令和元年 9 月末時点で四日市市エコパートナーとして登録いただいている市民活動団体のうち、ヒアリング調査に協力いただけると回答のあった団体で、活動内容の重複等を考慮し、11 団体を選定しました。

③ 回収結果

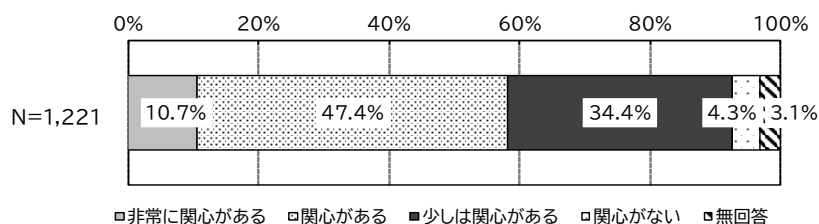
- アンケート調査の回収結果は、以下のとおりです。

対象	配布数	回収数（N）	回収率
市民	3,000	1,221	40.7%
事業者	500	231	46.2%

(2) 調査の結果（市民）

問 1 あなたは、環境問題に対して関心がありますか。（○は 1 つ）

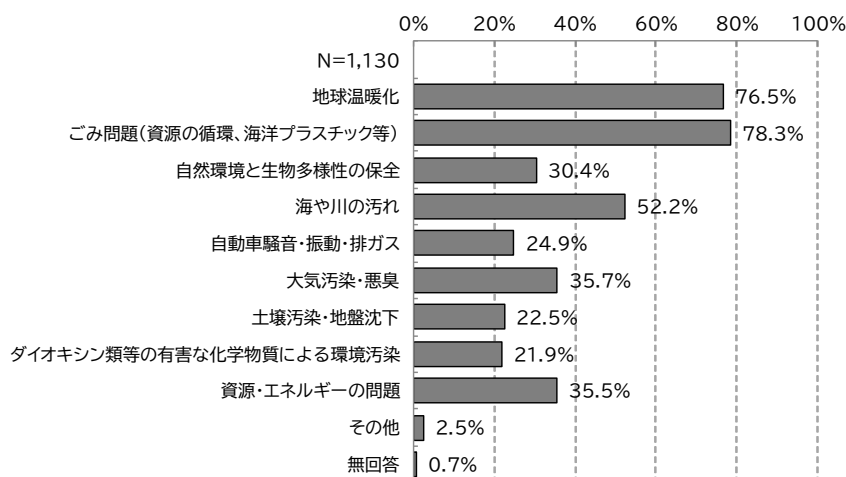
●「非常に関心がある」、「関心がある」、「少しは関心がある」を合わせた「関心がある傾向」は、92.5%となっている。



問 2 問 1 で「1」、「2」、「3」と答えた方にお聞きます。

現在、どのような環境問題に関心がありますか。（○はいくつでも）

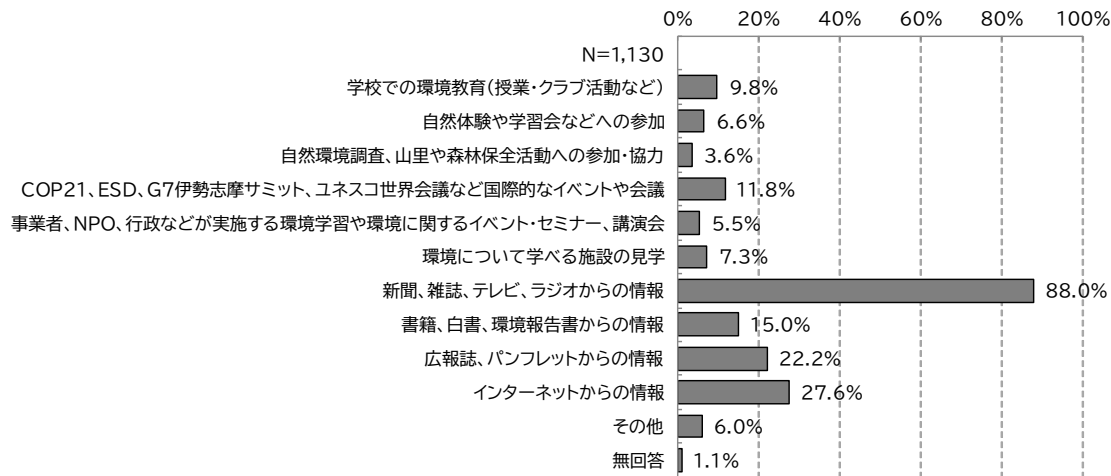
●「ごみ問題（資源の循環、海洋プラスチック等）」が 78.3%と最も多く、次いで「地球温暖化」が 76.5%、「海や川の汚れ」が 52.2%となっている。



問3 問1で「1」、「2」、「3」と答えた方にお聞きます。

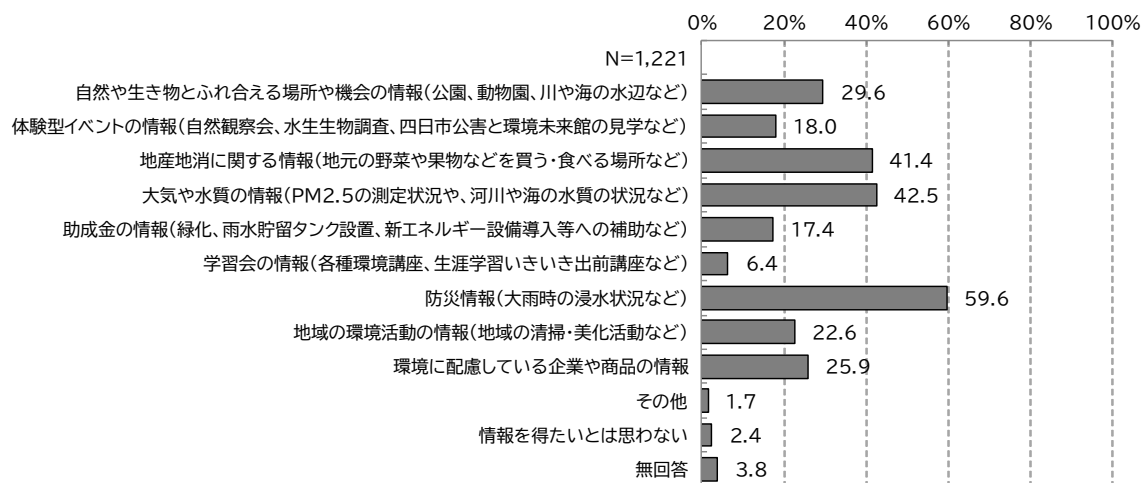
問2で選択した環境問題に関心を持つようになったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

- 「新聞、雑誌、テレビ、ラジオからの情報」が88.0%と最も多く、次いで「インターネットからの情報」が27.6%、「広報誌、パンフレットからの情報」が22.2%となっている。



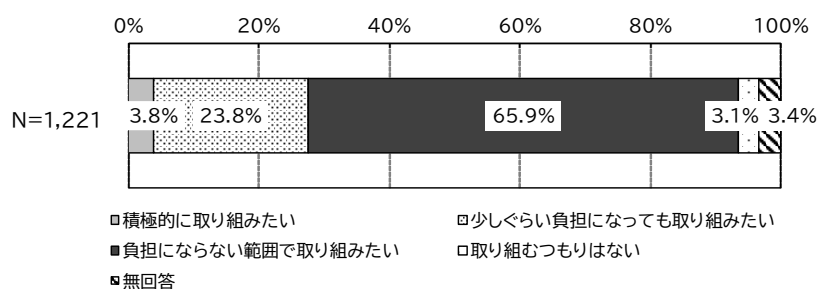
問4 あなたは、環境に関するどのような情報を得たいと思いますか。(〇はいくつでも)

- 「防災情報(大雨時の浸水状況など)」が59.6%と最も多く、次いで「大気や水質の情報(PM2.5の測定状況や、河川や海の水質の状況など)」が42.5%、「地産地消に関する情報(地元の野菜や果物などをかう・食べる場所など)」が41.4%となっている。



問5 環境問題に取り組む姿勢として、あなたの考えに近いものはどれですか。(〇は1つ)

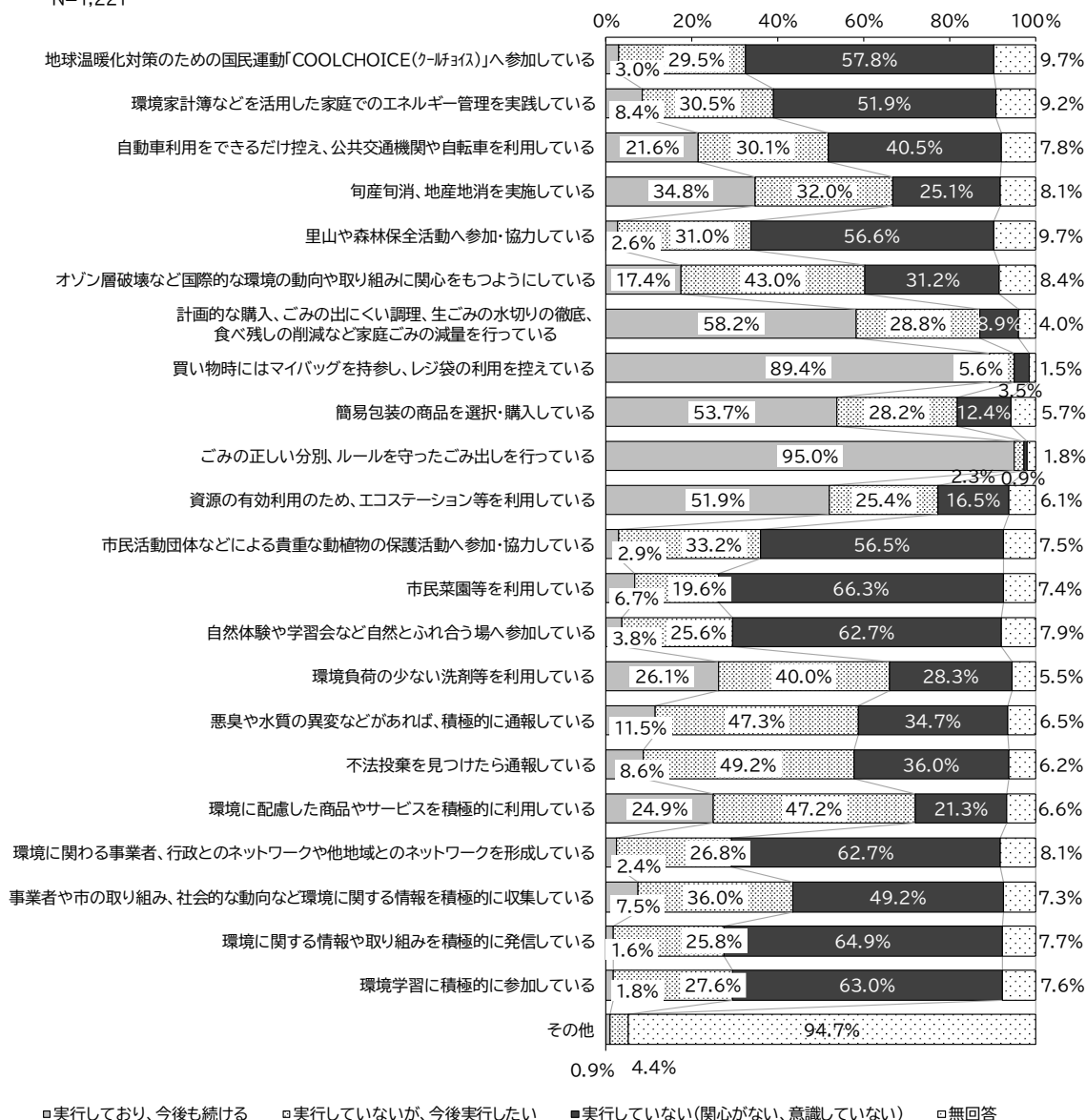
- 「負担にならない範囲で取り組みたい」が65.9%と最も多く、次いで「少しぐらい負担になっても取り組みたい」が23.8%、「積極的に取り組みたい」が3.8%となっている。



問 6 日常の中で環境に負荷をかけないため、どのようなことを実行していますか。（○はそれぞれ 1 つ）

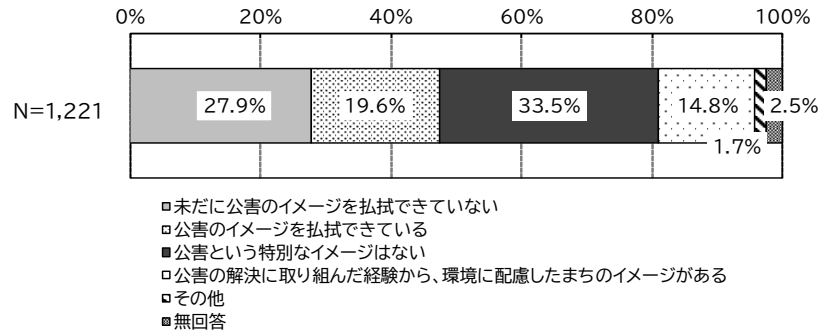
- 「実行しており、今後も続ける」では、「買い物時にはマイバッグを持参し、レジ袋の利用を控えている」が 89.4%、「ごみの正しい分別、ルールを守ったごみ出しを行っている」が 95.0%となっている。また、「計画的な購入、ごみの出にくい調理、生ごみの水切りの徹底、食べ残しの削減など家庭ごみの減量を行っている」が 58.2%、「簡易包装の商品を選択・購入している」が 53.7%、「資源の有効利用のため、エコステーション等を利用している」が 51.9%と、それぞれ 5 割を超えている。

N=1,221



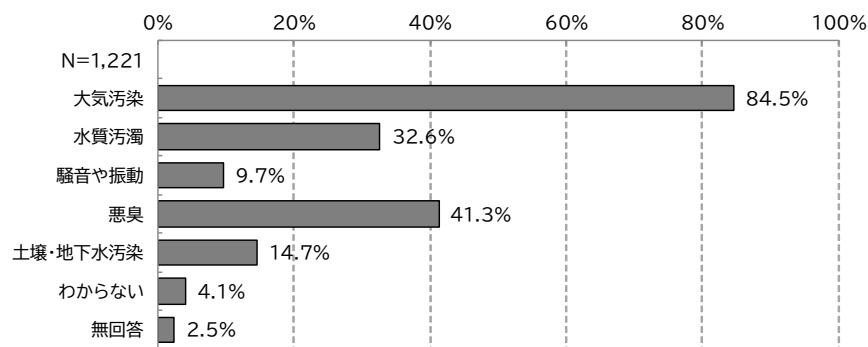
問 7 本市は過去に「四日市公害」という深刻な公害を経験しましたが、現在の本市における公害のイメージをどのように感じていますか。（○は 1 つ）

- 「公害という特別なイメージはない」が 33.5%と最も多く、次いで「未だに公害のイメージを払拭できていない」が 27.9%、「公害のイメージを払拭できている」が 19.6%となっている。



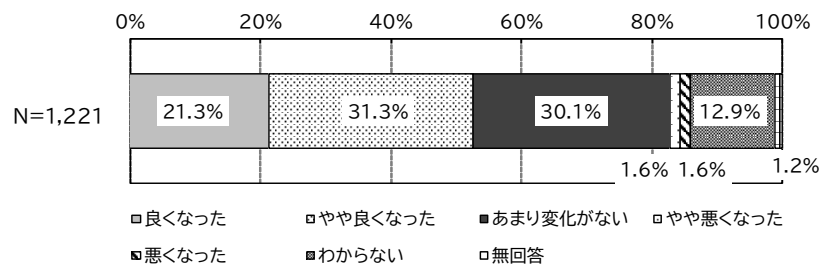
問 8 問 7 の回答では、特にどのような「公害」をイメージされましたか。（○はいくつでも）

- 「大気汚染」が 84.5%と最も多く、次いで「悪臭」が 41.3%、「水質汚濁」が 32.6%となっている。



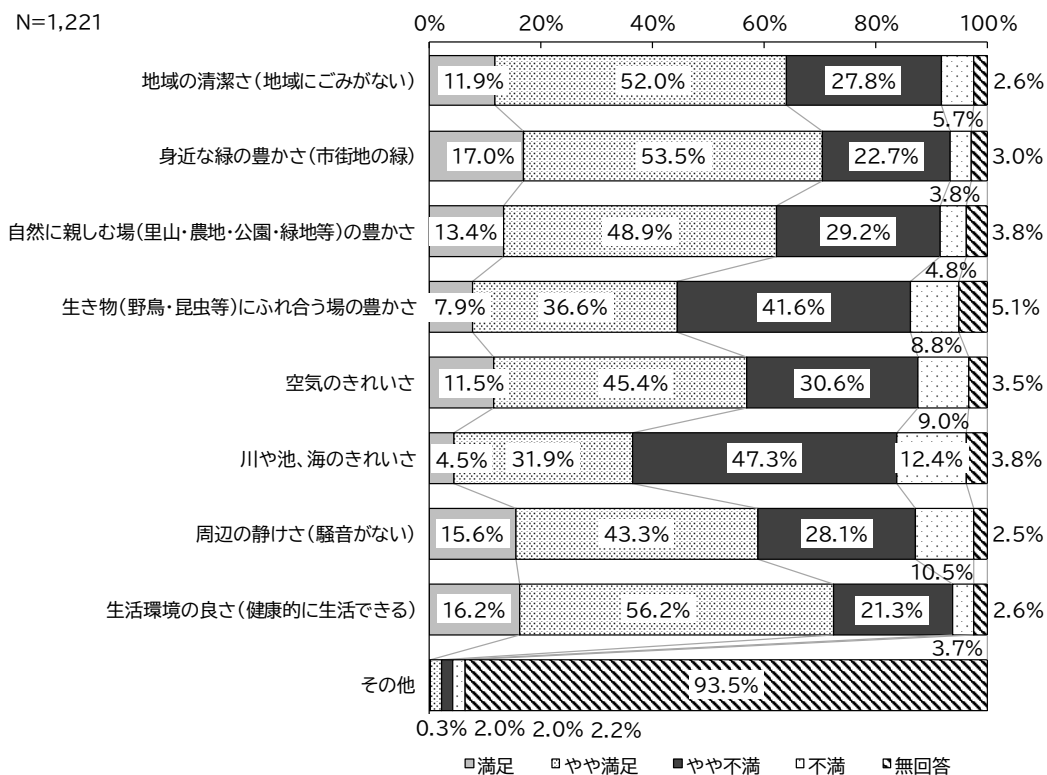
問 9 あなたは、四日市市の環境について、以前（概ね 10 年前）と比べてどのように変化してきていると思いますか。（○は 1 つ）

- 「良くなった」、「やや良くなった」を合わせた「四日市市の環境が良くなった傾向」は、52.6%となっている。



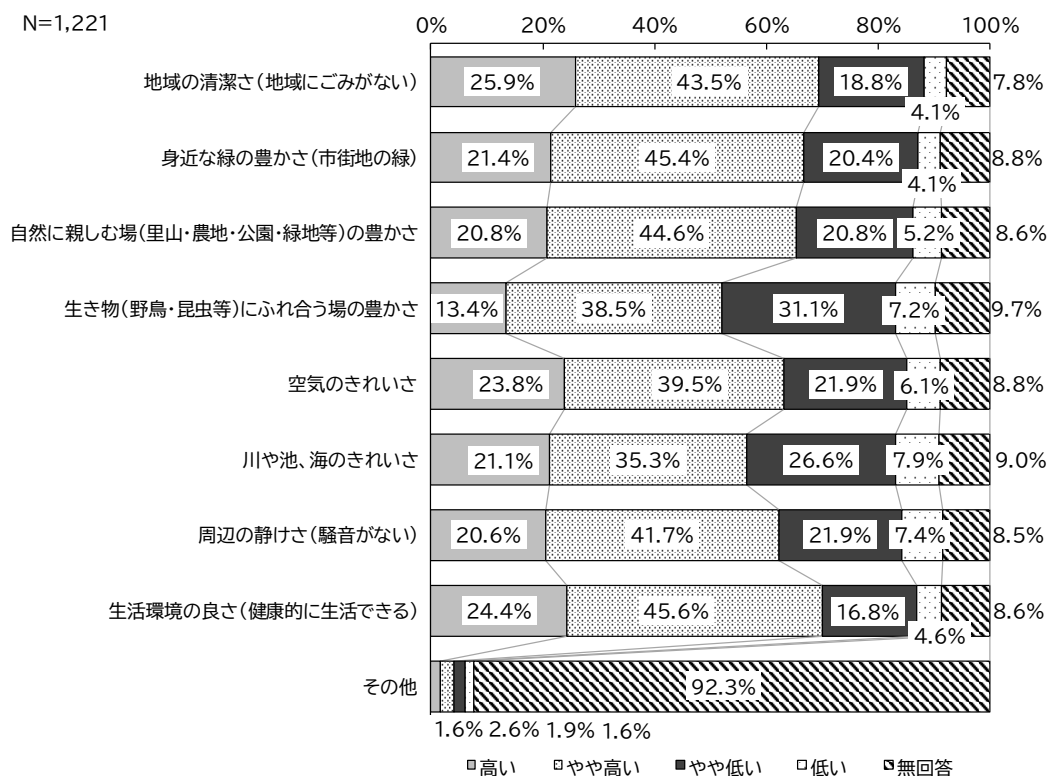
問 10 四日市市の環境に対する「現在の満足度」と「今後の期待度」について、あなたの今の気持ちに最も近い番号に○
印をつけてください。（満足度）

- 「満足」、「やや満足」を合わせた「満足している傾向」は、「生活環境の良さ（健康的に生活できる）」が 72.4%、「身近な緑の豊かさ（市街地の緑）」が 70.5%と、それぞれ 7 割を超えている。一方、「川や池、海のきれいさ」が 36.4%となっている。



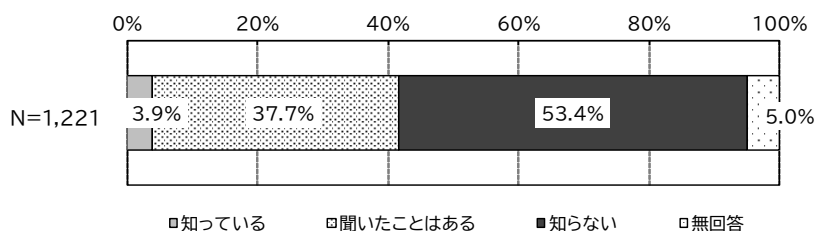
問 10 四日市市の環境に対する「現在の満足度」と「今後の期待度」について、あなたの今の気持ちに最も近い番号に○印をつけてください。（期待度）

- 「高い」、「やや高い」を合わせた「期待している傾向」は、「生活環境の良さ（健康的に生活できる）」が 70.0%となっている。また、「地域の清潔さ（地域にごみがない）」が 69.4%、「身近な緑の豊かさ（市街地の緑）」が 66.8%、「自然に親しむ場（里山・農地・公園・緑地等）の豊かさ」が 65.4%、「空気のきれいさ」が 63.3%、「周辺の静けさ（騒音がない）」が 62.3%と、それぞれ 6 割を超えている。



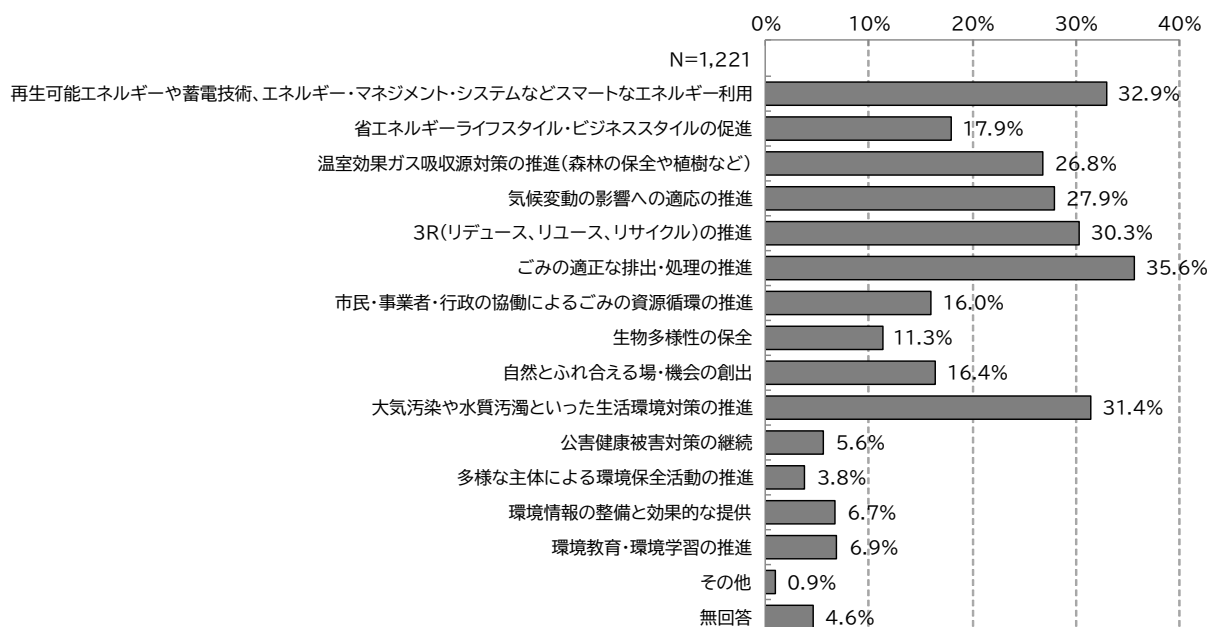
問 11 あなたは、「四日市市環境計画」を知っていますか。（○は 1 つ）

- 「知らない」が 53.4%と最も多く、次いで「聞いたことはある」が 37.7%、「知っている」が 3.9%となっている。



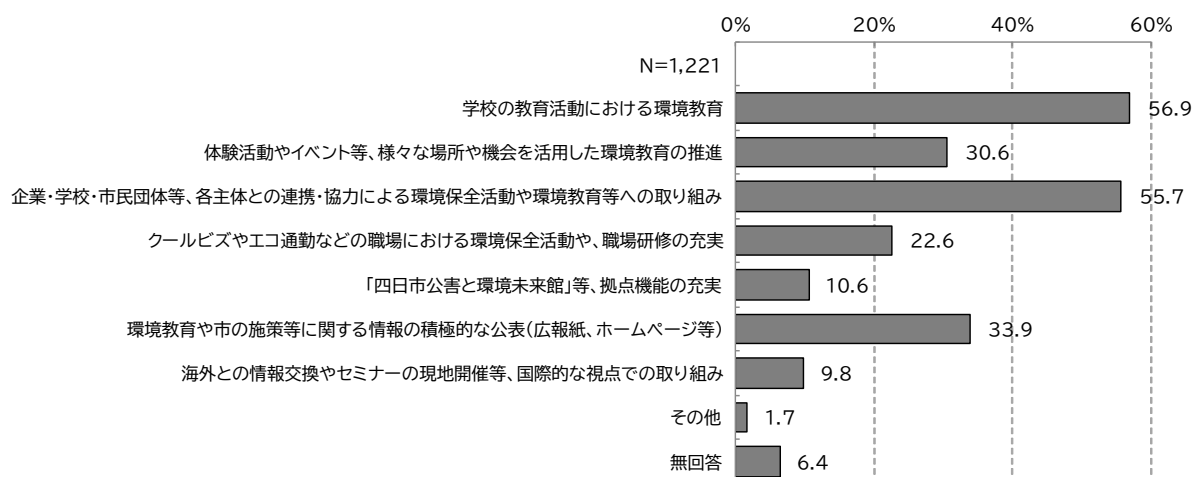
問 12 今後、本市が取り組む環境施策のうち、あなたが重要と考えるものはどれですか。該当する番号に○印をつけてください。（○は3つまで）

- 「ごみの適正な排出・処理の推進」が 35.6%と最も多く、次いで「再生可能エネルギーや蓄電技術、エネルギー・マネジメント・システムなどスマートなエネルギー利用」が 32.9%、「大気汚染や水質汚濁といった生活環境対策の推進」が 31.4%となっている。



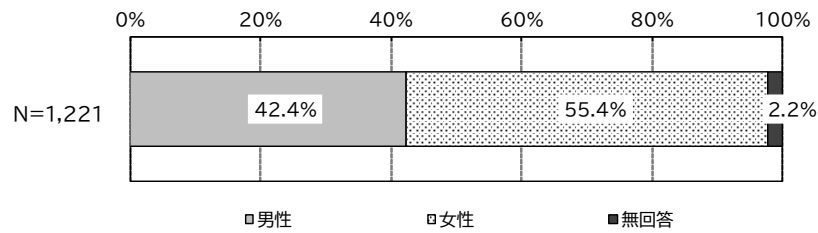
問 13 「環境をともに学び、考え、行動する」ために、本市はどのような施策に力を入れるべきだと思いますか。該当する番号に○印をつけてください。（○は3つまで）

- 「学校の教育活動における環境教育」が 56.9%と最も多く、次いで「企業・学校・市民団体等、各主体との連携・協力による環境保全活動や環境教育等への取り組み」が 55.7%、「環境教育や市の施策等に関する情報の積極的な公表（広報紙、ホームページ等）」が 33.9%となっている。



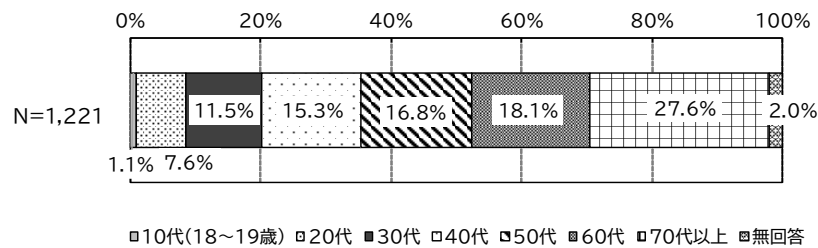
問 14-1 性別

●「女性」が 55.4%、「男性」が 42.4%となっている。



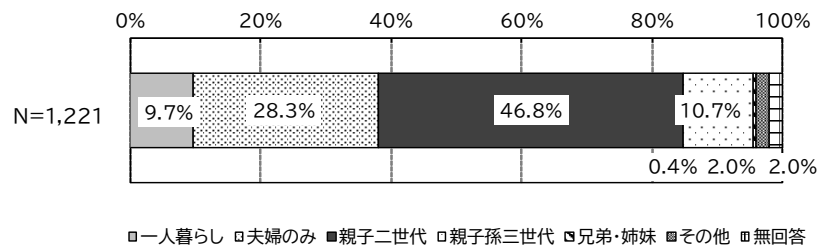
問 14-2 年齢

●「70 代以上」が 27.6%と最も多く、次いで「60 代」が 18.1%、「50 代」が 16.8%となっている。



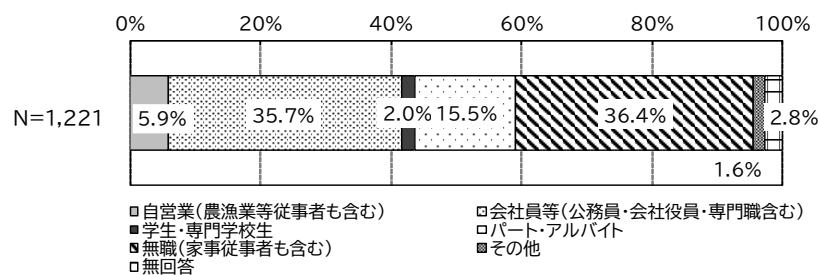
問 14-3 家族構成

●「親子二世代」が 46.8%と最も多く、次いで「夫婦のみ」が 28.3%、「親子孫三世代」が 10.7%となっている。



問 14-4 職業

●「無職（家事従事者も含む）」が 36.4%と最も多く、次いで「会社員等（公務員・会社役員・専門職含む）」が 35.7%、「パート・アルバイト」が 15.5%となっている。



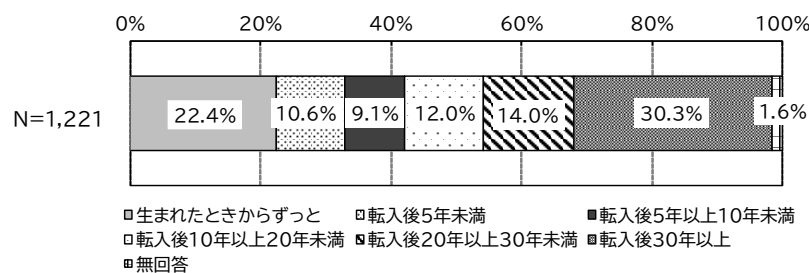
問 14-5 居住地区

- 「常磐」が 6.6%と最も多く、次いで「三重」および「四郷」が 6.3%となっている。

(N=1221)		(%)			
中部	富洲原	富田	羽津	常磐	日永
6.1	2.9	5.2	5.4	6.6	5.7
四郷	内部	塩浜	小山田	川島	神前
6.3	5.8	2.0	2.1	3.8	2.0
桜	三重	県	八郷	下野	大矢知
5.7	6.3	2.5	4.1	2.5	5.6
河原田	水沢	保々	海蔵	橋北	楠
1.6	1.0	2.5	3.5	2.0	3.6
その他	無回答				
3.1	1.9				

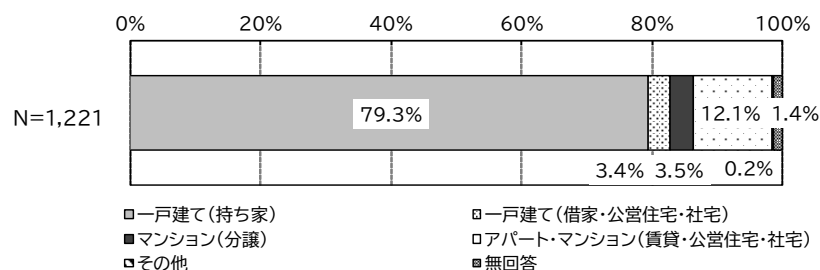
問 14-6 居住年数

- 「転入後 30 年以上」が 30.3%と最も多く、次いで「生まれたときからずっと」が 22.4%、「転入後 20 年以上 30 年未満」が 14.0%となっている。



問 14-7 居住形態

- 「一戸建て（持ち家）」が 79.3%と最も多く、次いで「アパート・マンション（賃貸・公営住宅・社宅）」が 12.1%、「マンション（分譲）」が 3.5%となっている。



問 15 本市の環境面でのまちづくりに関する提案、期待、要望等があれば、ご自由にお書きください。

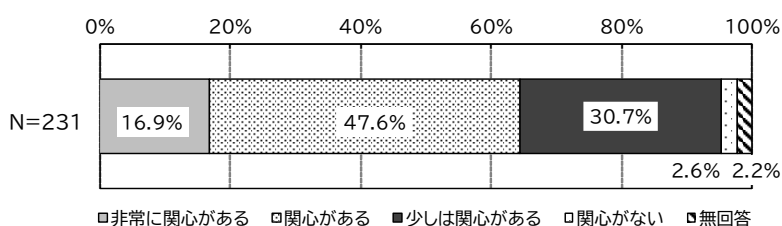
分類	内容	件数
住みやすいまちづくりに向けた取り組み全般	<ul style="list-style-type: none"> ● 四日市市は他の市より教育・医療・環境（生活含む）等の整備拡大が弱いと感じている。もう少し若い世代が住みたいと思う都市にして欲しいと思う。 ● 電線、電話線、CTY 等電柱を無くし、地下埋設の促進を各町内を先に進めて欲しい。 	33 件
渋滞緩和や交通安全のための道路環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 川越～三ツ谷あたりの 23 号線の渋滞の緩和（騒音・排ガス）。バイパスの早期開通。 ● 通学路通りには、カーブミラー設置は必然。踏切警報器の音をなるべく小さくして欲しい。 	32 件
ごみ出しルール・ポイ捨て・不法投棄	<ul style="list-style-type: none"> ● アパート・マンション住居者が自治会に未加入者による自治会管理のゴミ集積所へのごみ投棄が見られる。ルールを守っていれば問題ないが、自治会のゴミ当番などがないため、ごみのルールを知らない人が多い。自治会未加入者であってもゴミルールを守るよう周知頂きたい。ゴミのアプリはとても有効的に利用でき、とても分かりやすい。 	30 件
緑の保全に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● もう少し街を緑化して欲しい。アスファルトがあまりにも多い。街を緑化する事で治安・教育・住みやすい四日市へと変わっていけると思う。街全体をもう少しきれいな街にして欲しい。街全体が汚い所がある為、治安ひいては住んでいる人の心にも影響が出てきているように感じる。四日市市という街をきれいな街（抽象的で申し訳ありません）にして欲しい。 	24 件
悪臭・騒音・大気汚染対策等、生活環境の改善・整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 空気が汚く、悪臭・タバコ臭に悩まされている。川は水質が悪くても住める鯉だらけになり、いつも汚れている。生活污水の為だけとは思えず、何とかして欲しい。家庭での努力には限界があります。後、近鉄四日市駅前で早朝から活動している森市長は、早朝から電車で市外に勤務しに行く市民が多いことの意味を考えて下さい。 	17 件
公共交通機関の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 免許証返納ばかりじゃなく、それでは不便だからコミュニティバスを運行するとか、各病院の乗り合いバス運行とか考えてほしい。それも排ガス対策になるのではないかな。 ● 公共交通バスが少なくなり、身体が不自由な人や老人が、買い物や病院などの通院が不便になっているので、コミュニティバス等があれば便利かな。老人の一人暮らしが多くなって来たので、引きこもらないような環境づくりをして欲しい。 	15 件
四日市市のイメージ向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 夜景（コンビナート）は少しずつ広がっているが、まだ県外の人からすれば四日市＝公害というイメージを持つ人が多い。市の環境の取組みが市民まで届いてない部分もある。一人一人が出来る事を無理の無い様にする事が続けられる事と思う。 ● まだまだ「公害」を払拭出来ていません。企業の公害について市側の監視を期待しています。 	15 件
行政に対する要望・意見・提案等	<ul style="list-style-type: none"> ● 公営住宅にクーラーとかもつといい環境にしてほしい。 ● 色々な情報が市民にわかりやすく伝わるように、目に見える施策、活動をお願いします。 	15 件
環境保全のための教育・啓発・PR	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学生までのうちにしっかりと学校で環境学習について学ぶ事が大切だと思う。勉強と同じ様に大切な事だから。大人よりも小学生の頃からしっかり教えていく事が大人になって関心を持つ者が増えると思う。 ● 公害を経験した市として環境活動を積極的に対外発信して下さい。 	10 件
子どもや高齢者への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもが水遊びできる公園などがあればいいと思います。 ● 子どももお年寄りも障害者といった方がよりすみやすくなる。町や市といった環境作りを積極的に応援していきたいです。協力する人々。空気のよくなる社会。新たな人々、物やになう環境作り。 	10 件
海や沿岸部の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 夫と四日市港に魚釣りに行った時に船が走った後に海水が黒く濁ります。釣った魚を食べる気持ちにはなれません。安心して食べられる綺麗な海底になってくれるよう希望します。頑張ってください。 ● 海を綺麗にして欲しい。 	7 件
鳥獣被害対策	<ul style="list-style-type: none"> ● 猫のフン害に困っています。野良猫が庭に入りフンをしていくので困り、よく家の周りを鳴いて通り夜目が覚めてしまいます。 ● 市街地に住み着いているむく鳥やハトが、街路樹ではなく大きな公園や丘など私達の生活にフンや騒音などの害のない場所へ行けるように何とか出来ないものかと思っています。 	7 件

企業に対する積極的な行政指導	●コンビニート群に対して、継続的に監視・検査を行っていただきたい（東南風の時、異臭を感じる時がたまにある為）。排出ガスがゼロになった訳ではなく、やはり抜き打ち的な検査も必要ではないか。四日市公害を実体験している者として過去を繰り返してはならない。大災害（震災）等の対策を含め、安全が確保されているとはとても言い難い。	6 件
豪雨や川の氾濫など水害への対処	●上下水道の整備、竹森の整備、水害の起こらない町作り、を切に希望しています。今後も住み続ける予定です。子供、孫…と代々安全健康に住み続けられる町づくりを！よろしくお願いします。	4 件
太陽光発電・ソーラーパネルに関すること	●小山田地区には、自然豊かな場所がたくさんありますが、最近、伐採されソーラーパネルが設置されるようで残念に思っています。	3 件
その他	●いつも、ご苦労様です。感謝です。期待しています。 ●いつもありがとうございます。四日市が大好きです。良い街づくりに期待しています。 ●市に対する要望ばかりではなく、住民のモラルも重要と思う。この辺りは比較的良心的。	16 件

(3) 調査の結果（事業者）

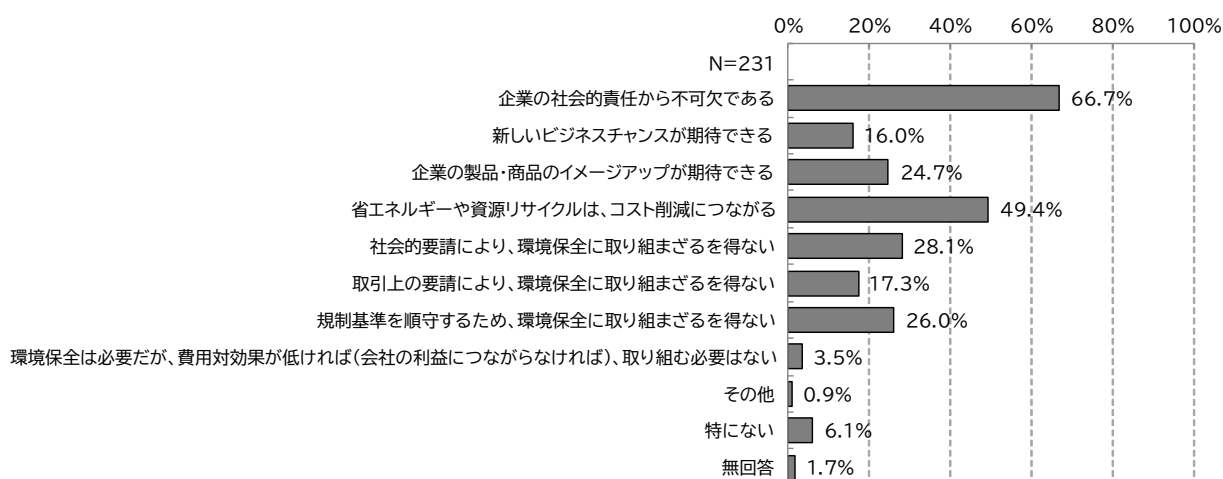
問 1 貴事業所は、環境問題に関心がありますか。（○は 1 つ）

●「非常に関心がある」、「関心がある」、「少しは関心がある」を合わせた「関心がある傾向」は、95.2%となっている。



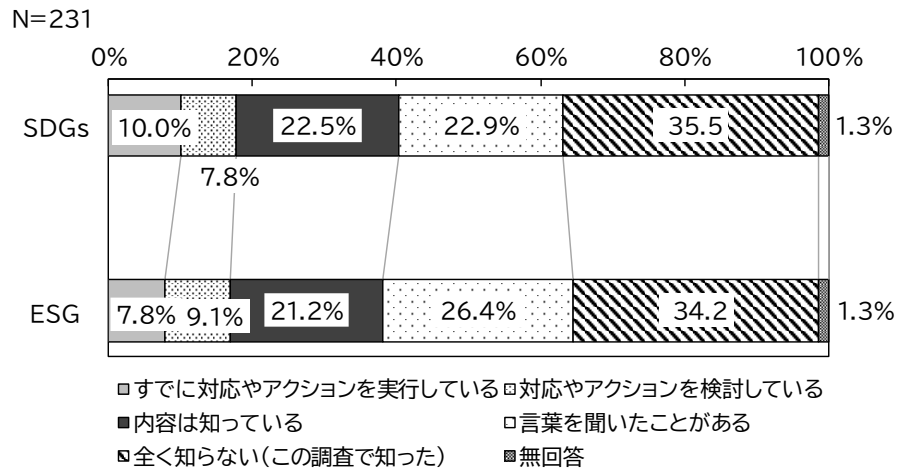
問 2 貴事業所は、環境保全の取り組みについてどのようにお考えですか。（○はいくつでも）

●「企業の社会的責任から不可欠である」が 66.7%と最も多く、次いで「省エネルギーや資源リサイクルは、コスト削減につながる」が 49.4%、「社会的要請により、環境保全に取り組まざるを得ない」が 28.1%となっている。



問 3 貴事業所における、SDGs や ESG の認知、取組状況について、該当する番号に○印をつけてください。（○はそれぞれ 1 つ）

- SDGsは、「全く知らない（この調査で知った）」が35.5%と最も多く、次いで「言葉を聞いたことがある」が22.9%、「内容は知っている」が22.5%となっている。
- ESG は、「全く知らない（この調査で知った）」が34.2%と最も多く、次いで「言葉を聞いたことがある」が26.4%、「内容は知っている」が21.2%となっている。



問 4 貴事業所は、次のような環境保全の取り組みを実行していますか。各項目について、該当する番号に○印をつけてください。（○はそれぞれ1つ）

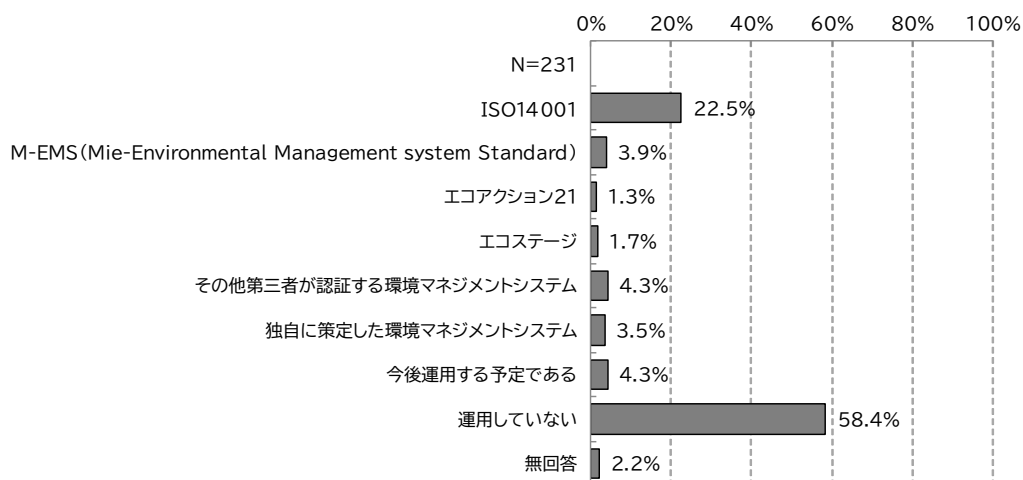
●「実行しており、今後も続ける」では、「廃棄物の減量に向けた取り組みや、廃棄物の正しい分類・適正な処理を行っている」が79.7%、「グリーン購入や再生紙の使用を進めている」が51.5%となっている。

N=231



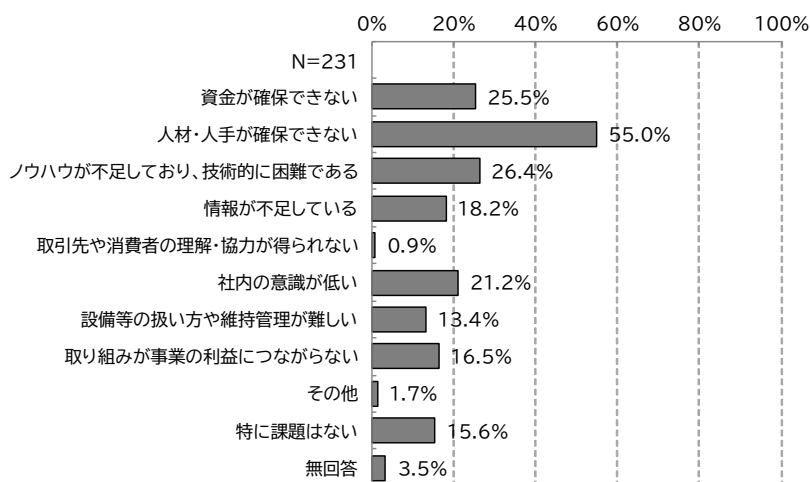
問 5 貴事業所では、以下の環境マネジメントシステムを運用していますか。（○はいくつでも）

- 「運用していない」が 58.4%と最も多く、次いで「ISO 14001」が 22.5%、「その他第三者が認証する環境マネジメントシステム」および「今後運用する予定である」が 4.3%となっている。



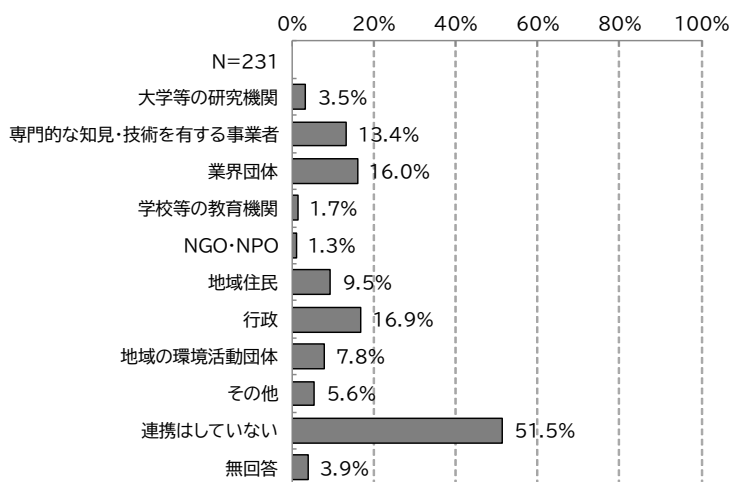
問 6 貴事業所が環境保全の取り組みを実行する上で課題と感じていることはありますか。（○はいくつでも）

- 「人材・人手が確保できない」が 55.0%と最も多く、次いで「ノウハウが不足しており、技術的に困難である」が 26.4%、「資金が確保できない」が 25.5%となっている。



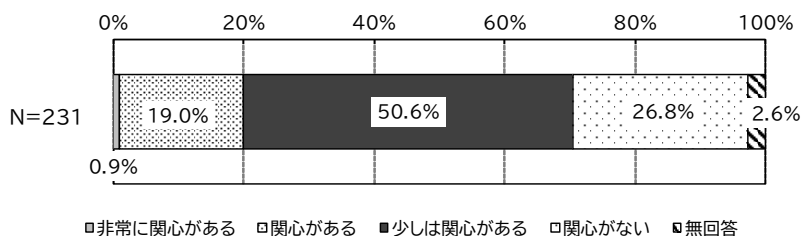
問 7 貴事業所の事業活動において、環境に配慮した取り組みを進める際、現在、どのような主体と連携していますか。
(○はいくつでも)

●「連携はしていない」が 51.5%と最も多く、次いで「行政」が 16.9%、「業界団体」が 16.0%となっている。



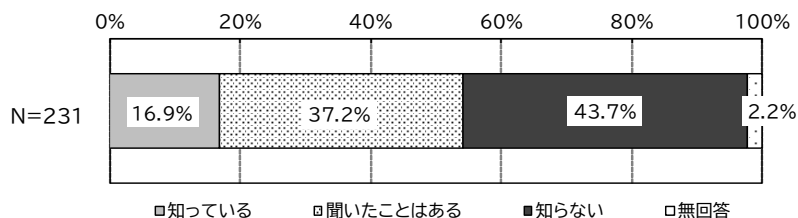
問 8 本市では、環境保全に対する意欲はあるものの、資金や人手が不足している学校・市民団体と、環境保全に対するノウハウやきっかけが不足している企業とのマッチングを進め、「環境パートナーシップ」を締結し、地域社会全体で四日市市の環境を創り上げていくことが必要であると考えています。貴事業所では、このような取り組みへの参加に関心がありますか。(○は1つ)

●「非常に関心がある」、「関心がある」、「少しは関心がある」を合わせた「関心がある傾向」は、70.5%となっている。



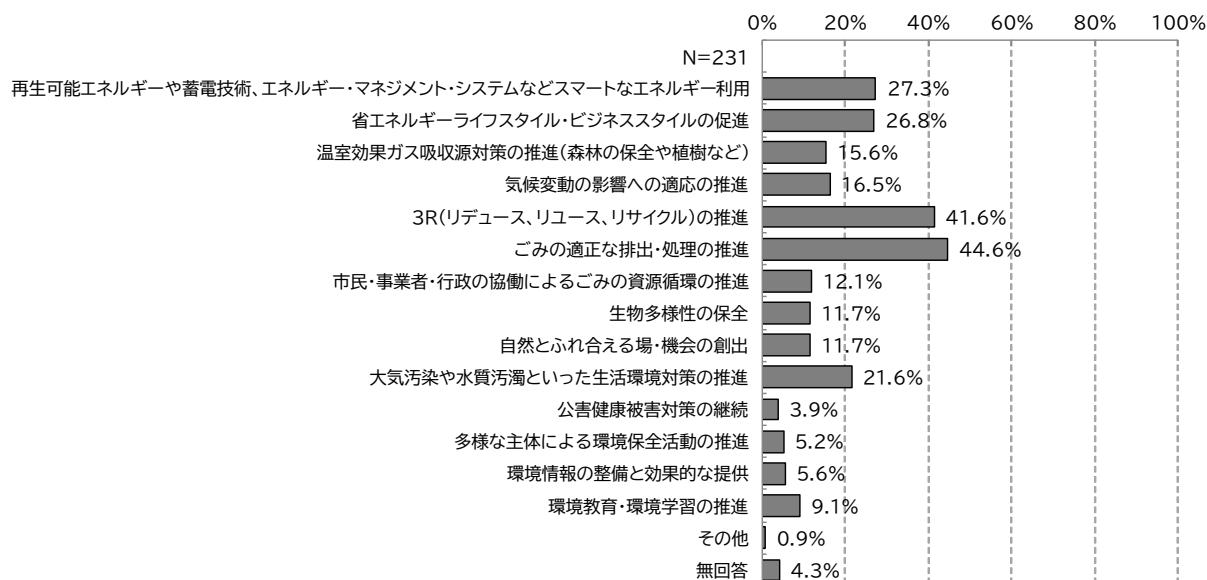
問 9 貴事業所は、「四日市市環境計画」を知っていますか。(○は1つ)

●「知らない」が 43.7%と最も多く、次いで「聞いたことはある」が 37.2%、「知っている」が 16.9%となっている。



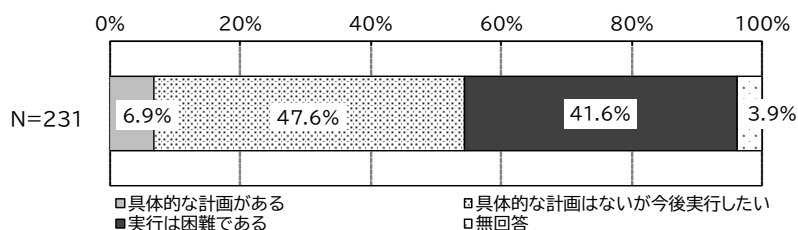
問 10 本市が取り組む施策のうち、貴事業所が重要と考えるものはどれですか。該当する番号に○印をつけてください。
(○は3つまで)

- 「ごみの適正な排出・処理の推進」が 44.6%と最も多く、次いで「3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進」が 41.6%、「再生可能エネルギーや蓄電技術、エネルギー・マネジメント・システムなどスマートなエネルギー利用」が 27.3%となっている。



問 11 産業都市である本市は、市域全体の二酸化炭素排出量の中で産業部門が占める割合が高いという特性があります。今後は、産業と環境を両立しつつ、事業活動に伴うCO₂排出量を大幅に削減する取り組みも重要と考えられますが、貴事業所におけるこうした取り組み（例：先進的な省エネ設備の導入、エネルギー転換、水素の利用など）の状況について、該当する番号に○印をつけてください。（○は1つ）

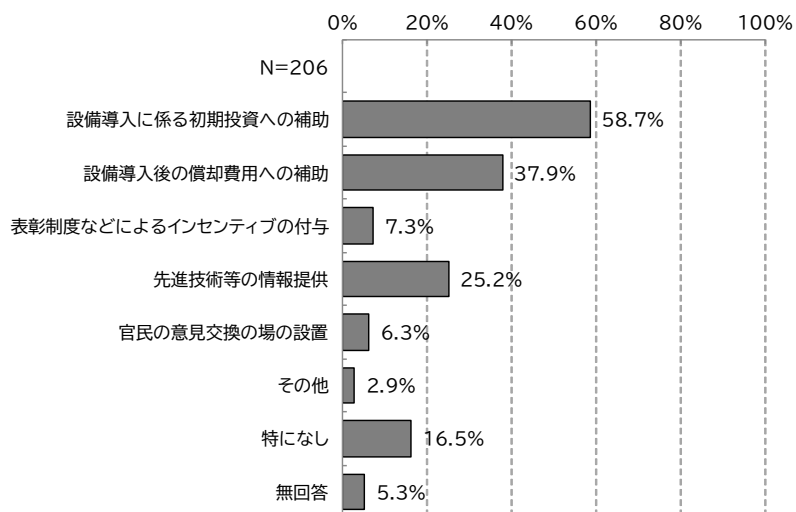
- 「具体的な計画はないが今後実行したい」が 47.6%と最も多く、次いで「実行は困難である」が 41.6%、「具体的な計画がある」が 6.9%となっている。



問 12 問 11 で「2」、「3」と回答した方にお聞きます。

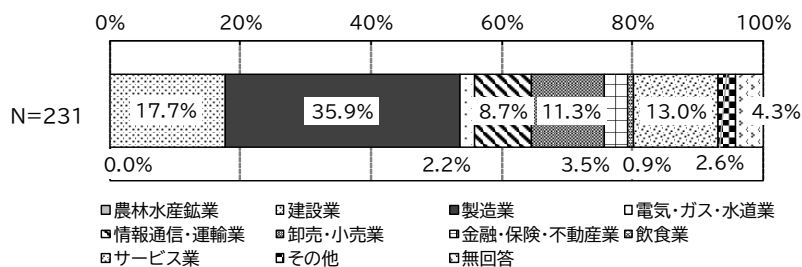
事業活動に伴うCO₂排出量を大幅に削減する取り組みを進めるため、市に期待することについて、該当する番号に○印をつけてください。（○はいくつでも）

- 「設備導入に係る初期投資への補助」が 58.7%と最も多く、次いで「設備導入後の償却費用への補助」が 37.9%、「先進技術等の情報提供」が 25.2%となっている。



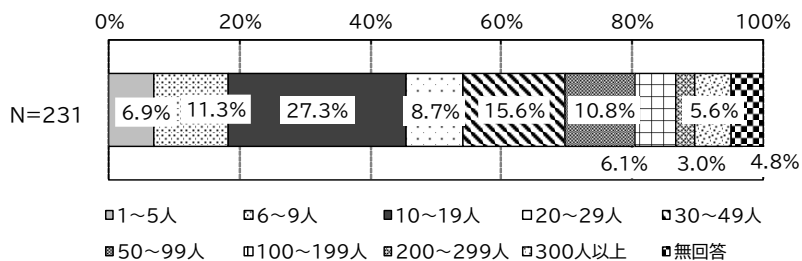
問 13-1 業種

- 「製造業」が 35.9%と最も多く、次いで「建設業」が 17.7%、「サービス業」が 13.0%となっている。



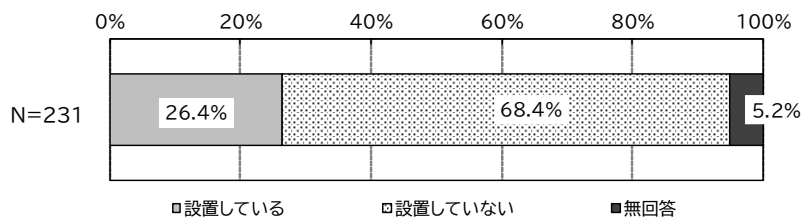
問 13-2 従業員数

- 「10～19 人」が 27.3%と最も多く、次いで「30～49 人」が 15.6%、「6～9 人」が 11.3%となっている。



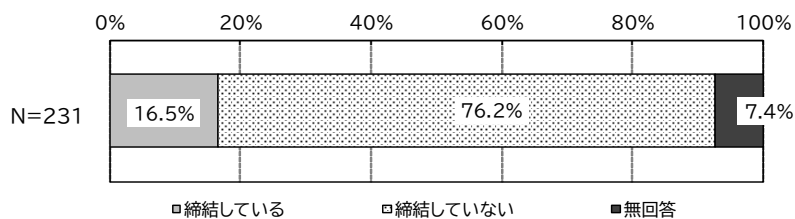
問 13-3 環境に関する業務や作業を取り扱う部署・担当者の設置状況

●「設置していない」が 68.4%、「設置している」が 26.4%となっている。



問 13-4 公害防止協定

●「締結していない」が 76.2%、「締結している」が 16.5%となっている。



問 13-5 所在地区

●「中部」が 17.7%と最も多く、次いで「塩浜」が 13.0%、「日永」が 5.2%となっている。

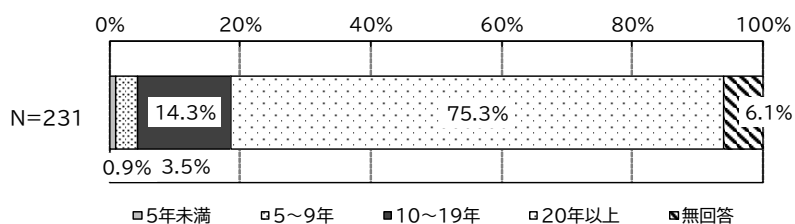
(N=231)

(%)

中部	富洲原	富田	羽津	常磐	日永
17.7	2.2	2.2	4.3	2.2	5.2
四郷	内部	塩浜	小山田	川島	神前
1.7	2.6	13.0	1.3	0.4	0.4
桜	三重	県	八郷	下野	大矢知
0	2.2	1.3	3	0.9	1.3
河原田	水沢	保々	海蔵	橋北	楠
3.9	0.9	2.2	2.2	3.0	2.2
その他	無回答				
16.5	7.4				

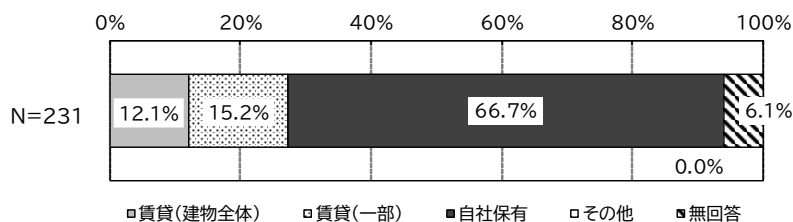
問 13-6 立地年数

●「20 年以上」が 75.3%と最も多く、次いで「10～19 年」が 14.3%、「5～9 年」が 3.5%となっている。



問 13-7 所有形態

- 「自社保有」が 66.7%と最も多く、次いで「賃貸（一部）」が 15.2%、「賃貸（建物全体）」が 12.1%となっている。



問 14 本市の環境面でのまちづくりに関する提案、期待、要望等があれば、ご自由にお書きください。

内容
●屋上、壁面緑化に対して市の補助があれば積極的に実施したい。(生垣は事業所には難しい。)
●環境負荷に対する企業努力をもっと認めて欲しい。いつでも企業が悪者にされる風潮があり残念だ。市民と企業との共生は実りつつある中、次は行政と企業との共生（＝連携）を深めていくことができればきっと四日市市はすばらしい発展をとげるのではないのでしょうか。
●病院・学校等の公共施設に、食品を納入していますが、その際使用時のペットボトルやプラスチック容器の引き取りを依頼されています。基本には使用者が処分することと思いますがいかがでしょうか。一升瓶などのリユースできる商品への変更などをお願いしたいと思います。
●低炭素社会実現のためのマイカー規制、交通の促進を各企業に働きかけ、インセンティブを付与する施策を期待します。
●道路整備交通量の増加に道路(交通)整備が追いついていない。特に朝夕、右折車両が多い(右折時間が短い)為、信号無視する危険な交差点が多い。幹線道路(あさけ通り北部)でも、夜間照明が少ない為、歩行者、自転車の確認が遅くなる。
●話は違いますが自宅周辺の市有地をきちんと整備してほしい。四日市は大きな目にかかる所には多額に費用を使われていると思いますが末端の整備もきちんとしていただきたい。鈴鹿市と比較してもあまりにも違いすぎる。
●環境に対して取り組みたいが、金銭的な問題と、情報が少ないと感じる。日本全体として自社だけでなく皆で何に取り組むといのかがよく分からない。
●環境問題は弊社にとって重要課題と認識しております。今後、CO ₂ 削減等の環境対策に取り組んでまいりますのでご指導のほど、よろしくお願い致します。
●弊社はゴルフ場経営しております。周辺住民の方々への環境対策を重視しておりますが、生活道路(市の管理)の整備も前向きに対処していただきたいと思います。
●環境を良くする為にはPRが足りないと思う。
●悪質で大量にCO ₂ を排出する事業所をなくすため、市で条例を定め、CO ₂ 排出規制を厳しくする。違反者には罰金を納めさせるか、四日市から退場してもらう。
●テイクアウトが多くなり、ゴミの投げ捨てが多くなっていると感じます。また休日に市民が自然と触れ合える、四季の変化を感じる事ができることが精神衛生上、良いことと思います。環境教育と生物多様性に取り組んでください。
●日永地区の排水処理能力アップをお願いしたい。大雨時、すぐ川が氾濫しそう。大潮時と重なると必ず氾濫する。
●難しい問題も大切ですが身近な所でゴミのポイ捨て等の自然を破壊する行為を止める事に依り、美しい町づくりが出来るのではないかと思います。
●企業と地域を結びつける機会、方法をもっと提案して行って欲しい。
●環境規制に関しては他の地域とのバランスを考えて欲しい。緑地面積率については地域と工場のそれぞれにメリットが出るような方策を考えて欲しい。

(4) 調査の結果（市民活動団体）

将来の四日市市の望ましいまちの姿について

- 住民の意識を高めながら、住民と話し合って施策を進めること。
- 10年後の姿を描いて共有できると、まとまりができるかもしれない。
- 成功事例を示すことで、活動を促すことも重要。
- SDGsの拠点を、市内に作ってはどうか。ICETTの隣に作ることで、イメージアップにもなる。
- 環境行政によって、住んでもらえるまちになること。自分のまちを自慢できるように、自信と誇りを持って環境先進都市と思えるようになってほしい。
- 地域での連携ということでは、地域の保幼小中高が連携しながら環境教育ができるとよい。近くの小学校で高校生が教えるなど。生徒たちも、人に教えることで理解が深まり、コミュニケーション能力の向上にもつながる。
- これからはスモールタウンを目指すべき。山に近い環境のよいところで、必要な機能がそろったまちを作り、駅を結べば利便性も確保できる。ヨーロッパでは、まちとまちの間に自然があるが、日本は狭いためか、自然を壊してきてしまった。
- 環境に関する取組は他の分野との関連しているものも多い。例えば、食品ロスについて、環境の取組でもあるが、健康の方でも取組があるなど、結局同じ取組になっていることもあるので、互いに連携できるようにすべきである。
- 週末に四日市市に行こうという人がいない。JRの活性化が必要である。国体もあるので、まちの整備を進めて欲しい。
- 地域循環共生圏について、広域で考える必要がある。菰野町と連携し、水の循環を考える。
- 一度に全てを行うのではなく、モデル的に取り組んでいく必要がある。
- 自治会の意見が強い。市、自治会、団体が一緒に考える必要がある。
- 産業の発展は必要であるが、四日市市には魅力的な自然があることを発信すべきである。
- 外で交流すると「四日市市＝公害」のイメージがある。四日市市の自然をもっとPRしたい。
- 豊かな緑があり、豊かな暮らしができること。
- 市内をゾーニングして、地域の特性に合わせた将来像を掲げて良い。
- 将来を見据えたエネルギー対策ができるまち（山を切り崩して太陽光発電を行っているが、20年後、30年後はその廃棄物対応が迫られる。処理技術は今はない。）
- ごみが少なく、ごみを適正に処理できるまち（今後、プラスチックごみはさらに増えると考えられる。マイクロプラスチックごみを含めて、その対策をしっかりとって欲しい。）
- 気候変動（の影響）に適応する。自然と共生する。
- 「物流」と「日常交通」を分けることはできないか。

望ましいまちの姿の実現に向けた各主体の役割と連携のあり方について

- やる気がある人を伸ばすような支援が必要。水俣市では、意識がある人を集めて議論する場を設けたことによって、まちが良くなったと聞いている。
- 環境団体といっても、方向性は様々であり、エコパートナーの団体間でも、連携は難しいと感じている。
- 支えあい基金のような、自由度の高い補助金が使えるとよい。
- 企業は、コストがかかる環境に関わる取組は、理解はしていても動きにくいものである。そこで、行政が指針を出すと取り組みやすくなる。
- 大人が動くことより、子どもが取り組むことの方が、周囲の理解や支援を受けやすい。
- 環境に関する取組を広報するには、行政が大きく広めること、キーマンに伝えること、企業におとすことが効果的と考えている。市民全員に広めることは難しい。
- 活動のリーダーを育てることが重要。30歳代ぐらいの人に、新しい団体を作らせること。
- 他の取組と環境を結びつけることで、環境先進都市としてアピールすることが効果的。B1グランプリでも、どんぶりを客に持ち帰ってもらうことによって、環境にやさしい取組とすることが考えられる。
- 行政の役割は、規制すること、啓発すること、助成することで、この組み合わせである。
- 環境審議会のメンバーに、公募の市民を入れてほしい。
- 四日市市出身の有識者を大切にすること。
- SDGsは環境だけの取組ではないので、いろいろな分野で環境と結びつけること。
- 行政の縦割りの弊害を解消するために、SDGsを生かしていくことができる。
- 三重県環境学習情報センターが四日市市内にあり、センターで活動している主体で連携が生まれることもある。

- 地域において、生活環境について話し合える協議会ができ、様々な分野の人が意見交換できるとよいと考えている。自分たちが置かれている状況に応じて何をすべきか考えることが必要である。
- 地域の企業も社会貢献を考えるようになってきているので、協賛企業として名前を出すことでのイメージアップもできる。
- 市内企業に向けた発信としては、SDGs の取組に関して、金融機関の融資において、考慮するようなことができると進みやすくなる。
- SDGs について、CSR と同じように捉えている人が多いと感じているが、付加的なものではなく、本業の中で考えるべきである。SDGs との関係を掘り下げて考え、何で商売するかを考える。
- 行政も、施策と 17 のゴールの関係をラベリングまではしているが、それぞれの課だけの取組ではなく、課として何を大事にしているかを考え、他の部局との連携まで含めることが必要である。そのような、つながっていく仕組みを行政の中で作ることが重要。市民に対しても、それが他とつながっているという考え方を広げていくこと。
- 環境保全は、産業と結びつけることが重要。四日市市の西の方では農業が衰退しているが、農業だけでの取組も難しいので、環境と結びつけて、環境保全の取組が農業にも役立つような取組にする必要がある。農業の衰退は、災害の発生につながる可能性もある。
- 環境保全の活動をボランティアに頼ることには限界がきている。地域でお金が回らないことと、70 歳ぐらいまで働き続けるようになってきているので、これまでのようなボランティアの供給が絶たれてしまう。一定のお金が入るような方法でないと、活動が継続しない。
- 地域の中に、キーマン、コーディネーターが必要である。
- 企業は、本業の中でやれるようにしないといけない。
- エコパートナーは安定していない。担い手にはなり得ない。エコパートナーから情報をもらって、施策に活用していく。意見を聞く場・機会が必要である。団体には隠している情報がある。ヒアリングして、後世に残す。
- 自治会と団体の意見の両方を尊重する必要がある。
- 公害未来館との連携。
- 環境保全活動や環境対策に尽力する企業はたくさんあるので、企業に声がけして、地域自治体にも協力を呼び掛ける。関心のある市民が誰でも参加できるように、広報やチラシ、ポスター等で参加を募る。
- 部署横断的な議論のためにも、市としてどういったまちを目指すかというビジョン、判断が必要である。
- 議会の理解は必要である。

資-2 令和 4 年度 アンケート調査の結果

(1) 調査の概要

① 調査目的

- 本調査は、市民および市内事業者（中小事業者、協定事業者）を対象に地球温暖化問題や再生可能エネルギー等に関する取組み状況等を質問し、2050 年までのカーボンニュートラル社会の実現に向けた本市における具体的な施策等を検討するための、参考とすることを目的としました。

② 調査対象及び方法

- 市民アンケートの調査対象は、四日市市に住民登録がある 18 歳以上の方から無作為に 2,000 人を抽出しました。調査は、紙面調査票を郵送配布し、郵送又はウェブサイトで回答を回収する方法で実施しました。調査実施期間は、2022（R4）年 8 月 31 日（水）から 9 月 14 日（水）までの期間としました。
- 中小事業者アンケートの調査対象は、四日市内の事業者 300 事業所を対象としました。調査は、紙面調査票を郵送配布し、郵送で回答を回収する方法で実施しました。調査実施期間は、2022（R4）年 10 月 3 日（月）から 10 月 17 日（月）までの期間としました。
- 協定事業者アンケートの調査対象は、四日市市と公害防止協定を締結している事業者 47 事業所を対象としました。調査は、紙面調査票を郵送配布し、郵送で回答を回収する方法で実施しました。調査実施期間は、2022（R4）年 10 月 3 日（月）から 10 月 17 日（月）までの期間としました。

③ 回収結果

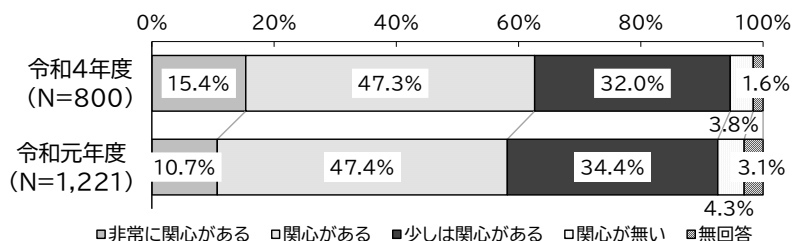
- アンケート調査の回収結果は、以下のとおりです。

対象	配布数	回収数（N）	回収率
市民	2,000	800	40.0%
中小事業者	300	97	32.3%
協定事業者	47	36	76.6%

(2) 調査の結果（市民）

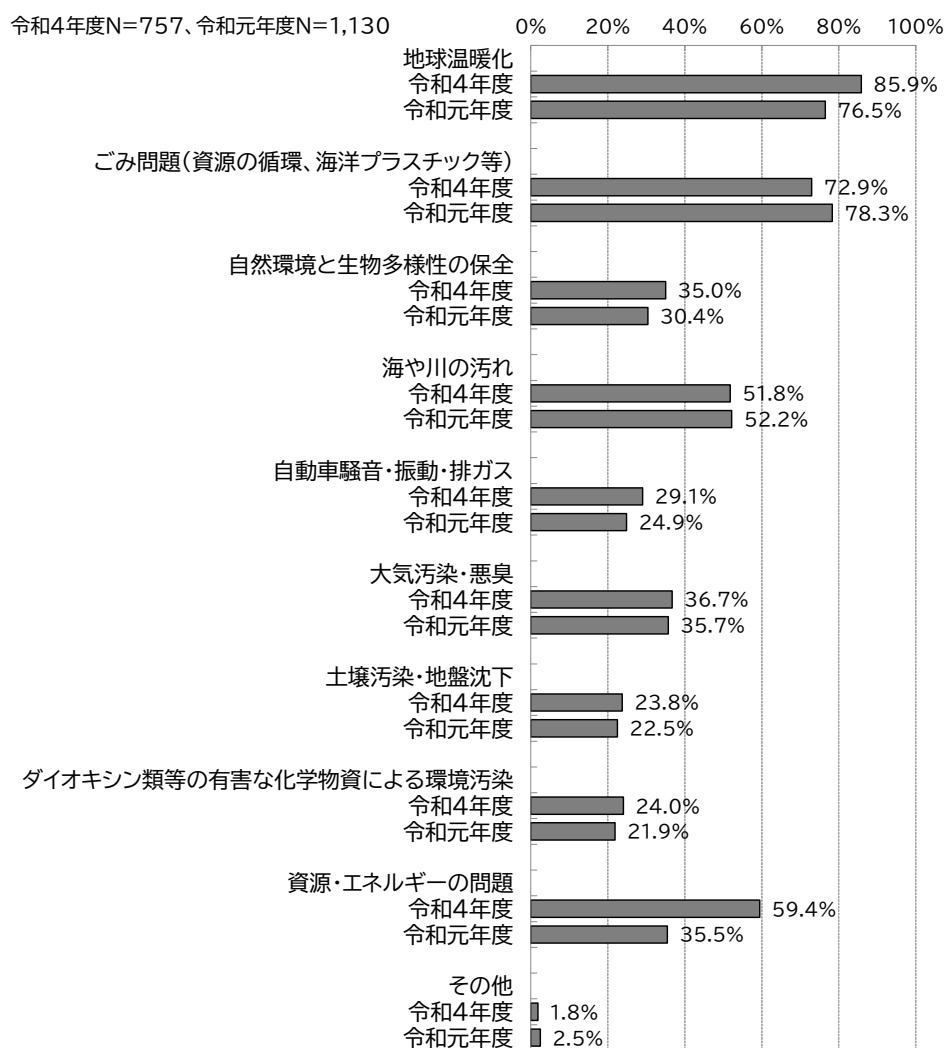
問 1 あなたは環境問題に対して関心がありますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 「関心がある」が最も多く 47.3%、次いで「少しは関心がある」が 32.0%、「非常に関心がある」が 15.4%でした。令和元年度に実施された調査と比較すると、「非常に関心がある」と回答した割合が 4.7%増加しています。



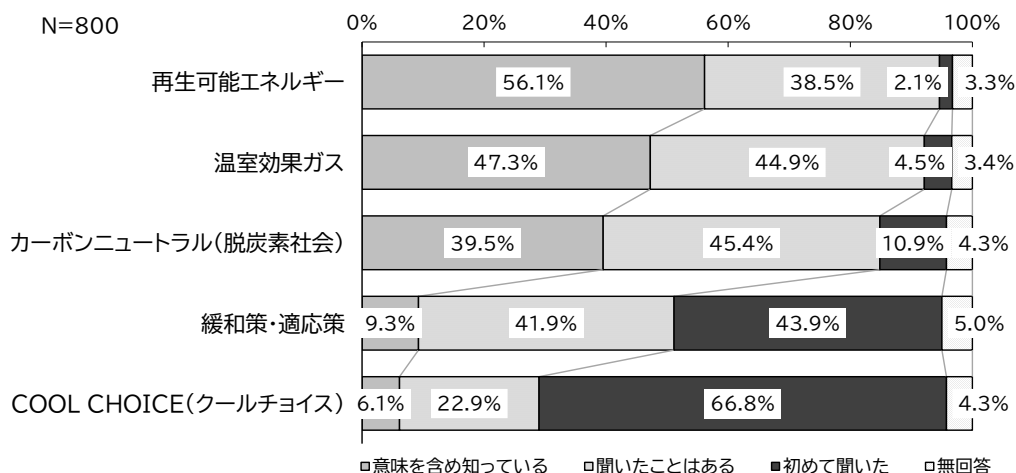
問 2 問 1 で「1. 非常に関心がある」、「2. 関心がある」、「3. 少しは関心がある」を選んだ方にお尋ねします。現在どのような環境問題に関心がありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 「地球温暖化」が最も多く 85.9%、次いで「ごみ問題」が 72.9%、「資源・エネルギーの問題」が 59.4%でした。「地球温暖化」は令和元年度に実施された調査では 76.5%でしたが、令和4年度の調査では 9.4%増加となり、最も関心のある環境問題になりました。



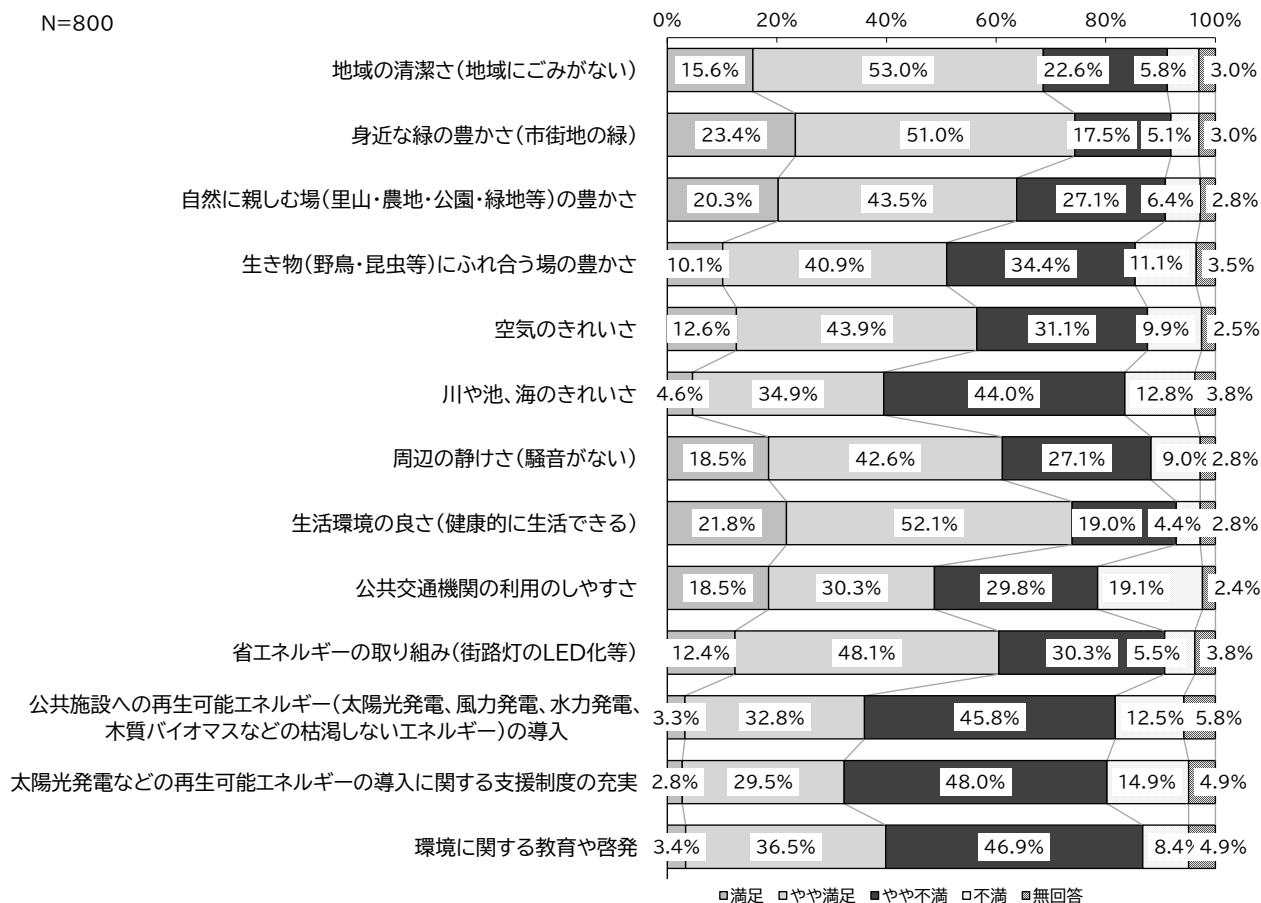
問 3 あなたは地球温暖化対策に関する以下の言葉を知っていますか。それぞれの言葉についてあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 「意味を含めて知っている」または「聞いたことはある」と回答した割合（認知度）は、「再生可能エネルギー」が最も多く 94.6%、次いで「温室効果ガス」が 92.2%、「カーボンニュートラル」が 84.9%でした。



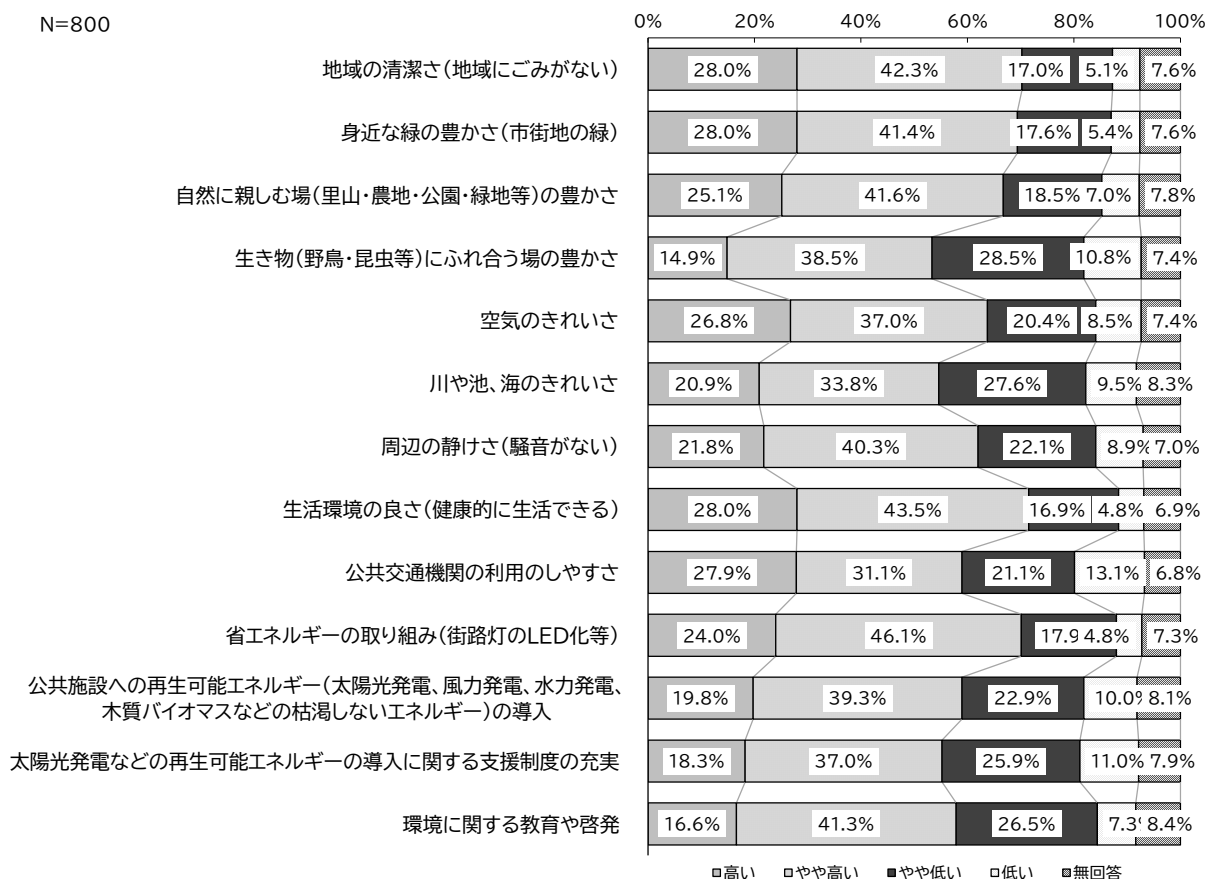
問 4 現在の四日市市の環境や市の取り組みについて、あなたの満足度と期待度をお聞きます。以下の 1～13 のそれぞれの項目について、あなたの考えや意見に近い番号 1 つに○をつけてください。（満足度）

- 現状の満足度では、「満足」または「やや満足」と回答した割合が、「身近な緑の豊かさ（市街地の緑）」で最も多く 74.4%、次いで「生活環境の良さ（健康的に生活できる）」が 73.9%、「地域の清潔さ（地域にごみがない）」が 68.6%でした。



問 4 現在の四日市市の環境や市の取り組みについて、あなたの満足度と期待度をお聞きます。以下の 1～13 のそれぞれの項目について、あなたの考えや意見に近い番号 1 つに○をつけてください。（期待度）

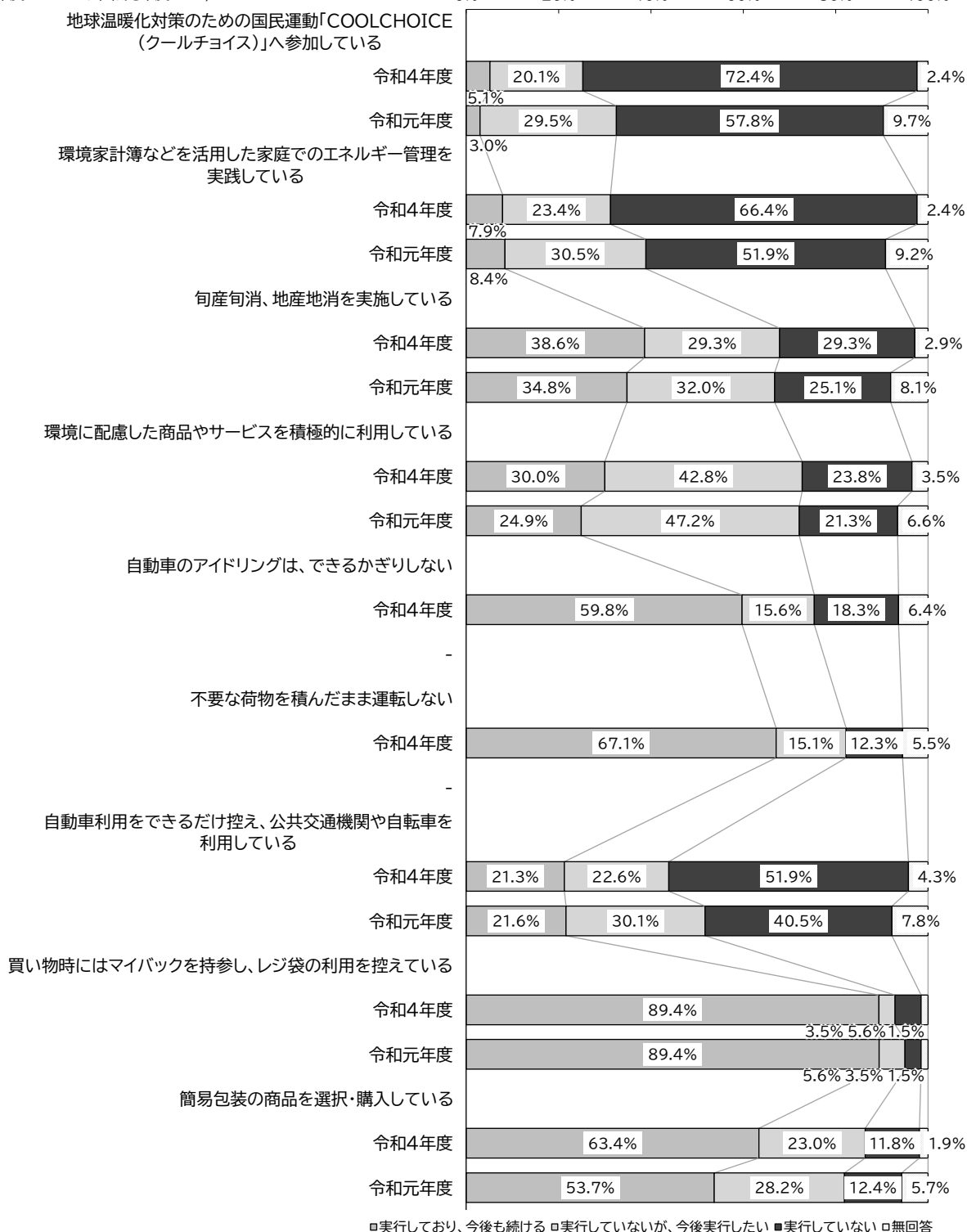
- 将来の期待度では、「高い」または「やや高い」と回答した割合が、「生活環境の良さ（健康的に生活できる）」で最も多く 71.5%、次いで「地域の清潔さ（地域にごみがない）」が 70.3%、「省エネルギーの取り組み（街路灯の LED 化等）」が 70.1%でした。



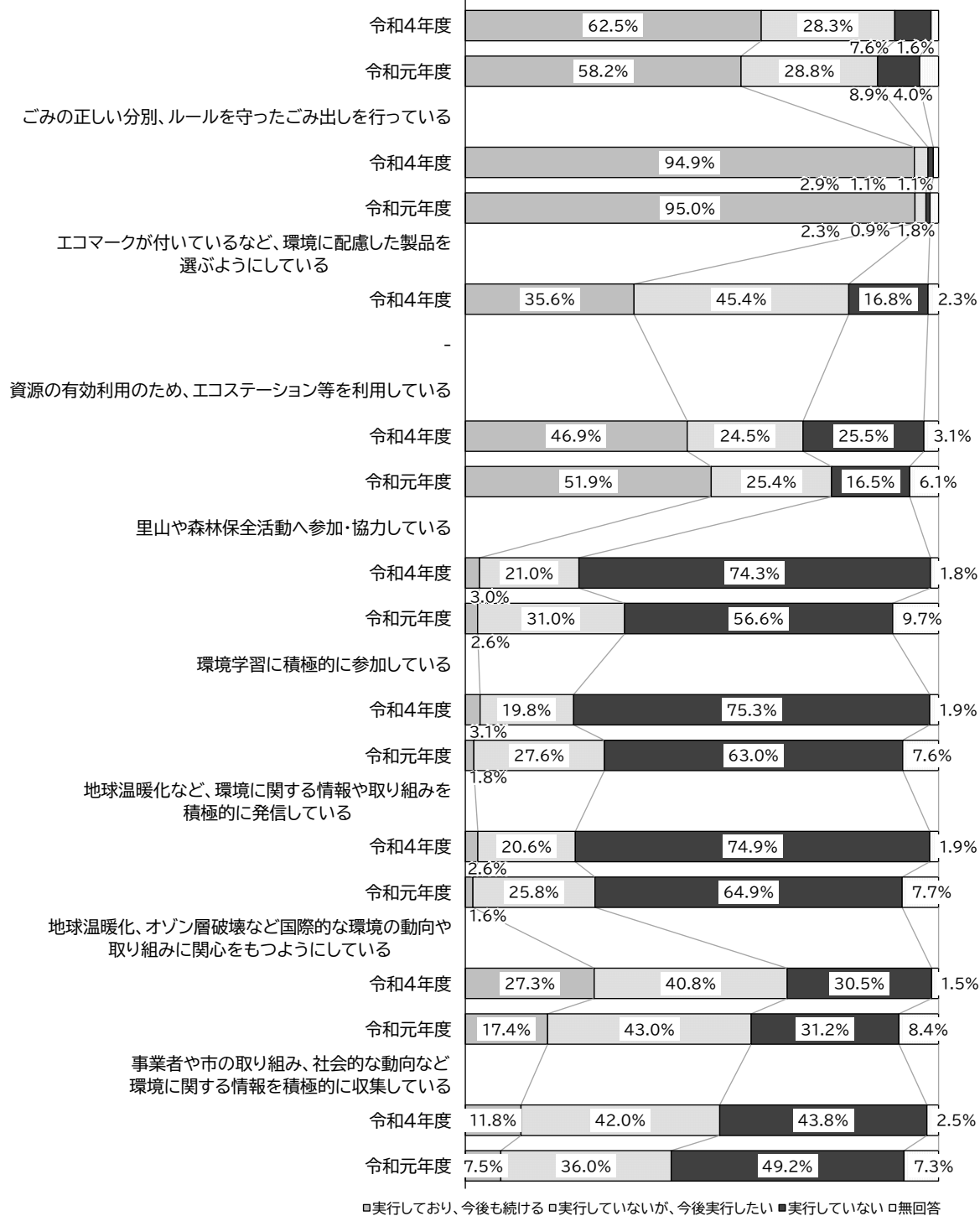
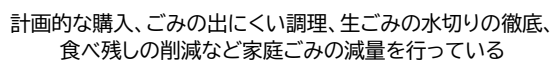
問 5 あなたが（または、あなたの家庭で）日ごろ行っている環境保全の取り組みについてお聞きます。以下の 1～18 のそれぞれの取り組みについて、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 「実行しており、今後も続ける」と回答した割合は、「ごみの正しい分別、ルールを守ったごみ出しを行っている」が最も多く 94.9%、次いで「買い物時にはマイバッグを持参し、レジ袋の利用を控えている」が 89.4%、「不要な荷物を積んだまま運転しない」が 67.1%でした。令和元年に実施された調査と比較すると、「地球温暖化、オゾン層破壊など国際的な環境の動向や取り組みに関心をもつようにしている」で「実行しており、今後も続ける」と回答した割合が最も増加しています。

令和4年度N=800、令和元年度N=1,221



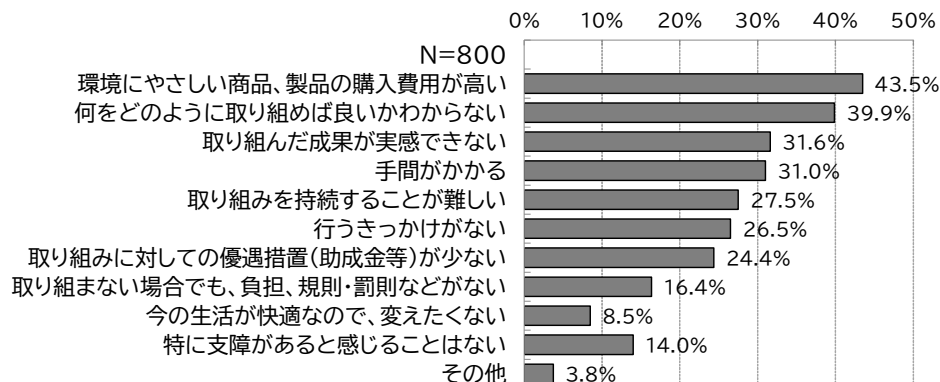
令和4年度N=800、令和元年度N=1,221



資料編

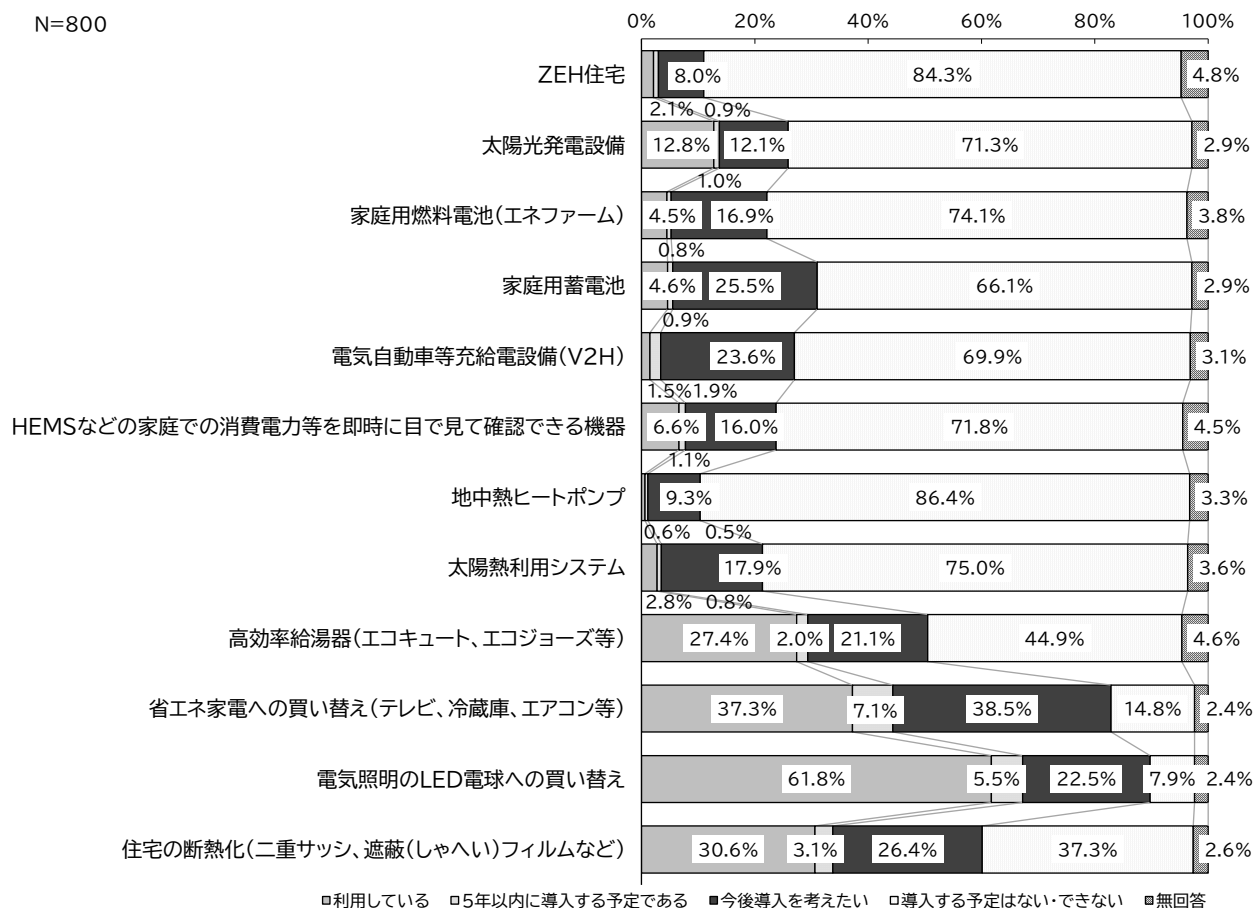
問 6 問 5 にあるような環境保全の取り組みを実施するために、支障があると感じるものは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 環境保全の取り組みを実施するために、支障であると感じる事柄は、「環境にやさしい商品、製品の購入費用が高い」が最も多く 43.5%、次いで「何をどのように取り組めば良いかわからない」が 39.9%、「取り組んだ成果が実感できない」が 31.6%でした。



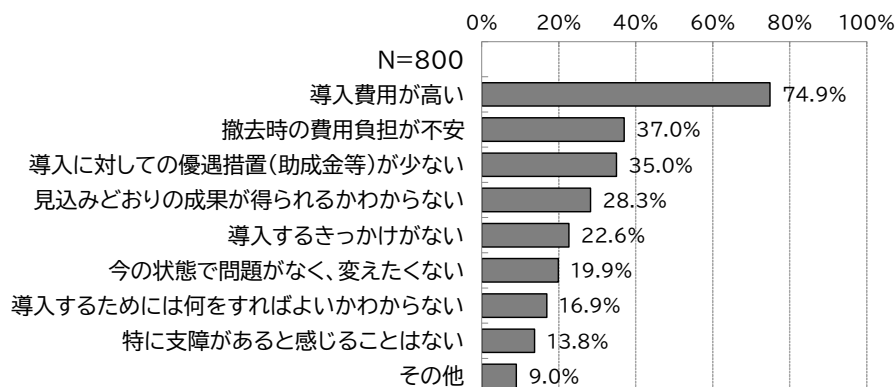
問 7 あなたの家では将来、省エネルギーや再生可能エネルギーの利用に向け、以下の 1～12 の関連機器について、設置・利用や取り組みのお考えはありますか？それぞれの関連機器について、最も近い番号を 1 つ選んで○をつけてください。

- 今後利用したい（「5 年以内に導入する予定である」または「今後導入を考えたい」）と回答した割合は、「省エネ家電への買い替え（テレビ、冷蔵庫、エアコン等）」が最も多く 45.6%、次いで「住宅の断熱化（二重サッシ、遮蔽（しゃへい）フィルムなど）」が 29.5%、「電気照明の LED 電球への買い替え」が 28.0%でした。



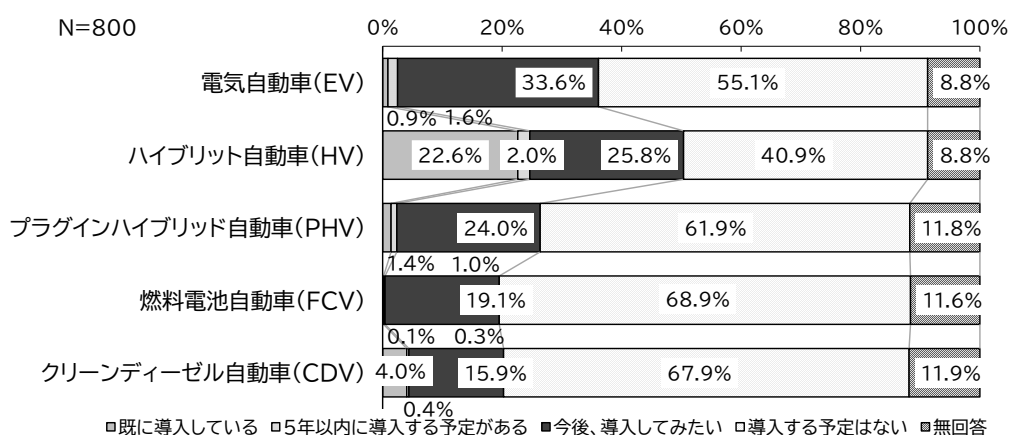
問 8 問 7 にあるような省エネ・再生エネ機器を導入するのに、支障があると感じるものは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 省エネ・再生エネ機器を導入するのに、支障があると感じる事柄の割合は、「導入費用が高い」が最も多く 74.9%、次いで「撤去時の費用負担が不安」が 37.0%、「導入に対しての優遇措置（助成金等）が少ない」が 35.0%でした。

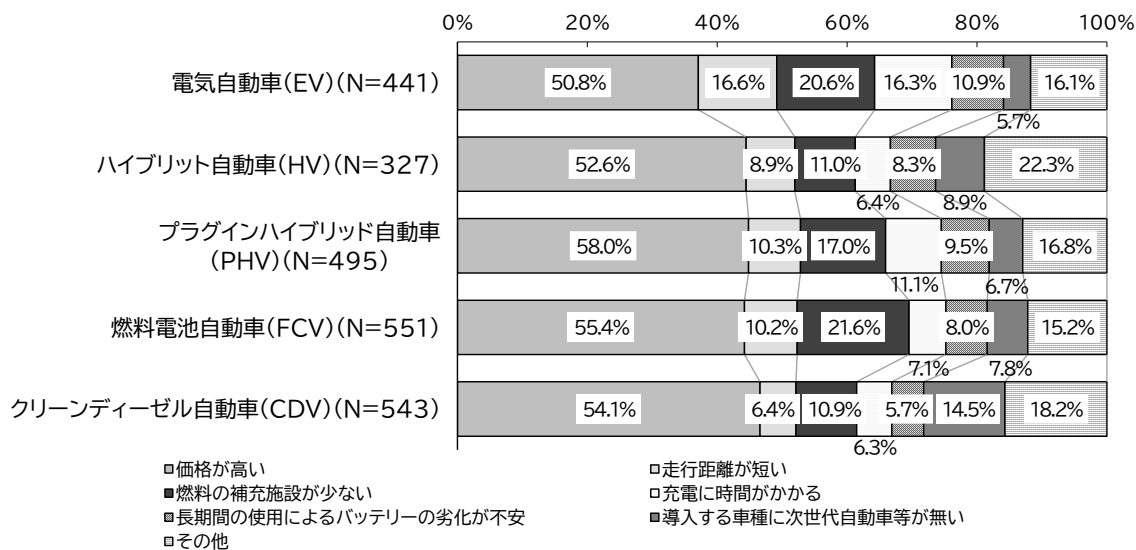


問 9 次世代自動車には、主に電気自動車、ハイブリット自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車などがあります。あなたは、次世代自動車を導入したいと思いますか。以下の 1～5 のそれぞれの自動車について、あてはまる番号を 1 つ選んで○をつけてください。また、「導入する予定はない」とお答えいただいた方は、その理由を網かけ欄の番号 1～7 から選び、ご記入ください。

- 次世代自動車のうち「既に導入している」と回答した割合は、「ハイブリット自動車」が最も多く 22.6%でした。「5 年以内に導入する予定がある」又は「今後導入してみたい」と回答した割合は、「電気自動車」が最も多く 35.2%、次いで「ハイブリット自動車」が 27.8%、「プラグインハイブリッド自動車」が 25.0%でした。また、次世代自動車を「導入する予定はない」と回答した理由は、どの車種においても、「価格が高い」が最も多い結果でした。

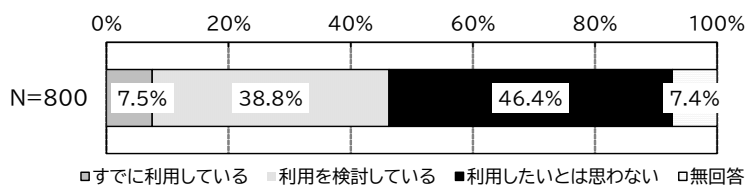


<導入する予定はない：理由>



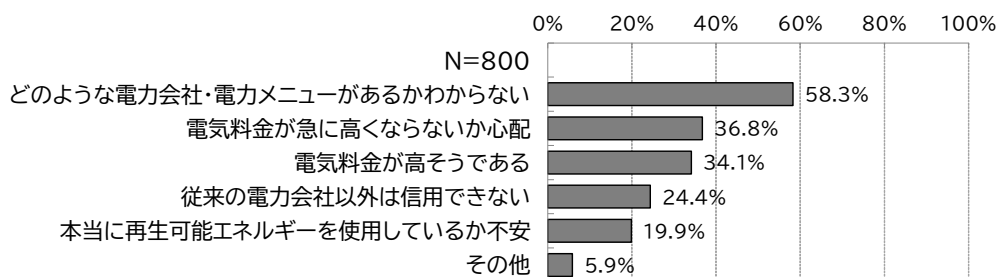
問 10 住まいの契約電力を「再エネ電力メニュー」に切り替えることでも、再生可能エネルギーから作られた電力を活用することができます。再生可能エネルギーの比率が高い電力会社や電力メニューの利用について、どのように考えていますか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

- 「利用したいとは思わない」が最も多く 46.4%、次いで「利用を検討している」が 38.8%、「すでに利用している」が 7.5%でした。



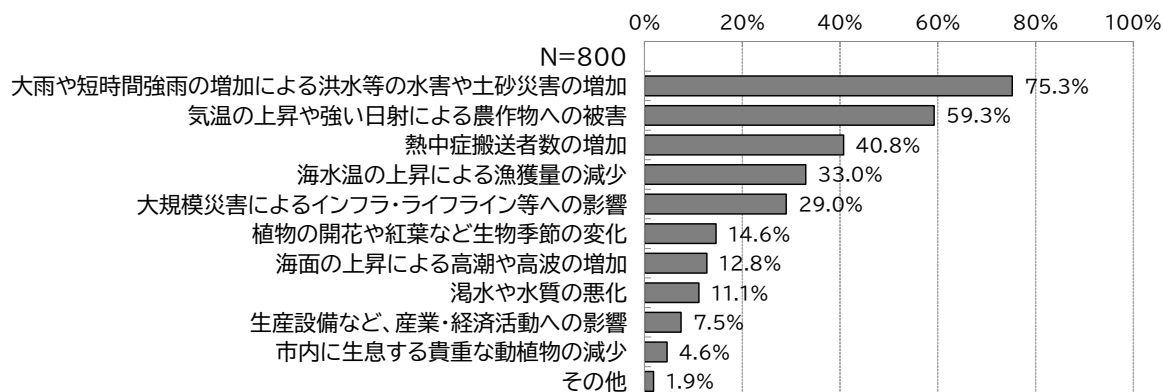
問 11 再生可能エネルギーの比率が高い電力会社や電力メニューを利用するために、支障があると感じるものは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 再生可能エネルギーの比率が高い電力会社や電力メニューを利用するために、支障があると感じる事柄は、「どのような電力会社・電力メニューがあるかわからない」が最も多く 58.3%、次いで「電気料金が急に高くないか心配」が 36.8%、「電気料金が高そうである」が 34.1%でした。



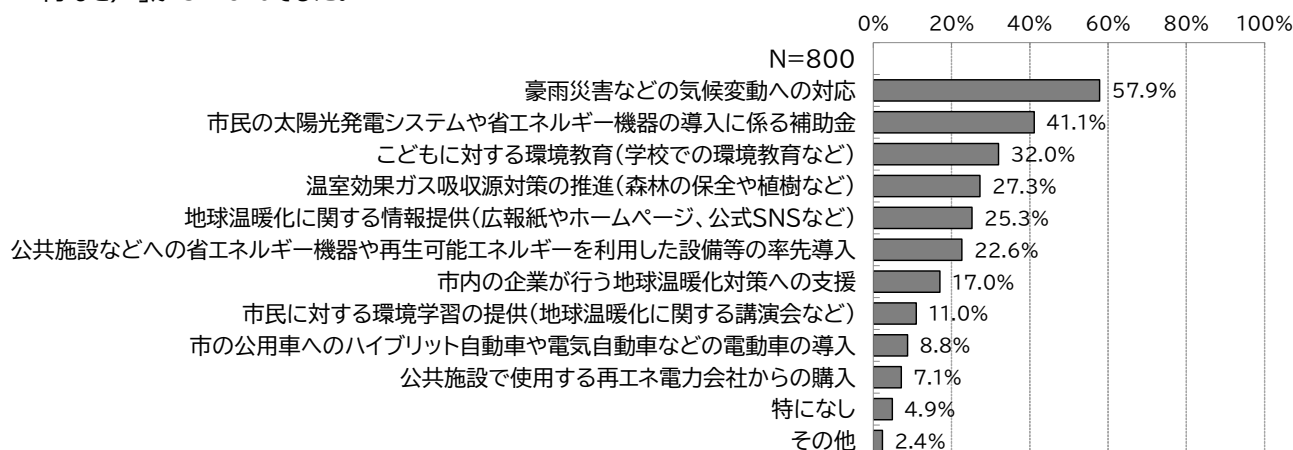
問 12 地球温暖化による影響として、以下のようなことが代表例としてあげられます。あなたが身近に感じていることはありますか。あてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

- 地球温暖化による影響として身近に感じている事柄は、「大雨や短時間強雨の増加による洪水等の水害や土砂災害の増加」が最も多く75.3%、次いで「気温の上昇や強い日射による農作物への被害」が59.3%、「熱中症搬送者数の増加」が40.8%でした。



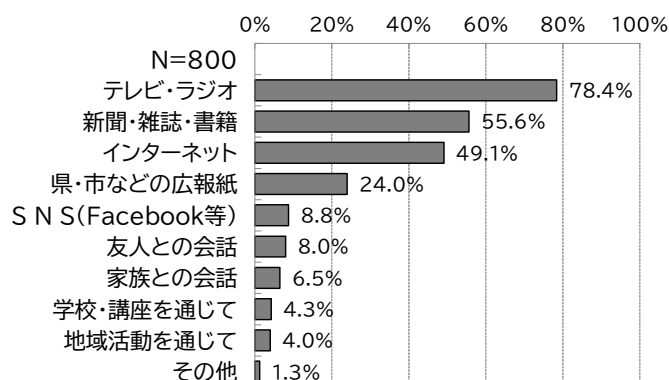
問 13 四日市市で重点的に進めて欲しい地球温暖化対策について、あてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

- 推進を希望する温暖化対策は、「豪雨災害などの気候変動への対応」が最も多く57.9%、次いで「市民の太陽光発電システムや省エネルギー機器の導入に係る補助金」が41.1%、「こどもに対する環境教育（学校での環境教育など）」が32.0%でした。



問 14 あなたは地球温暖化問題に関する情報を主にどこから得ていますか。あてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

- 情報収集のための媒体は、「テレビ・ラジオ」が最も多く78.4%、次いで「新聞・雑誌・書籍」が55.6%、「インターネット」が49.1%でした。



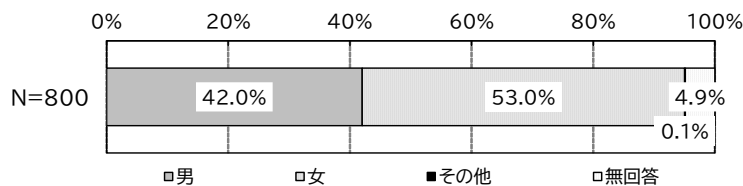
問 15 温暖化防止に関する取り組みを市全域で推進するにあたって、ご意見・ご提案等がありましたら、自由にお書きください。

● 代表的なものを抜き出して掲載いたします。

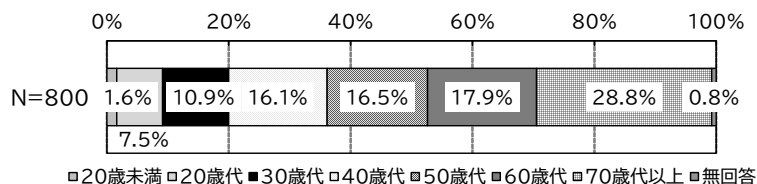
分類	内容	件数
自然環境	・自然を守り、緑の多い町にしてほしい。 ・最近やたら太陽光発電のパネルがみられるが、かえって自然破壊になり、外観も悪い。	12 件
生活環境	・歩道やバス停等でゴミのポイ捨てが多くみられる。これらのゴミが水路に入り、海に流れ出す。	10 件
行政	・再生可能エネルギーを市民や企業が容易に利用できる政策を望みます。 ・目先にとらわれず継続的に改善出来る施策と費用対効果を重視した取り組みを実行して欲しい。 ・国や行政がもっと積極的に主導して取り組んでいかないと、個人まで浸透していくのに時間がかかると思う ・役所と市民が連携して地球温暖化を進めてほしい。	37 件
公共施設・公共交通機関	・公共施設の再生可能エネルギー使用拡大と公共交通機関の拡充を推進して欲しい。	8 件
補助	・大型の商業施設や工場、住宅等への再生可能エネルギーの導入による助成金を増やす等、地球温暖化防止に仕組みやすい制度を作って欲しいです。 ・興味はあるが金銭的な問題もある為、補助金等に関しての情報を増やしてもらえると各家庭でも導入しやすくなると思います。 ・太陽光パネルや蓄電値購入の補助金を増やして、個人宅にも導入されて自家発電になると災害時にも使えていいと思います。	25 件
道路・車両・歩行者	・特に地面が熱いので、道路を舗装する時には熱を発生しない素材を使って欲しい。 ・木かげのある、散歩したくなる街にしてください。	11 件
教育・啓発・情報	・子供も大人も楽しく学べる、イベントに参加できるなどの機会があればぜひ参加したいと感じます。 ・市民一人一人が家庭で積極的に関与できるところまで持っていくことが必要だと思うので、具体的な内容で直接的にメッセージが市民に届くようなやり方を重視して推進頂けると効果的であろうと思う。 ・若者が意欲的に取り組めるような策があれば、環境活動に参加する人も増えると思います。 ・四日市公害のレッテルを変換する為にも、率先して取り組むアピールを外部に発信していただけたらと思います。 ・取り組んだ成果が実感できない事が多いので改善してほしい。	57 件
子供・高齢者	・子供たちに良い未来を残してあげられるようにして欲しいです。	6 件
企業	・個人で取り組むには限りがあるので、企業や工場などの多くの団体が取り組むことで大きな成果を上げていく方が一番ではないでしょうか？ ・工業が特徴の四日市市として「水素」を使った企業活動経済発展を推進してほしい。	6 件
3R	・ゴミ削減及び使用可能な物のリサイクル等を行ない無駄をなくす。	7 件
再生可能エネルギー	・15～21 年後に迎える太陽光パネルの処理についてはどう考えているのですか？これが一番重要なことと思いますが。	9 件
その他エネルギー	・脱炭素社会を目指すことは、大変素晴らしいこととは思いますが、国内資源不足に対する対策が重要かと。	7 件

※温暖化防止に関するご意見以外も含まれています。

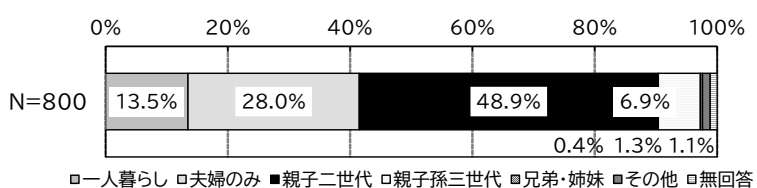
属性 1 性別



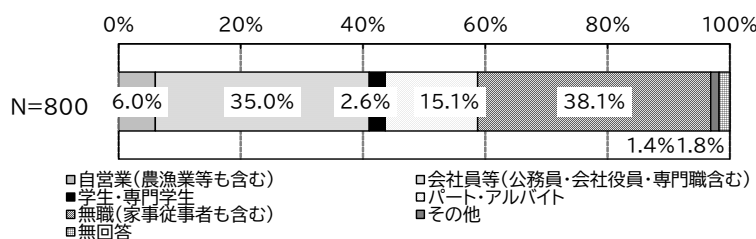
属性 2 年齢



属性 3 家族構成



属性 4 職業



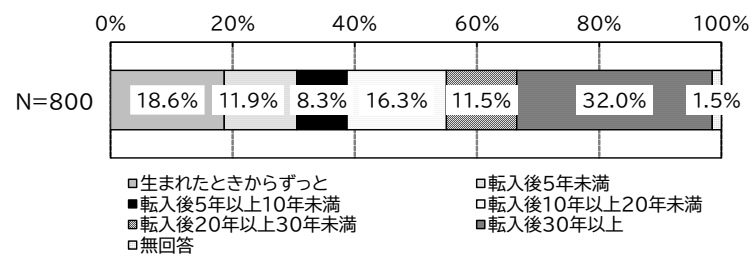
属性 5 お住いの地区

(N=800)

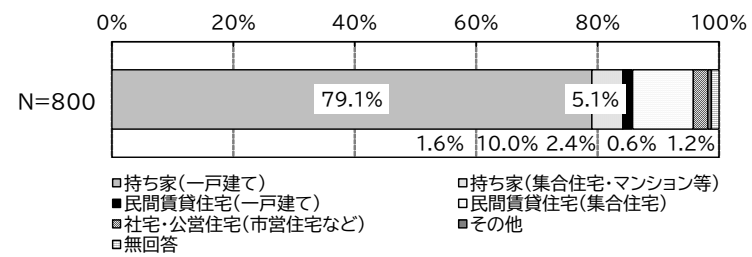
単位 : %

中部	富洲原	富田	羽津	常磐	日永
6.4%	2.8%	4.6%	5.5%	8.0%	5.9%
四郷	内部	塩浜	小山田	川島	神前
6.0%	6.0%	2.5%	1.3%	4.4%	2.5%
桜	三重	県	八郷	下野	大矢知
5.9%	6.5%	2.1%	4.8%	2.0%	5.0%
河原田	水沢	保々	海蔵	橋北	楠
1.4%	0.5%	2.5%	4.0%	2.0%	2.8%
わからない	無回答				
3.9%	1.0%				

属性 6 居住年数



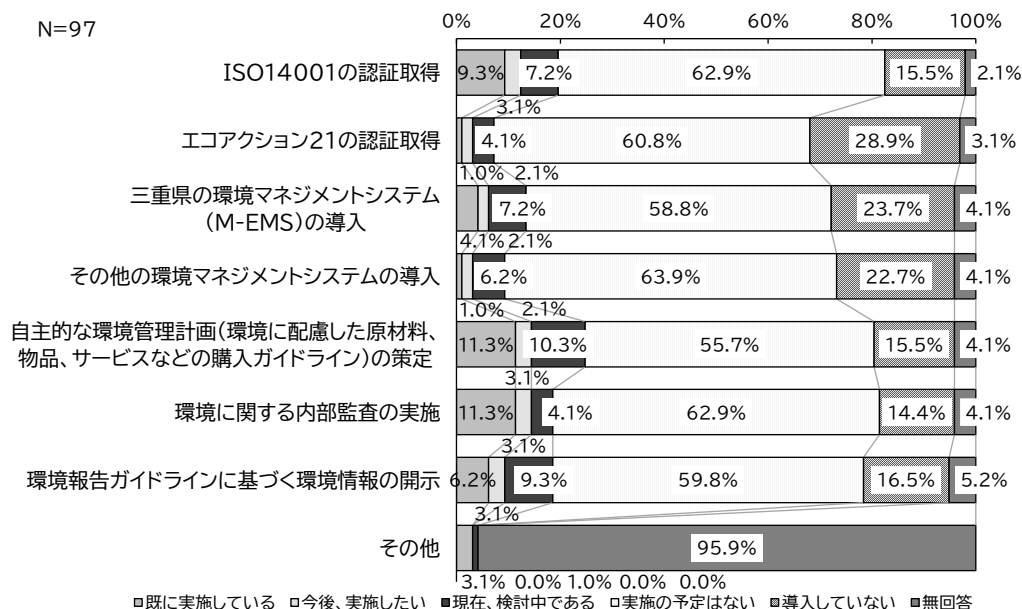
属性 7 お住いの形態



(3) 調査の結果（中小事業者）

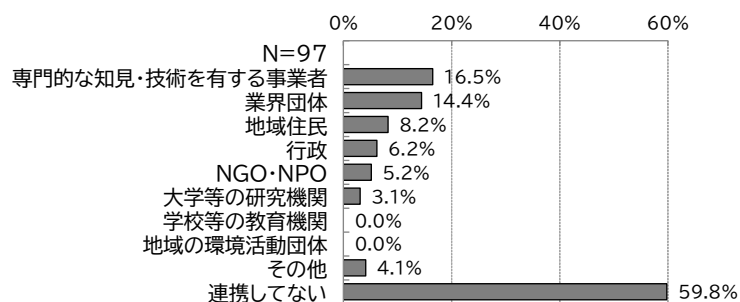
問 1 貴事業所では、環境に関する経営方針や管理手法を導入していますか。次の 1～8 のそれぞれの項目について、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 環境に関する経営方針や管理手法について、「既に実施している」と回答した事業所のうち、「自主的な環境管理計画（環境に配慮した原材料、物品、サービスなどの購入ガイドライン）の策定」、「環境に関する内部監査の実施」が最も多く 11.3%でした。



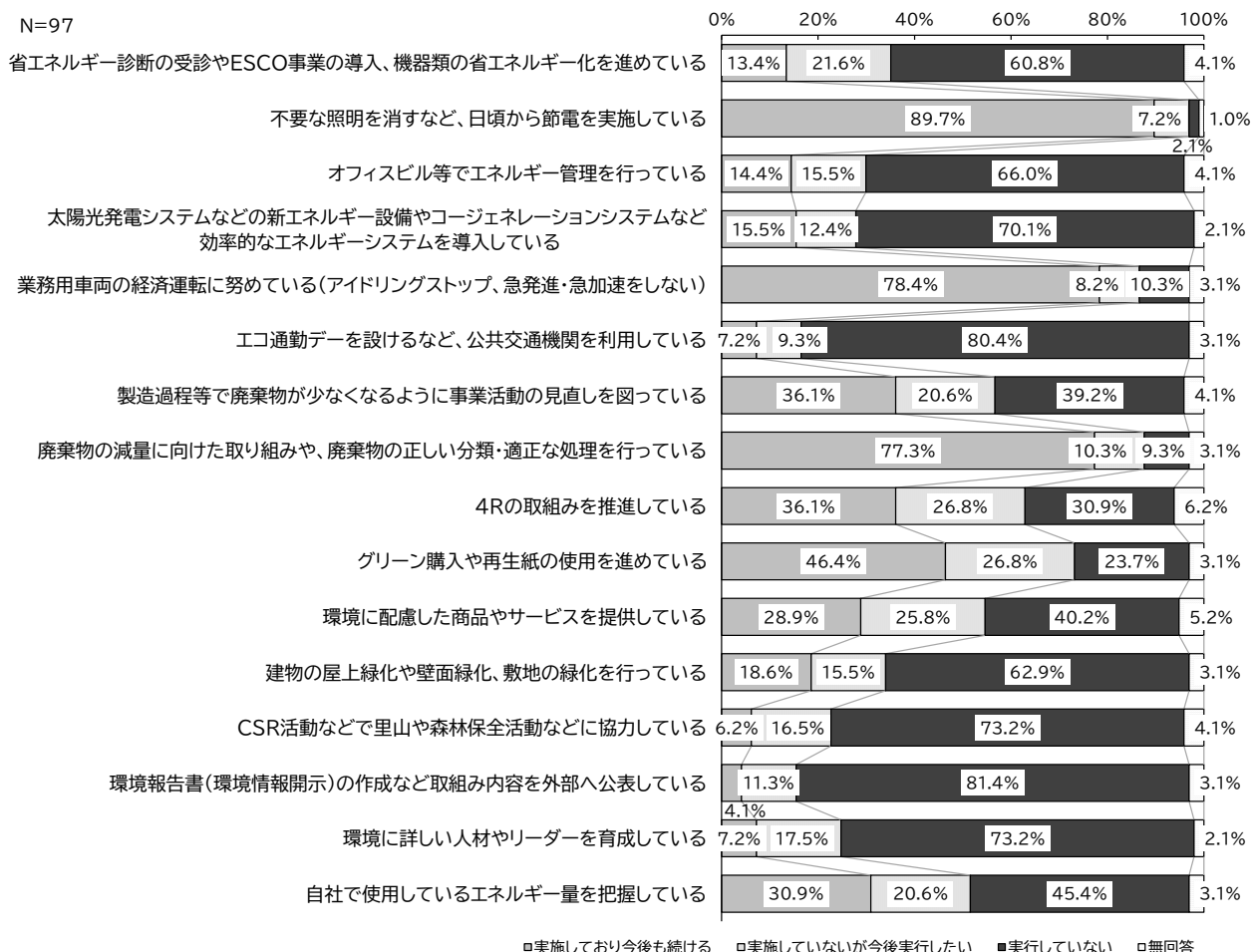
問 2 貴事業所の事業活動において、環境に配慮した取組を進める際、現在、どのような主体と連携していますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 環境に配慮した取組を進める際の主体との連携について、「連携していない」が最も多く 59.8%、次いで「専門的な知見・技術を有する事業者」が 16.5%、「業界団体」が 14.4%でした。



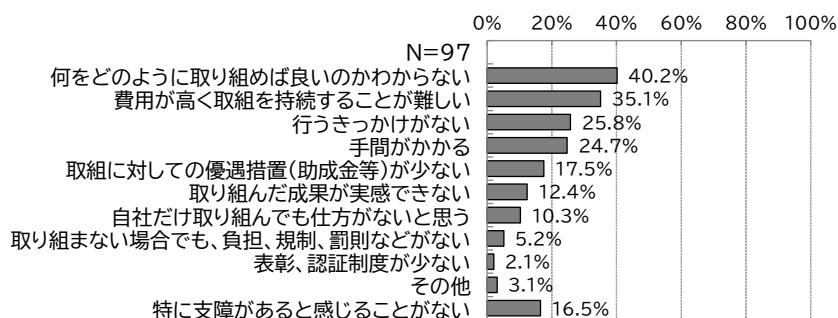
問 3 貴事業所が日ごろ行っている地球温暖化対策への取組についてお聞きます。以下の 1～16 のそれぞれの取組について、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 日ごろ行っている地球温暖化対策について、「実行しており今後も続ける」と回答した事業所のうち、「不要な照明を消すなど、日頃から節電を実施している」が最も多く 89.7%、次いで「業務用車両の経済運転に努めている（アイドリングストップ、急発進・急加速をしない）」が 78.4%でした。



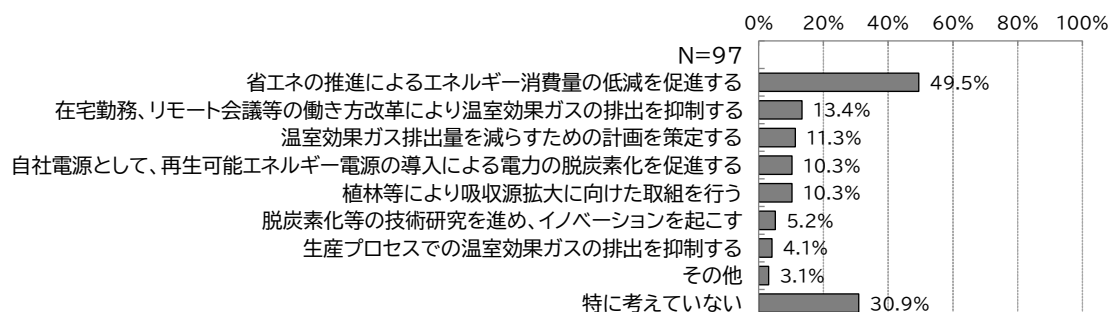
問 4 問 3 にあるような地球温暖化対策の取組の推進に、支障があると感じる理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 地球温暖化対策の取組の推進にあたり支障があると感じる理由について、「何をどのように取り組めば良いのかわからない」が最も多く 40.2%、次いで「費用が高く取組を持続することが難しい」が 35.1%、「行うきっかけがない」が 25.8%でした。



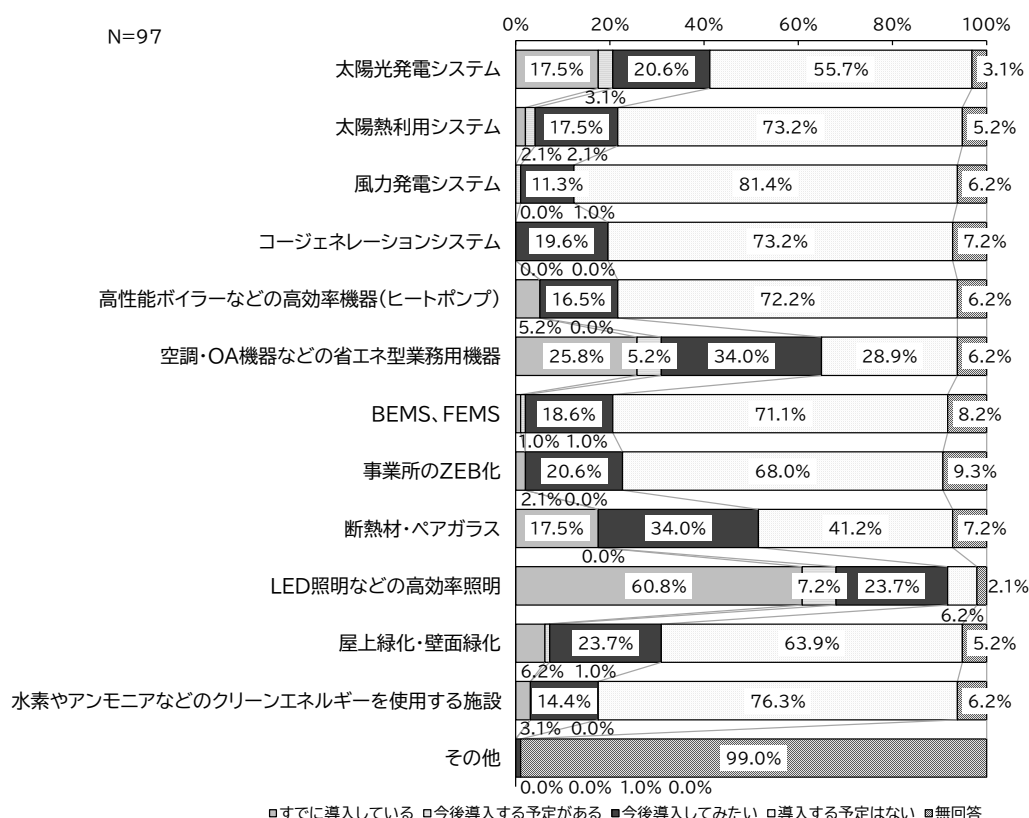
問 5 国は、「2050 年に温室効果ガス排出量を実質ゼロにする、すなわち 2050 年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」としています。貴事業所では、地球温暖化対策を実施する上でどのような対策を考えていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 地球温暖化対策を実施する上での対策について、「省エネの推進によるエネルギー消費量の低減を促進する」が最も多く 49.5%、次いで「在宅勤務、リモート会議等の働き方改革により温室効果ガスの排出を抑制する」が 13.4%、「温室効果ガス排出量を減らすための計画を策定する」が 11.3%でした。

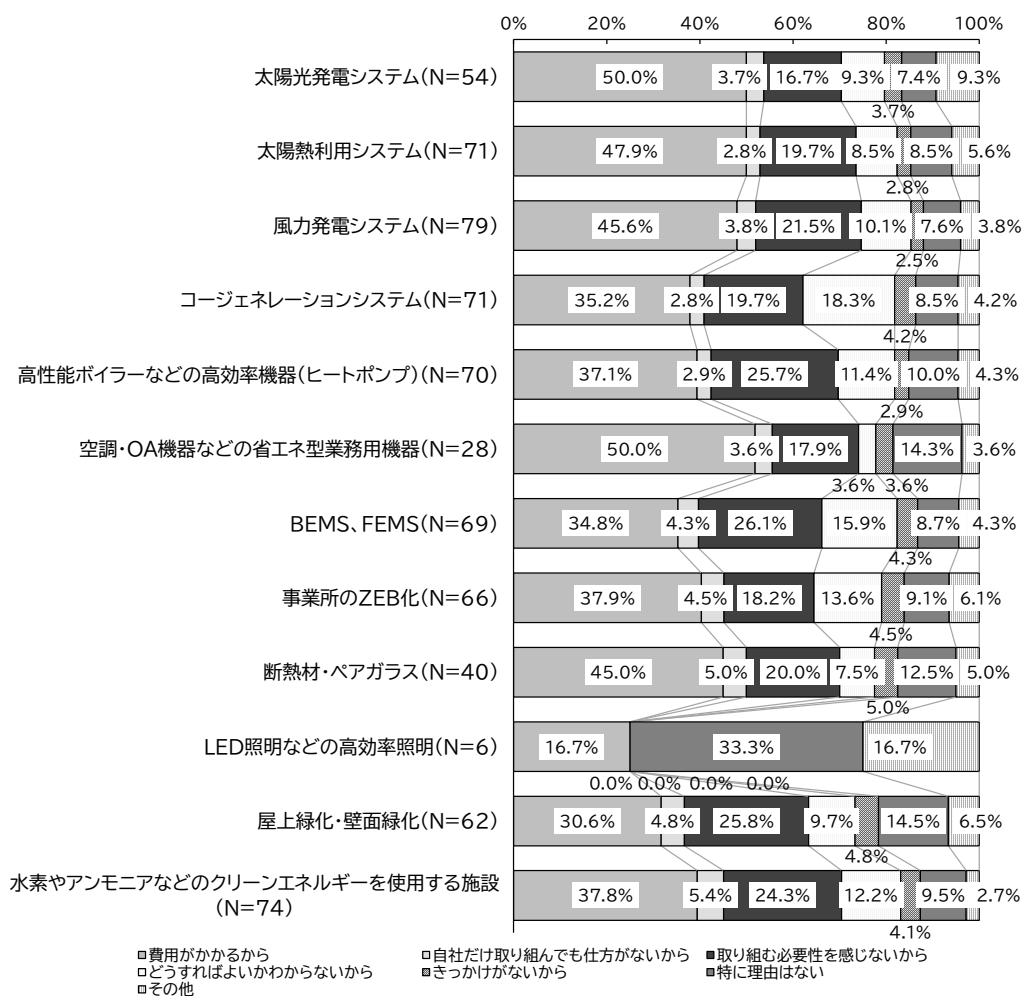


問 6 貴事業所では、省エネルギー等を考慮した設備などを導入していますか。以下の 1～13 のそれぞれの設備について、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。また、「導入する予定はない」とお答えいただいた方は、その理由を下欄の番号から選び、ご記入ください。導入する予定がなく「7. その他」の理由が複数の場合は、理由を複数ご記入ください。

- 省エネルギー等を考慮した設備などの導入について、「すでに導入している」と回答した事業所のうち、「LED 照明などの高効率照明」が最も多く 60.8%、次いで「空調・OA 機器などの省エネ型業務用機器」が 25.8%でした。また、「導入する予定はない」と回答した理由は、「費用がかかるから」が最も多い結果でした。

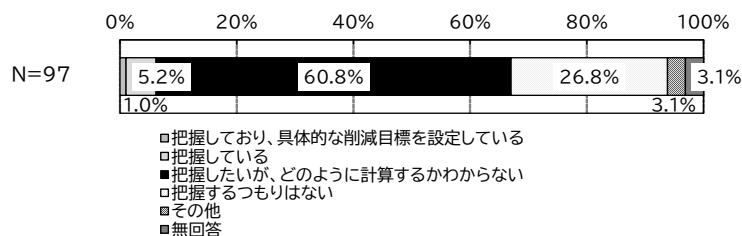


<導入する予定はない：理由>



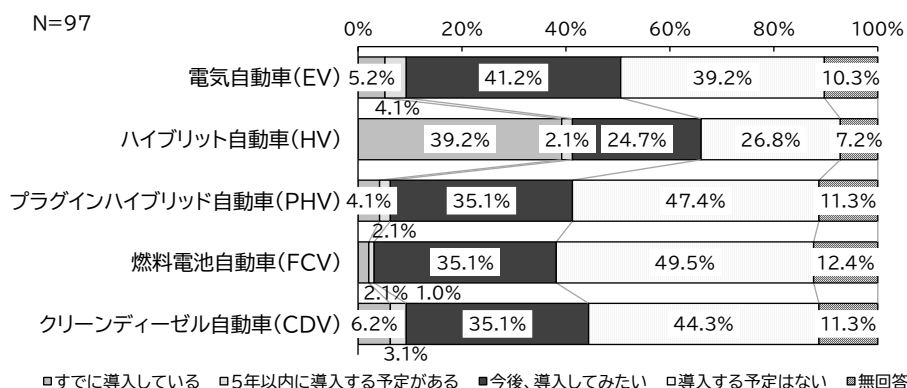
問 7 貴事業所では、事業所から排出されている温室効果ガス排出量を把握していますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 事業所から排出されている温室効果ガス排出量の把握について、「把握したいが、どのように計算するかわからない」が最も多く 60.8%、次いで「把握するつもりはない」が 26.8%、「把握している」が 5.2%でした。

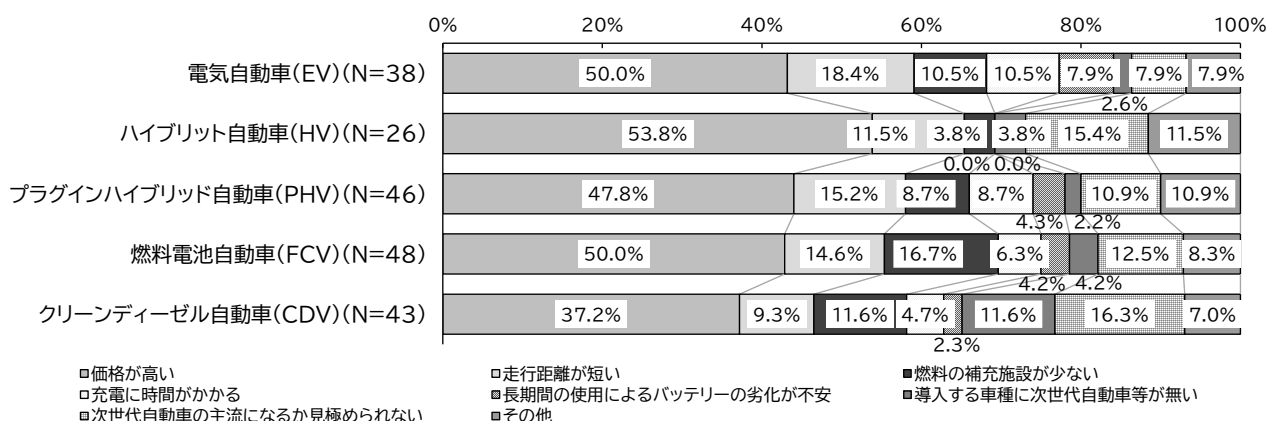


問 8 国が推奨する次世代自動車には、主に電気自動車、ハイブリット自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車などがあります。貴事業所では、次世代自動車を導入したいと思いますか。以下の 1～5 のそれぞれの自動車について、あてはまる番号を 1 つ選んで○をつけてください。また、「導入する予定はない」とお答えいただいた方は、その理由を網かけ欄の番号 1～8 から選び、ご記入ください。

- 次世代自動車の導入について、「すでに導入している」と回答した事業所のうち、「ハイブリット自動車（HV）」が最も多く 39.2%、次いで「クリーンディーゼル自動車（CDV）」が 6.2%でした。「5 年以内に導入する予定がある」、「今後導入してみたい」と回答した事業所のうち、最も多い回答は「電気自動車（EV）」でした。また、「導入する予定はない」と回答した理由は、「価格が高い」が最も多い結果でした。

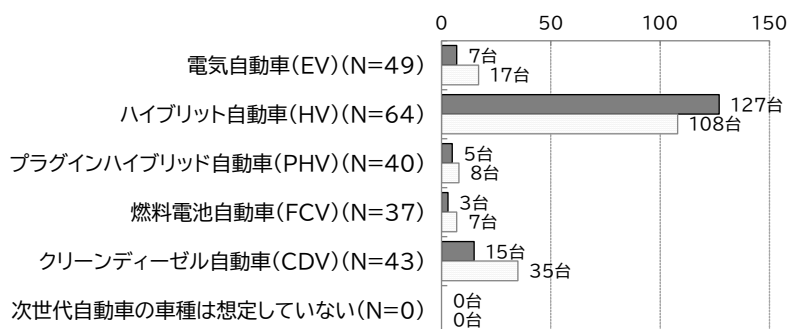


<導入する予定はない：理由>



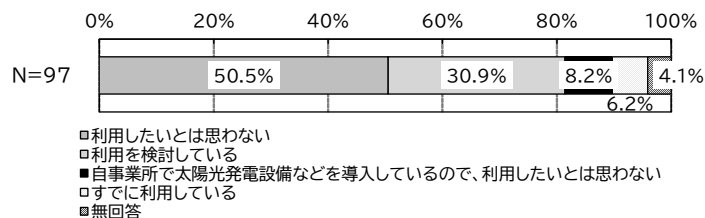
問 9 問 8 で「すでに導入している」、「5 年以内に導入する予定がある」、「今後、導入してみたい」を選んだ方にお尋ねします。どのような次世代自動車を所有または購入を想定していますか。種類毎に台数をご記入ください。

- 次世代自動車を所有している台数は「ハイブリット自動車（HV）」が最も多く 127 台、次いで「クリーンディーゼル自動車（CDV）」が 15 台、「電気自動車（EV）」が 7 台でした。次世代自動車の購入を想定している台数は「ハイブリット自動車（HV）」が最も多く 108 台、次いで「クリーンディーゼル自動車（CDV）」が 35 台、「電気自動車（EV）」が 17 台でした。



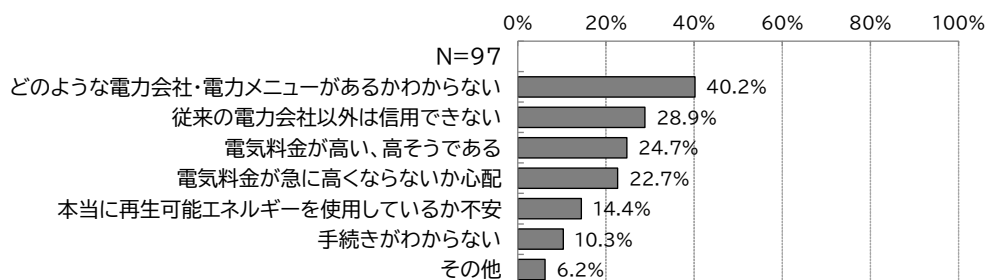
問 10 契約電力を切り替えることも、再生可能エネルギーから作られた電力を活用することができます。再生可能エネルギーの比率が高い電力会社や CO₂ フリーなどの電力メニューの利用について、どのように考えていますか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

- 再生可能エネルギーの比率が高い電力会社や CO₂ フリーなどの電力メニューの利用について「利用したいと思わない」が最も多く 50.5%、次いで「利用を検討している」が 30.9%、「自事業所で太陽光発電設備を導入するので、利用したいと思わない」が 8.2%でした。



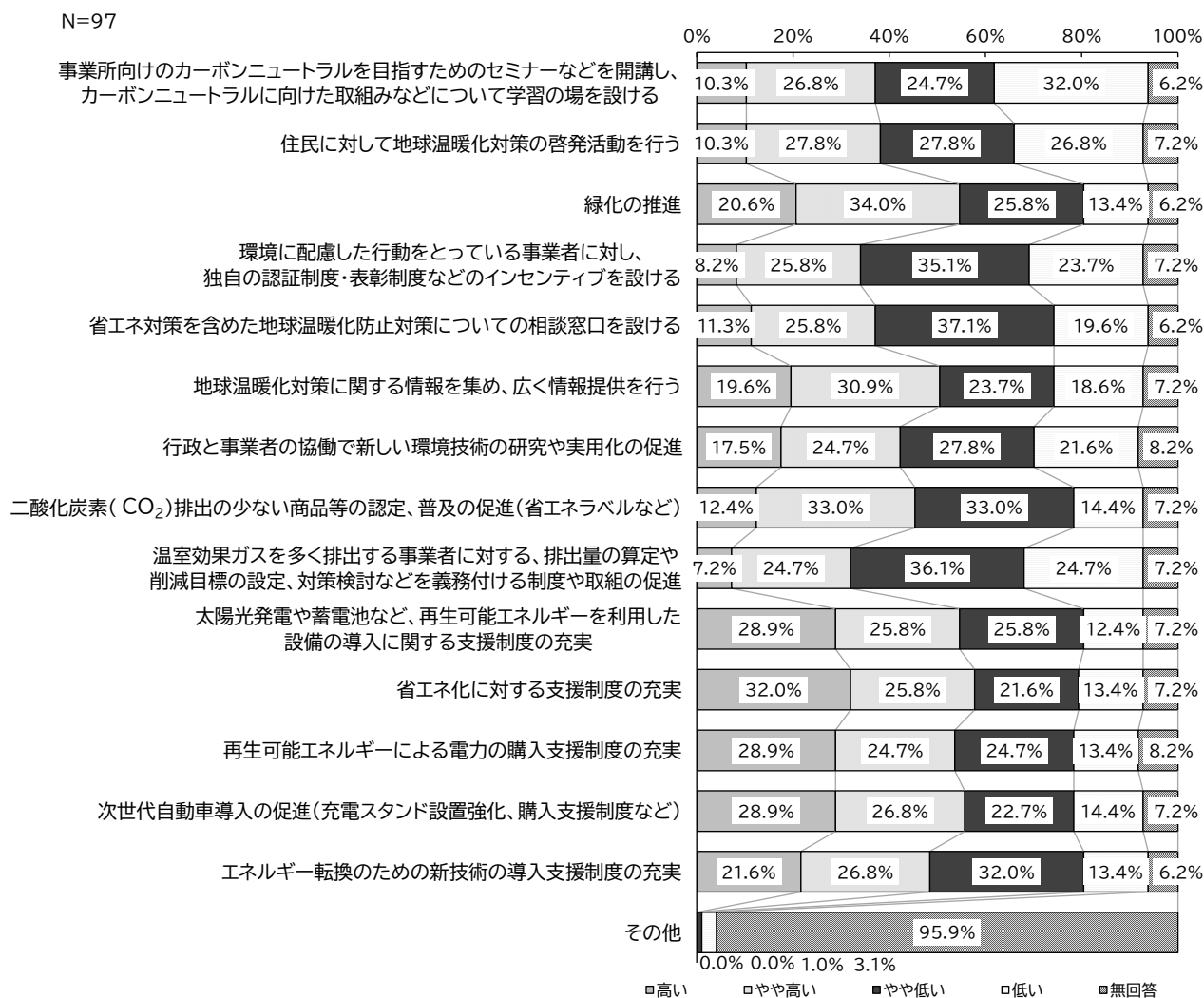
問 11 再生可能エネルギーの比率が高い電力会社や CO₂ フリーなどの電力メニューを利用するために、支障があると感じる理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 再生可能エネルギーの比率が高い電力会社や CO₂ フリーなどの電力メニューの利用にあたり、支障があると感じる理由について、「どのような電力会社・電力メニューがあるかわからない」が最も多く 40.2%でした。



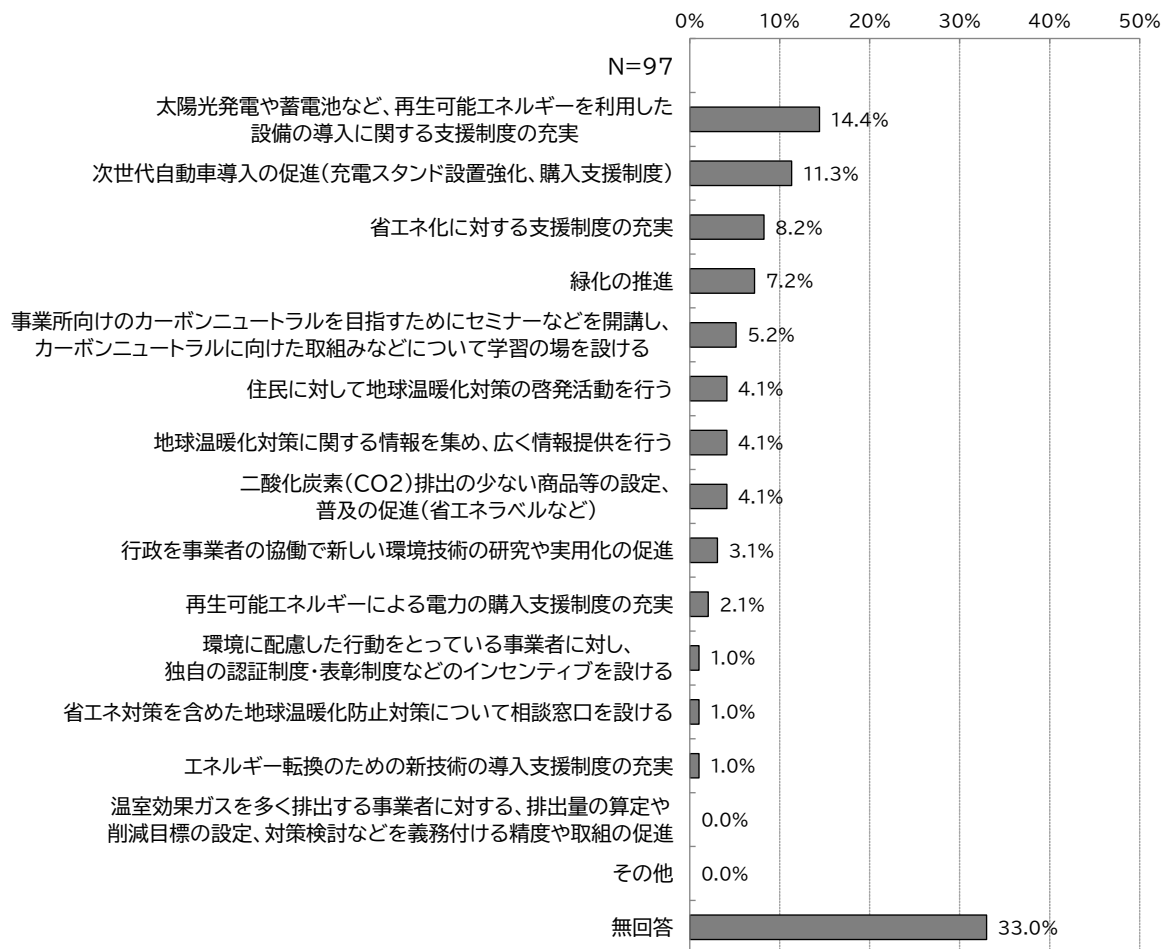
問 12 地球温暖化防止のために、貴事業所が行政に期待している施策は何ですか。以下の 1～15 のそれぞれの項目について、あなたの考えや意見に近い番号 1 つに○をつけてください。

- 地球温暖化防止のために行政に期待している施策について、「高い」と回答した事業所のうち、「省エネ化に対する支援制度の充実」が最も多く 32.0%、次いで「太陽光発電や蓄電池など、再生可能エネルギーを利用した設備の導入に関する支援制度の充実」、「再生可能エネルギーによる電力の購入支援制度の充実」、「次世代自動車導入の促進（充電スタンド設置強化、購入支援制度など）」が 28.9%でした。



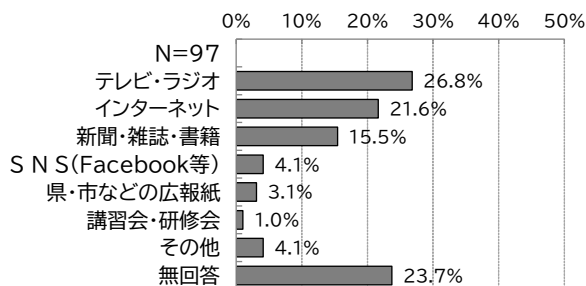
問 13 問 12 のうち、最も重要だと思う項目番号を記入し、期待する支援・補助等の具体的な内容を記入してください。

- 地球温暖化防止のために行政に期待している最も重要な施策について、「太陽光発電や蓄電池など、再生可能エネルギーを利用した設備の導入に関する支援制度の充実」が最も多く 14.4%、次いで「次世代自動車導入の促進（充電スタンド設置強化、購入支援制度）」が 11.3%、「省エネ化に対する支援制度の充実」が 8.2%でした。



問 14 貴事業所では、地球温暖化に関する情報を主にどこから得ていますか。最もあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 地球温暖化に関する情報収集の媒体について、「テレビ・ラジオ」が最も多く 26.8%、次いで「インターネット」が 21.6%、「新聞・雑誌・書籍」15.5%でした。

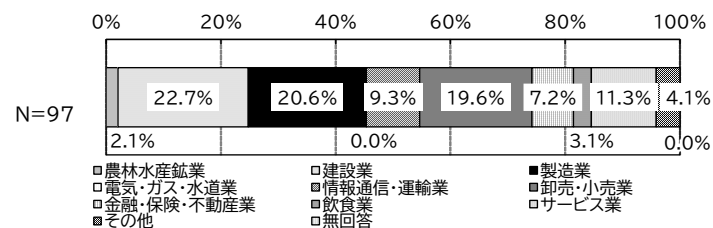


問 15 地球温暖化防止に関する取組を市全域で推進するにあたって、市への要望や施策に対する意見、提案等がありましたら、自由にお書きください。

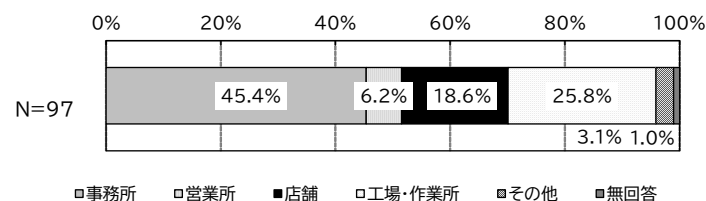
● 代表的なものを抜き出して掲載いたします。

分類	内容
次世代自動車	・社用車の電気自動車導入への支援（資金援助） ・役所の社用車ならびに公共機関に使用する乗物全てをエコカーに変更し、燃料供給施設の充実をはかる。
広報・教育・啓発	・講演会等を開催して頂き、耳にすることで認知度が上がり、取り組む企業が増えて良い方向にいくと思います。 ・お金をかけずに、個人ができることを広報誌に載せて下さい。子供・孫にきれいな地球に残してあげたい。ゴミの分別、物は最後まで使う、庭に木、草を植えたり、もっとできることがあるなら、やりたいと思う。
環境保全	・温暖化だけでなく環境保全のための、緑化活動などを促進して欲しいです。

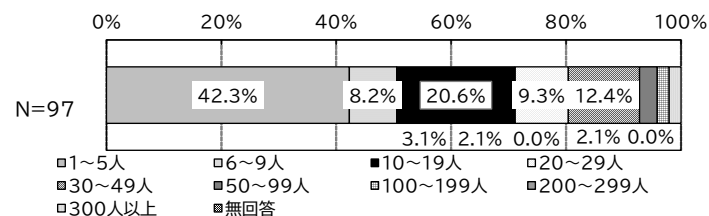
属性 1 業種



属性 2 事業形態



属性 3 従業員数



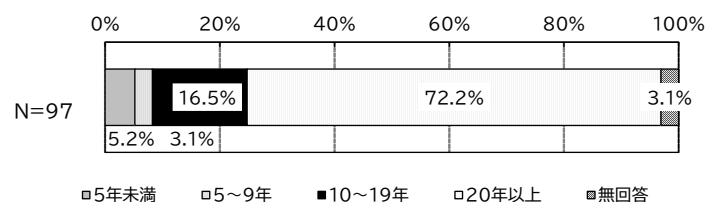
属性 4 所在地区

(N=97)

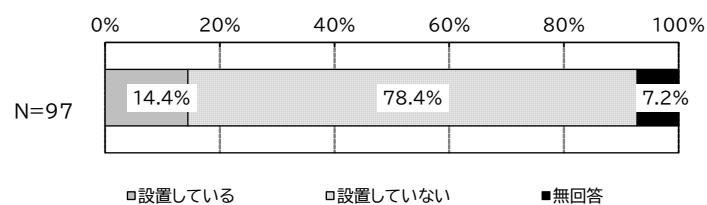
単位：％

中部	富洲原	富田	羽津	常磐	日永
15.5%	1.0%	5.2%	6.2%	3.1%	8.2%
四郷	内部	塩浜	小山田	川島	神前
7.2%	4.1%	5.2%	2.1%	1.0%	1.0%
桜	三重	県	八郷	下野	大矢知
0.0%	4.1%	1.0%	2.1%	1.0%	2.1%
河原田	水沢	保々	海蔵	橋北	楠
4.1%	2.1%	1.0%	3.1%	3.1%	0.0%
わからない	無回答				
13.4%	3.1%				

属性 5 立地年数



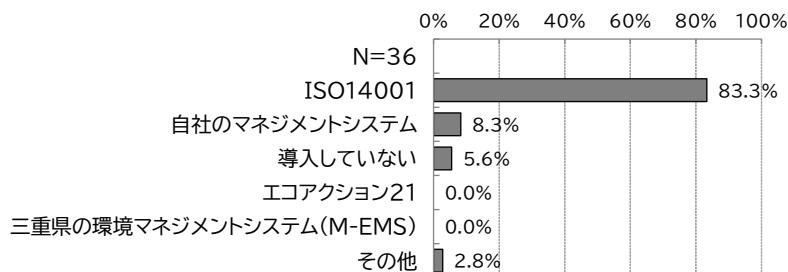
属性 6 環境に関する業務や作業を取り扱う部署の部署・担当の設置状況



(4) 調査の結果（協定事業者）

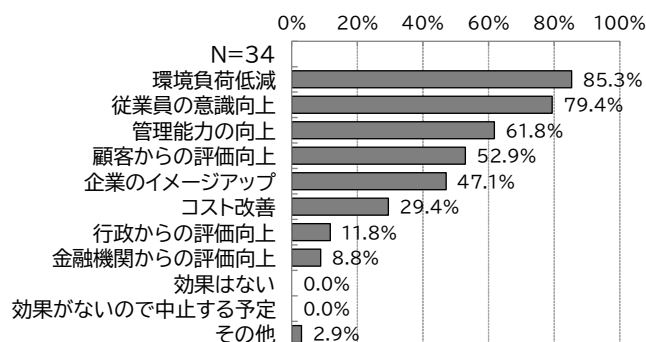
問 1 貴事業所では、環境マネジメントシステムを導入していますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 環境マネジメントシステムの導入について、「ISO14001」が最も多く 83.3%、次いで「自社のマネジメントシステム」が 8.3%、「導入していない」が 5.6%でした。



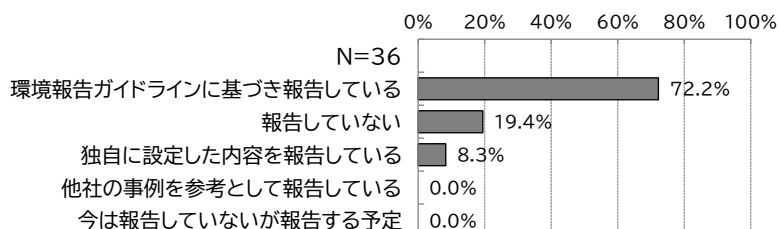
問 2 環境マネジメントシステムを導入している場合、効果はありましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 環境マネジメントシステムの効果について、「環境負荷低減」が最も多く 85.3%、次いで、「従業員の意識向上」が 79.4%「管理能力の向上」が 61.8%でした。



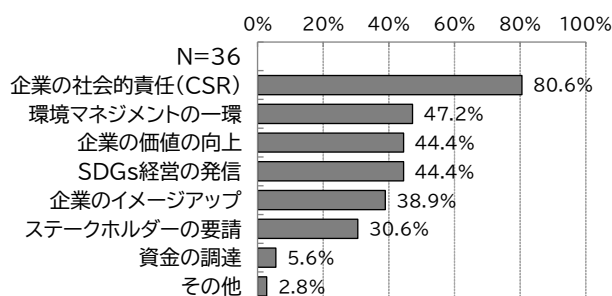
問 3 貴事業所では、社会に向けて環境報告を行っていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 社会に向けての環境報告について、「環境報告ガイドラインに基づき報告している」が最も多く 72.2%、次いで「報告していない」が 19.4%、「独自に設定した内容を報告している」が 8.3%でした。



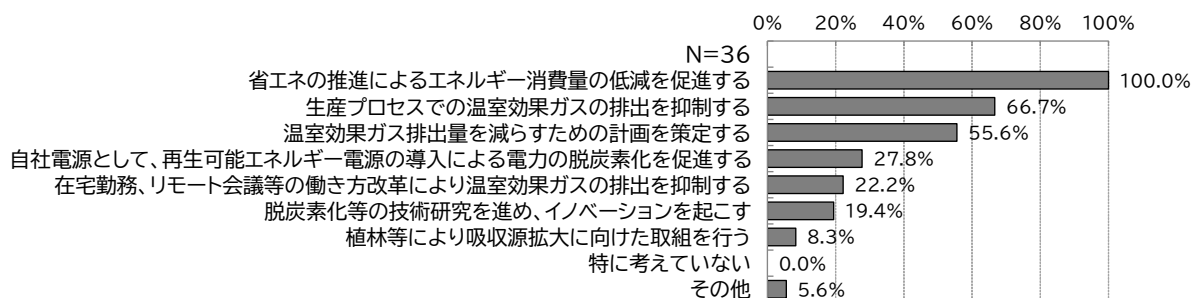
問 4 環境報告を行っている場合、理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 環境報告を行っている理由について、「企業の社会的責任（CSR）」が最も多く 80.6%、次いで「環境マネジメントの一環」が 47.2%、「企業の価値の向上」、「SDGs 経営の発信」が 44.4%でした。



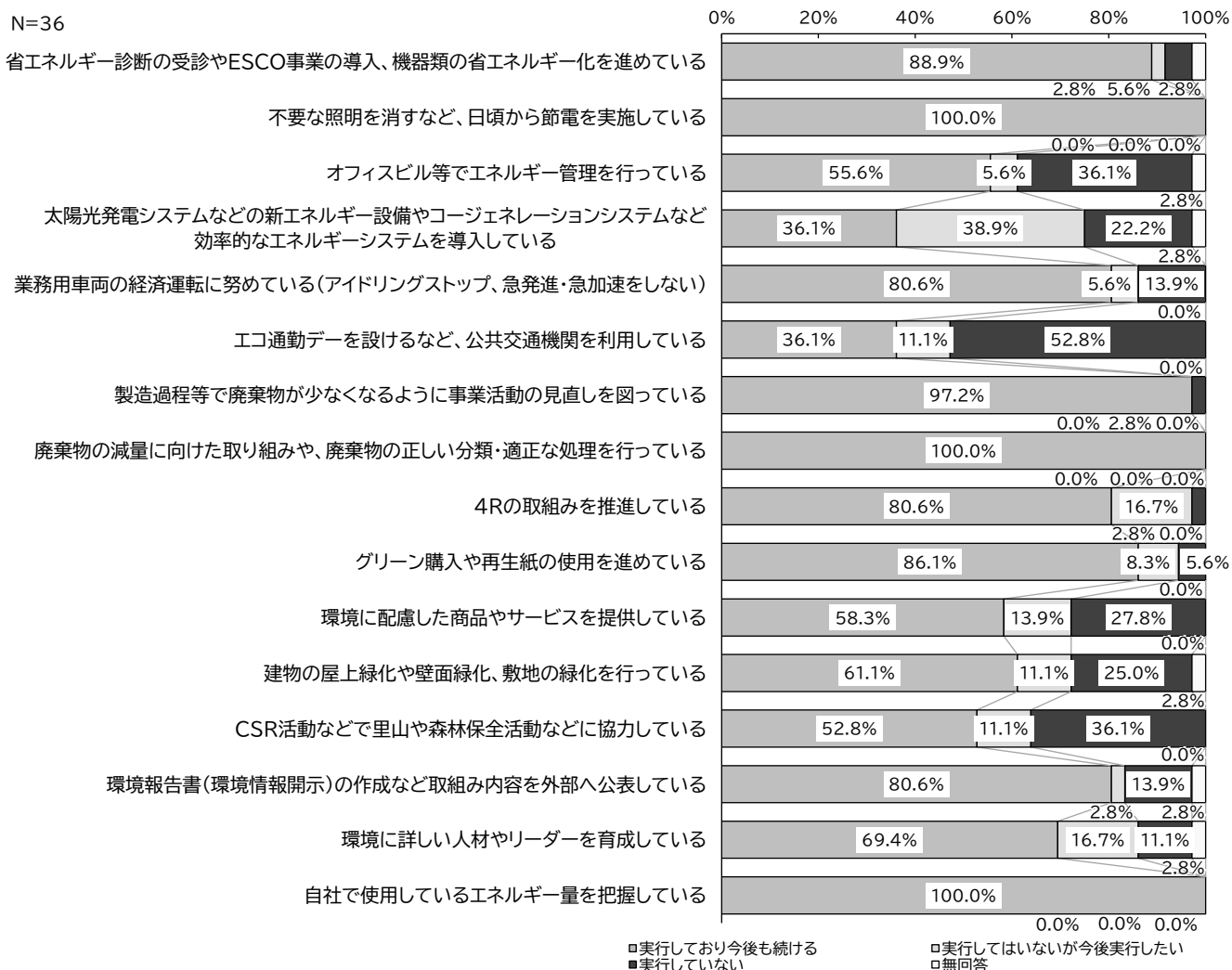
問 5 国は、「2050 年に温室効果ガス排出量を実質ゼロにする、すなわち 2050 年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」としています。貴事業所では、地球温暖化対策を実施する上でどのような対策を考えていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 地球温暖化対策を実施する上での対策について、「省エネの推進によるエネルギー消費量の低減を促進する」が最も多く 100%、次いで「生産プロセスでの温室効果ガスの排出を抑制する」が 66.7%、「温室効果ガス排出量を減らすための計画を策定する」が 55.6%でした。



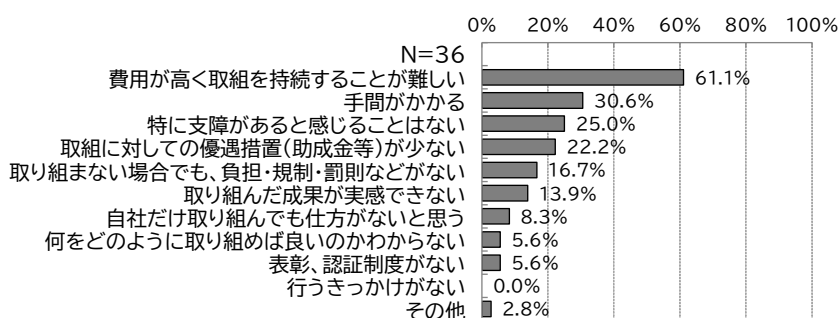
問 6 貴事業所が日ごろ行っている地球温暖化対策への取組についてお聞きます。以下の 1～16 のそれぞれの取組について、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 日ごろ行っている地球温暖化対策への取組について、「実行しており今後も続ける」と回答した事業所のうち、「不要な照明を消すなど、日頃から節電を実施している」、「廃棄物の減量に向けた取り組みや、廃棄物の正しい分類・適正な処理を行っている」、「自社で使用しているエネルギー量を把握している」が最も多く 100.0%でした。



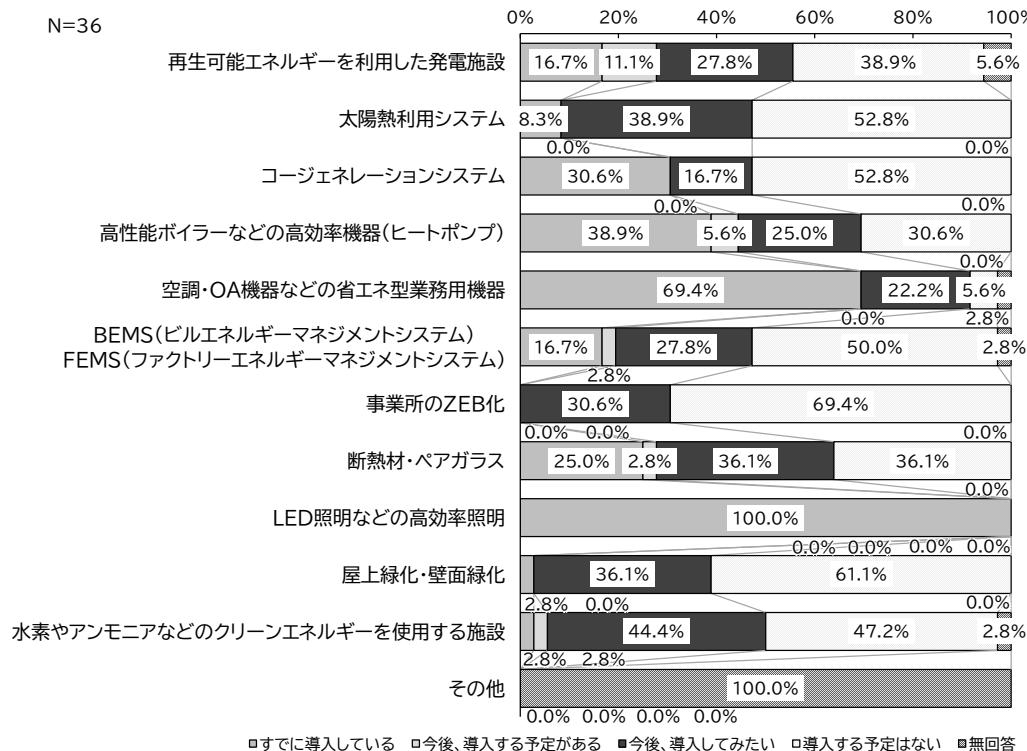
問 7 問 6 にあるような地球温暖化対策の取組の推進に、支障があると感じる理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 地球温暖化対策の取組の推進にあたり支障があると感じる理由について、「費用が高く取組を持続することが難しい」が最も多く 61.1%、次いで「手間がかかる」が 30.6%、「特に支障があると感じることはない」が 25.0%でした。

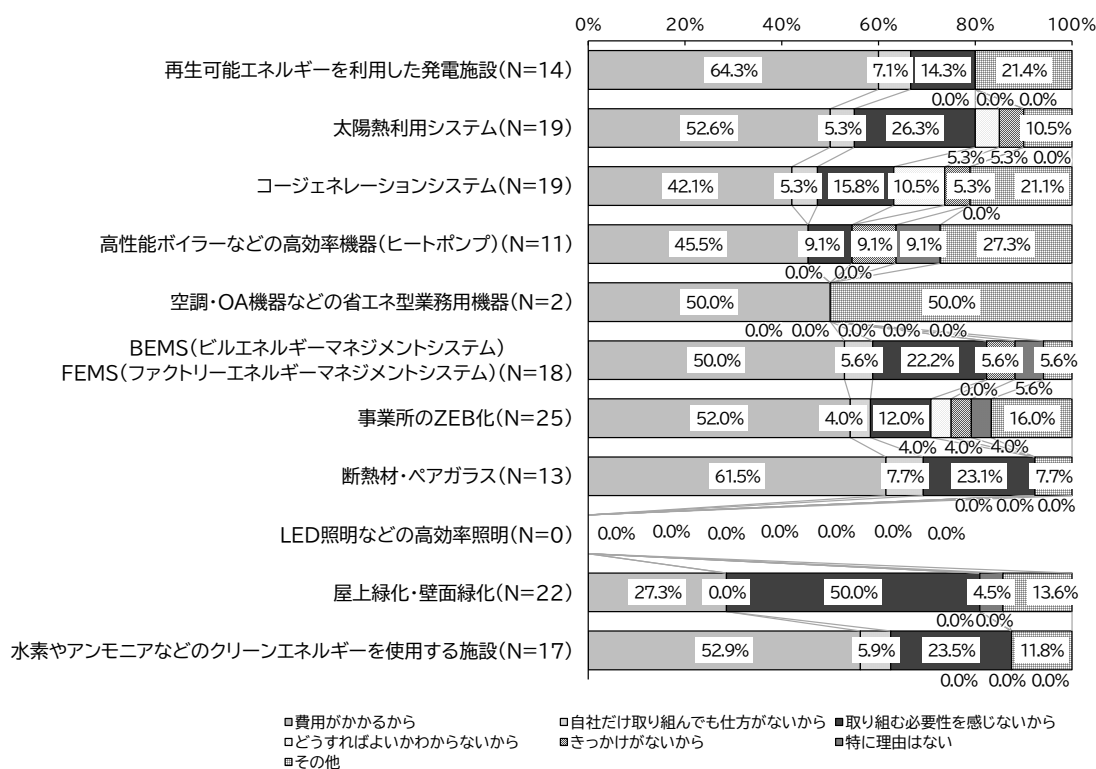


問 8 貴事業所では、省エネルギー等を考慮した設備などを導入していますか。以下の 1～12 のそれぞれの設備について、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。また、「導入する予定はない」とお答えいただいた方は、その理由を下欄の番号から選び、ご記入ください。導入する予定がなく「7. その他」の理由が複数の場合は、理由を複数ご記入ください。

- 省エネルギー等を考慮した設備などの導入について、「すでに導入している」と回答した事業所のうち、「LED 照明などの高効率照明」が最も多く 100.0%、次いで「空調・OA 機器などの省エネ型業務用機器」が 69.4%でした。また、「導入する予定はない」と回答した事業所のうち、最も多い回答は「事業所の ZEB 化」が 69.4%であり、理由は「費用がかかるから」が最も多い結果でした。

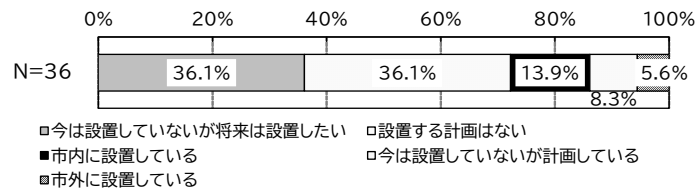


<導入する予定はない：理由>



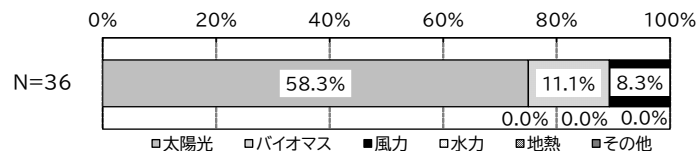
問 9 貴事業所では、再生可能エネルギーを利用した発電施設・設備を設置していますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 再生可能エネルギーを利用した発電施設・設備の設置について、「今は設置していないが将来は設置したい」、「設置する計画はない」が最も多く 36.1%、次いで「市内に設置している」が 13.9%でした。



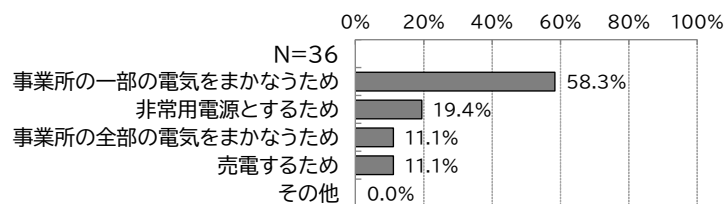
問 10 発電施設（計画、将来を含む）の再生可能エネルギーの種類は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 発電施設の再生可能エネルギーの種類について、「太陽光」が最も多く 58.3%、次いで「バイオマス」が 11.1%、「風力」が 8.3%でした。



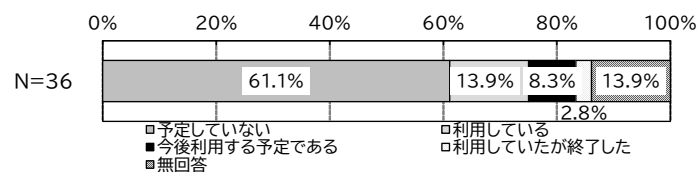
問 11 発電施設を所有している（したい）目的は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 発電施設を所有している（したい）目的について、「事業所の一部の電気をまかなうため」が最も多く 58.3%、次いで「非常用電源とするため」が 19.4%、「事業所の全部の電気をまかなうため」、「売電するため」が 11.1%でした。



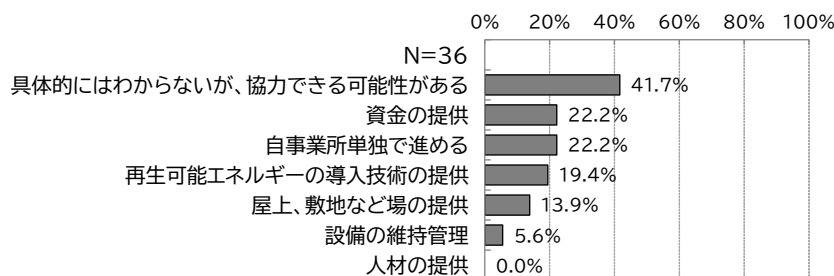
問 12 発電した電気は固定価格買取制度（FIT）を利用していますか（利用する予定ですか）。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 発電した電気の固定価格買取制度（FIT）の利用について、「予定していない」が最も多く 61.1%、次いで「利用している」が 13.9%、「今後利用する予定である」が 8.3%でした。



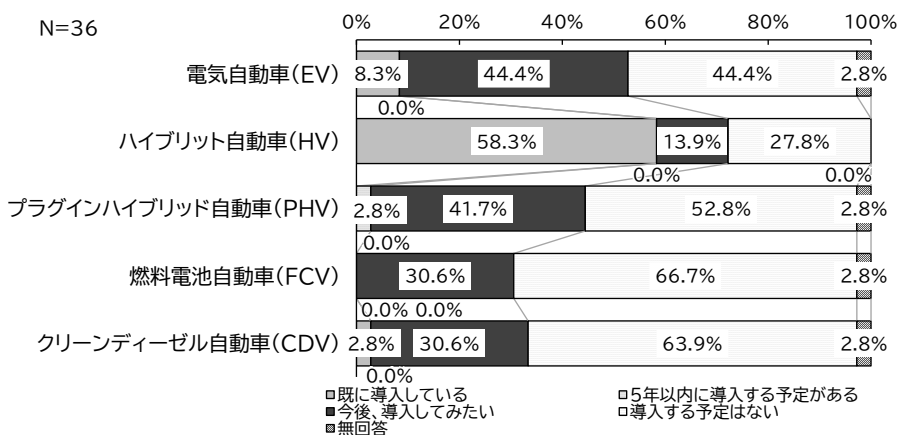
問 13 貴事業所が、行政と連携して再生可能エネルギーの利用を進める場合、どのような内容の連携が可能と考えられますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 再生可能エネルギーの利用を進めるにあたり、行政との連携が可能な内容について、「具体的にはわからないが、協力できる可能性がある」が最も多く 41.7%、次いで「資金の提供」、「自事業所単独で進める」が 22.2%でした。

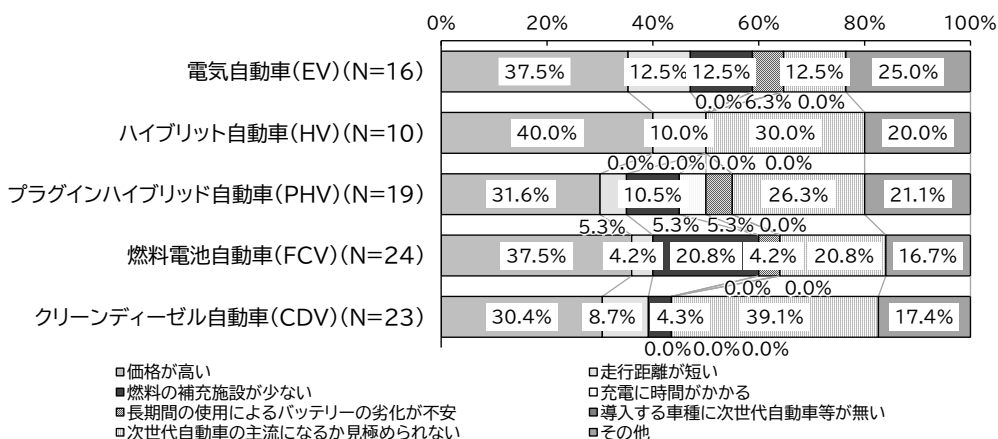


問 14 国が推奨する次世代自動車には、主に電気自動車、ハイブリット自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車などがあります。貴事業所では、次世代自動車を導入したいと思いますか。以下の 1～5 のそれぞれの自動車について、あてはまる番号を 1 つ選んで○をつけてください。また、「導入する予定はない」とお答えいただいた方は、その理由を網かけ欄の番号 1～8 から選び、ご記入ください。

- 次世代自動車の導入について、「既に導入している」と回答した事業所のうち、「ハイブリット自動車（HV）」が最も多く 58.3%でした。「今後導入してみたい」と回答した事業所のうち、最も多い回答は「電気自動車（EV）」が最も多く 44.4%、次いで「プラグインハイブリッド（PHV）」が 41.7%でした。

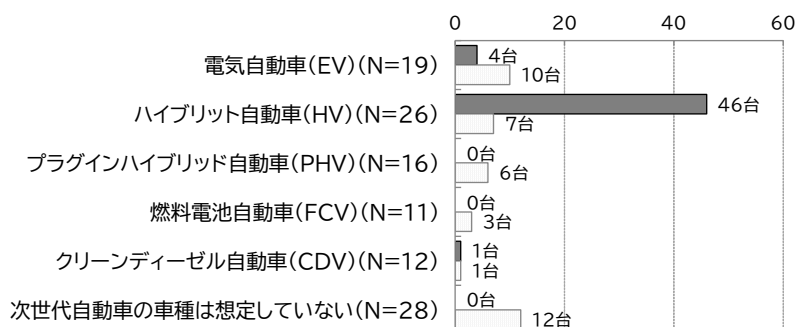


<導入する予定はない：理由>



問 15 問 14 で「既に導入している」、「5 年以内に導入する予定がある」、「今後、導入してみたい」を選んだ方にお尋ねします。どのような次世代自動車を所有または購入を想定していますか。種類毎に台数をご記入ください。

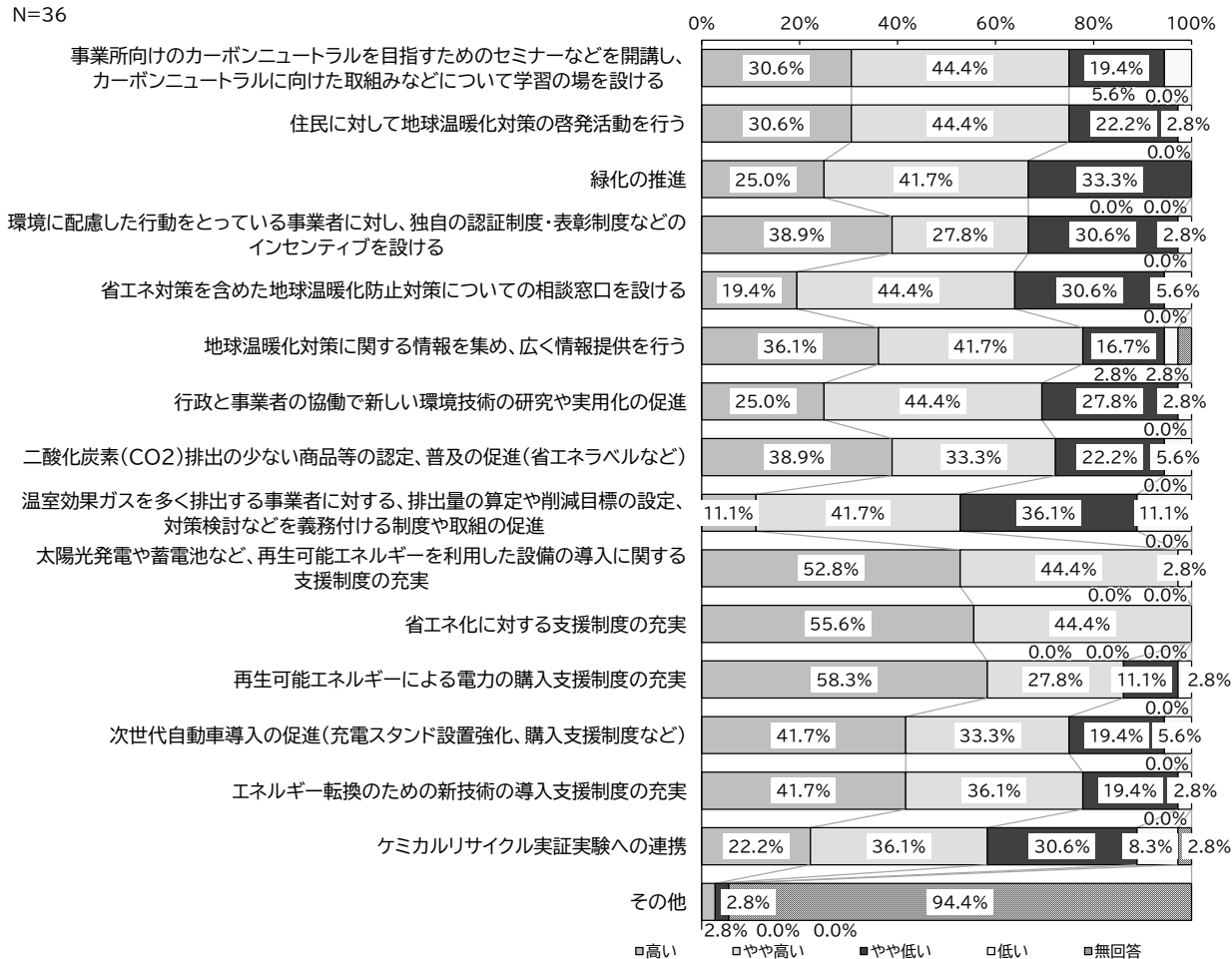
- 次世代自動車を所有している台数は「ハイブリット自動車（HV）」が最も多く 46 台、次いで「電気自動車（EV）」が 4 台、「クリーンディーゼル自動車（CDV）」が 1 台でした。次世代自動車の購入を想定している台数は「電気自動車（EV）」が最も多く 10 台、次いで「ハイブリット自動車（HV）」が 7 台、「プラグインハイブリット（PHV）」が 6 台でした。



問 16 地球温暖化防止のために、貴事業所が行政に期待している施策は何ですか。以下の 1～16 のそれぞれの項目について、あなたの考えや意見に近い番号 1 つに○をつけてください。

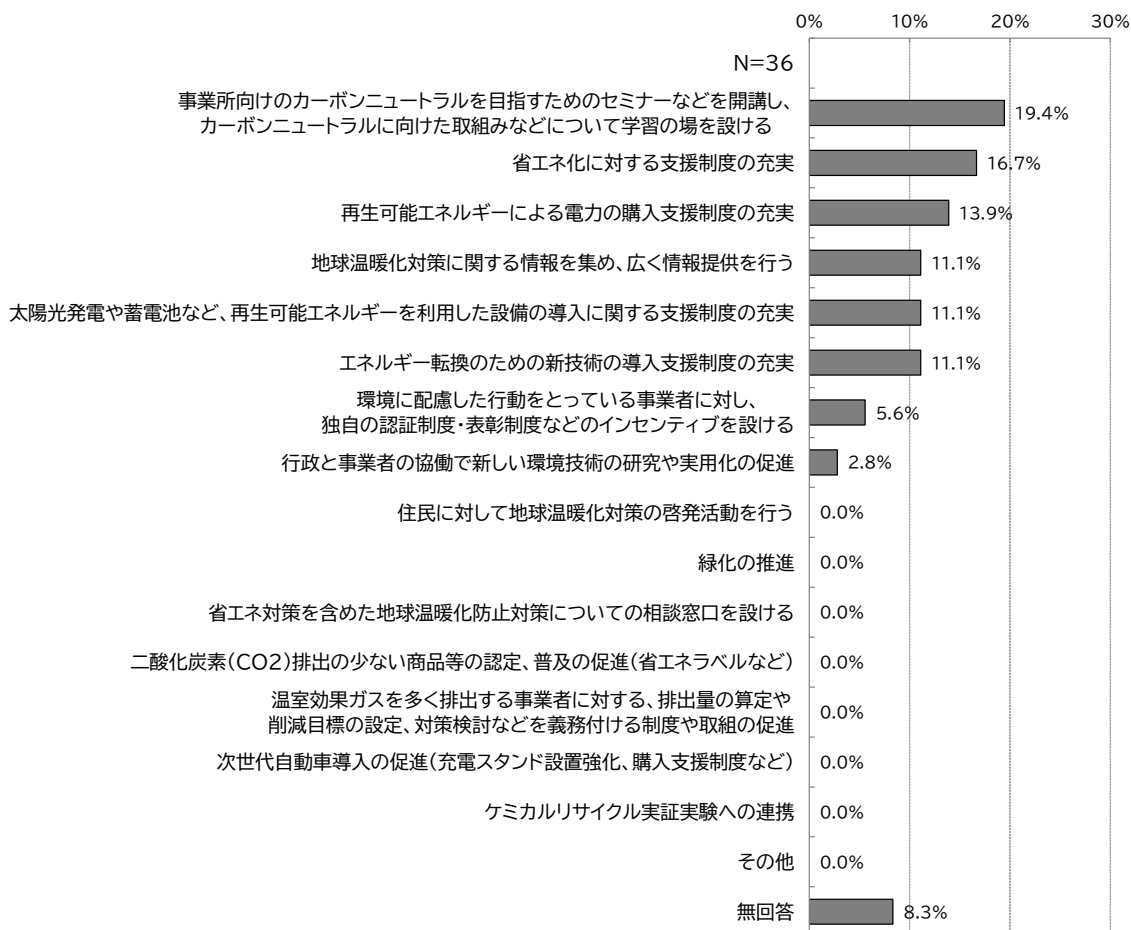
- 地球温暖化防止のために行政に期待している施策について、「高い」と回答した事業所のうち、「再生可能エネルギーによる電力の購入支援制度の充実」が最も多く 58.3%、次いで「省エネ化に対する支援制度の充実」が 55.6% でした。

N=36



問 17 問 16 のうち、最も重要だと思う項目番号を記入し、期待する支援・補助等の具体的な内容を記入してください。

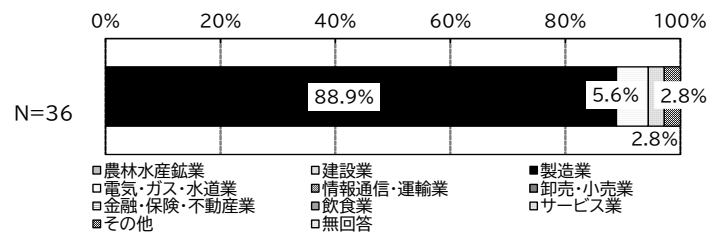
- 地球温暖化防止のために行政に期待している最も重要な施策について、「事業所向けのカーボンニュートラルを目指すためのセミナーなどを開講し、カーボンニュートラルに向けた取組みなどについて学習の場を設ける」が最も多く 19.4%、次いで「省エネ化に対する支援制度の充実」が 16.7%、「再生可能エネルギーによる電力の購入支援制度の充実」が 13.9%でした。



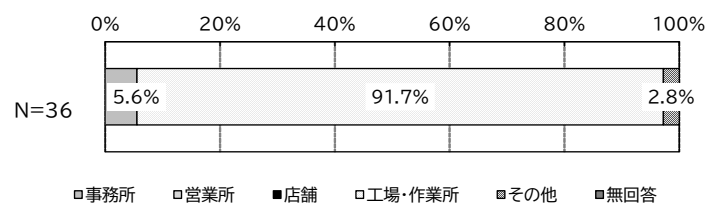
問 18 地球温暖化防止に関する取組を市全域で推進するにあたって、市への要望や施策に対する意見、提案等がありましたら、自由にお書きください。

- 代表的なものを抜き出して掲載いたします。
- ・四日市市の中でも、いくつかのカーボンニュートラルの取り組みが存在している印象があり、活動の複雑化を懸念します。推進力を高めるためにも、一本化した活動を検討いただきたい。
- ・地球温暖化防止を市全域で推進するにあたって、取り組みやすいように届出等の緩和や補助金などを援助する仕組みを考えて頂きたい。
- ・前設問の回答に関係しますが、クリーンエネルギーへの変換は一社単独で確保して推進していくことは困難ですので、四日市コンビナート一体となって、インフラ整備を行うことが重要であると考えます。それらに対して行政側の考え方や計画有無等をどのような形で結構ですので周知頂けると幸いです。

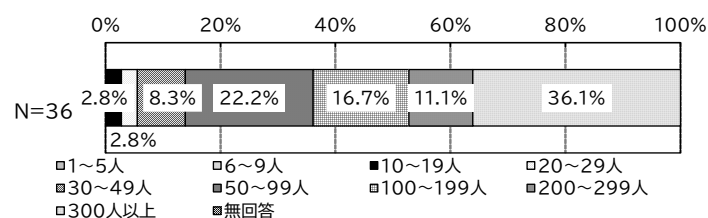
属性 1 業種



属性 2 事業形態



属性 3 従業員数



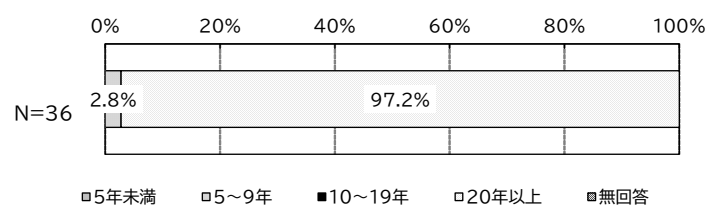
属性 4 所在地区

(N=36)

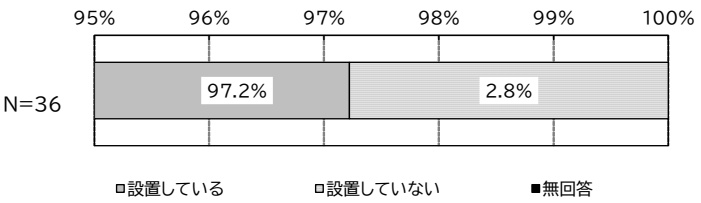
単位 : %

中部	富洲原	富田	羽津	常磐	日永
0.0%	2.8%	2.8%	8.3%	0.0%	5.6%
四郷	内部	塩浜	小山田	川島	神前
0.0%	0.0%	19.4%	0.0%	0.0%	0.0%
桜	三重	県	八郷	下野	大矢知
0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
河原田	水沢	保々	海蔵	橋北	楠
11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%
わからない	無回答				
36.1%	2.8%				

属性 5 立地年数



属性 6 環境に関する業務や作業を取り扱う部署の部署・担当の設置状況



資-3 令和6年度 アンケート及びヒアリング調査の結果

(1) 調査の概要

① 調査目的

- 調査目的は、以下のとおりです。

- ・四日市市環境計画の中間見直しにあたり、市民や事業者の環境保全への意識や取組状況等を把握する。また、今後の意向や積極的に取り組むために必要なことを把握し、施策の検討に反映する。
- ・四日市市環境計画の認知度や施策の満足度・重要度等を把握し、第4期計画のこれまでの評価や第4期計画の中間見直しにおける重点施策の検討に反映する。
- ・市民や事業者、市内で環境活動や環境学習を行う団体等に対して、四日市市環境計画（四日市市の環境行政）の周知を図る。

② 調査対象及び方法

- 市民アンケートの調査対象は、四日市市に住所登録がある18歳以上の方から無作為に3,000人抽出しました。調査は、紙面調査票を郵送配布し、郵送又はウェブサイトで回答を回収する方法で実施しました。調査実施期間は、2024（R6）年10月1日（火）から10月15日（火）までの期間としました。
- 事業者アンケートの調査対象は、四日市市内に拠点を置く事業所（本所・支所や事業所規模を問わない）500事業所としました。調査は、紙面調査票を郵送配布し、郵送又はウェブサイトで回答を回収する方法で実施しました。調査実施期間は、2024（R6）年10月1日（火）から10月15日（火）までの期間としました。
- 市民活動団体アンケートの調査対象は、2024（R6）年9月末時点で四日市市エコパートナーとして登録いただいている60市民活動団体としました。調査は、紙面調査票を郵送配布し、郵送又はウェブサイトで回答を回収する方法で実施しました。調査実施期間は、2024（R6）年11月15日（金）から12月6日（金）までの期間としました。

③ 回収結果

- アンケート調査の回収結果は、以下のとおりです。

対象	配布数	回収数	回収率	有効回答数（N）
市民	3,000	1,161	38.7%	1,154
事業者	500	197	39.4%	197
市民活動団体	60	30	50.0%	30

※有効回答数は、白紙回答を除いた回答数です。白紙回答は集計から除外しました。

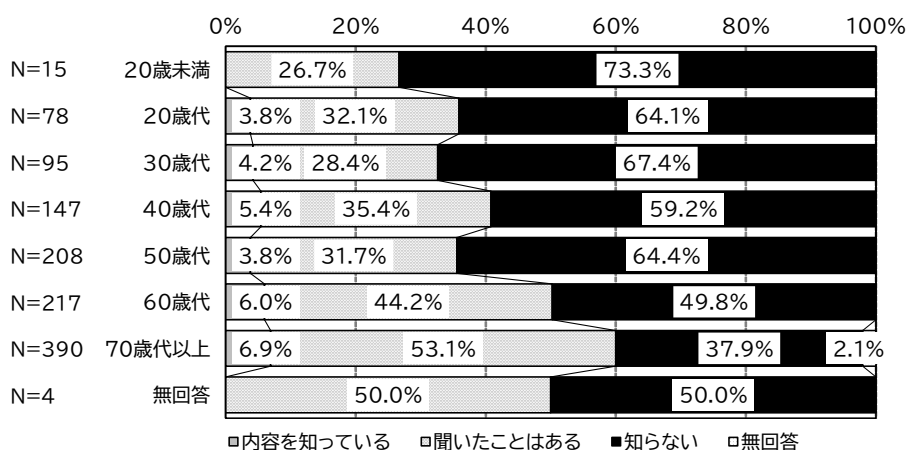
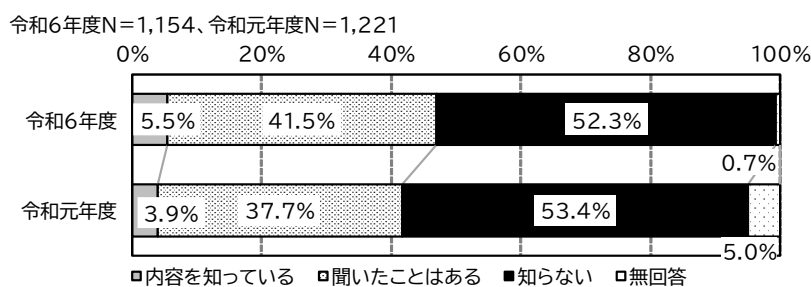
(2) 調査の結果（市民）

問 1 あなたは、「四日市市環境計画」を知っていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 「知らない」が最も多く 52.3%、次いで「聞いたことはある」が 41.5%、「内容を知っている」が 5.5%でした。

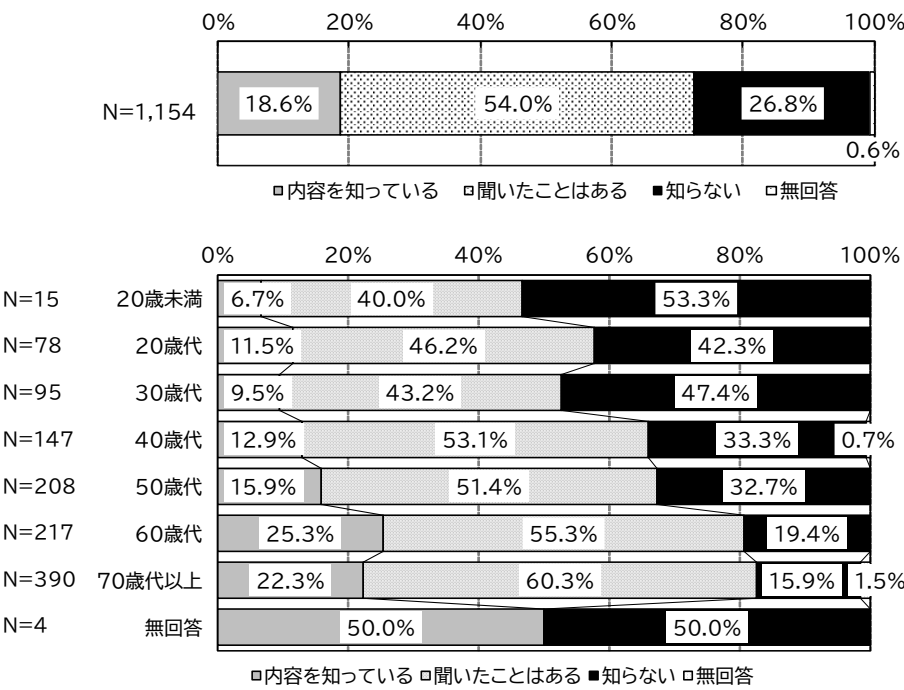
令和元年度に実施された調査と比較すると「聞いたことはある」、「内容を知っている」と回答した割合（認知度）は、5.4 ポイント増加しています。

「知らない」と回答した割合は 20 歳未満で最も大きく、年齢層が上がるにつれ、「内容を知っている」、「聞いたことはある」と回答した割合は増加する傾向がみられました。



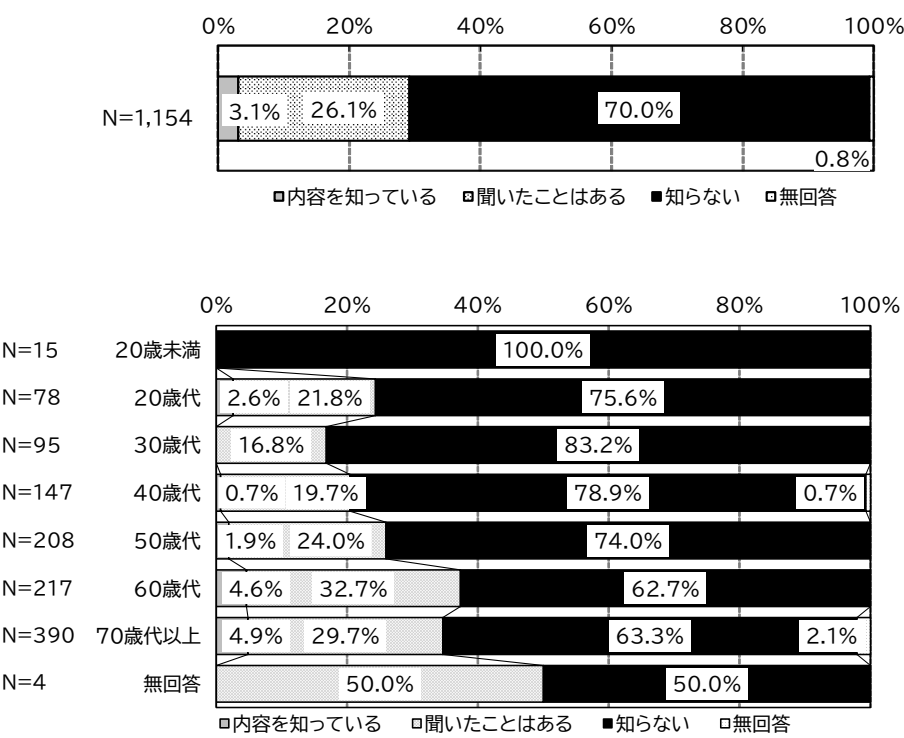
問 2 あなたは、「気候変動への適応」という言葉を知っていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 「聞いたことはある」が最も多く 54.0%、次いで「知らない」が 26.8%、「内容を知っている」が 18.6%でした。
「知らない」と回答した割合が大きかったのは順に 20 歳未満、30 歳代、20 歳代であり、若い年代で気候変動への適応について認知度が低い傾向がみられました。



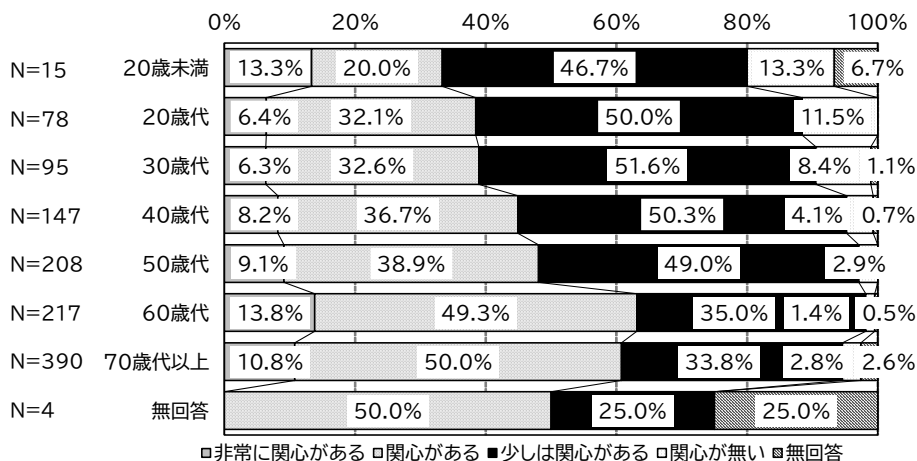
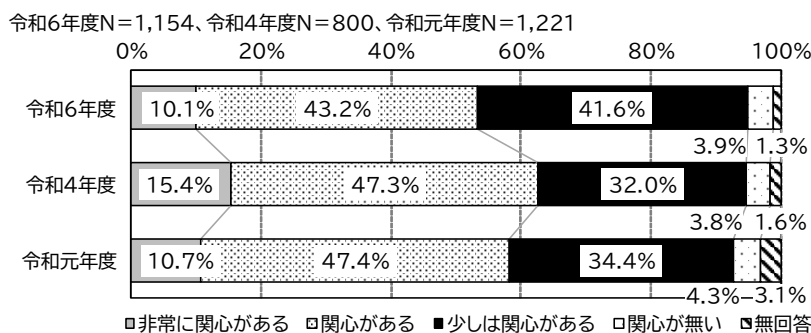
問 3 あなたは、「ネイチャーポジティブ」という言葉を知っていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 「知らない」が最も多く 70.0%、次いで「聞いたことはある」が 26.1%、「内容を知っている」が 3.1%でした。
アンケートに回答した全ての 20 歳未満は「知らない」と回答しました。全ての年代で認知度は 50%以下であり、ネイチャーポジティブについて市民の認知度は低いと推察されます。



問 4 あなたは、環境問題に対して関心がありますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 「非常に関心がある」、「関心がある」、「少しは関心がある」を合わせた「関心がある傾向」は、94.9%となっています。
「関心がある傾向」は、令和元年度に実施された調査では 92.5%、令和 4 年度に実施された調査では 94.7%であり、令和元年度に実施された調査と比較すると、「少しは関心がある」と回答した割合が増加しています。
20 歳未満、20 歳代、30 歳代は約 10%が「関心がない」と回答しており、若い世代の関心は他の年代に比べて低くなっています。

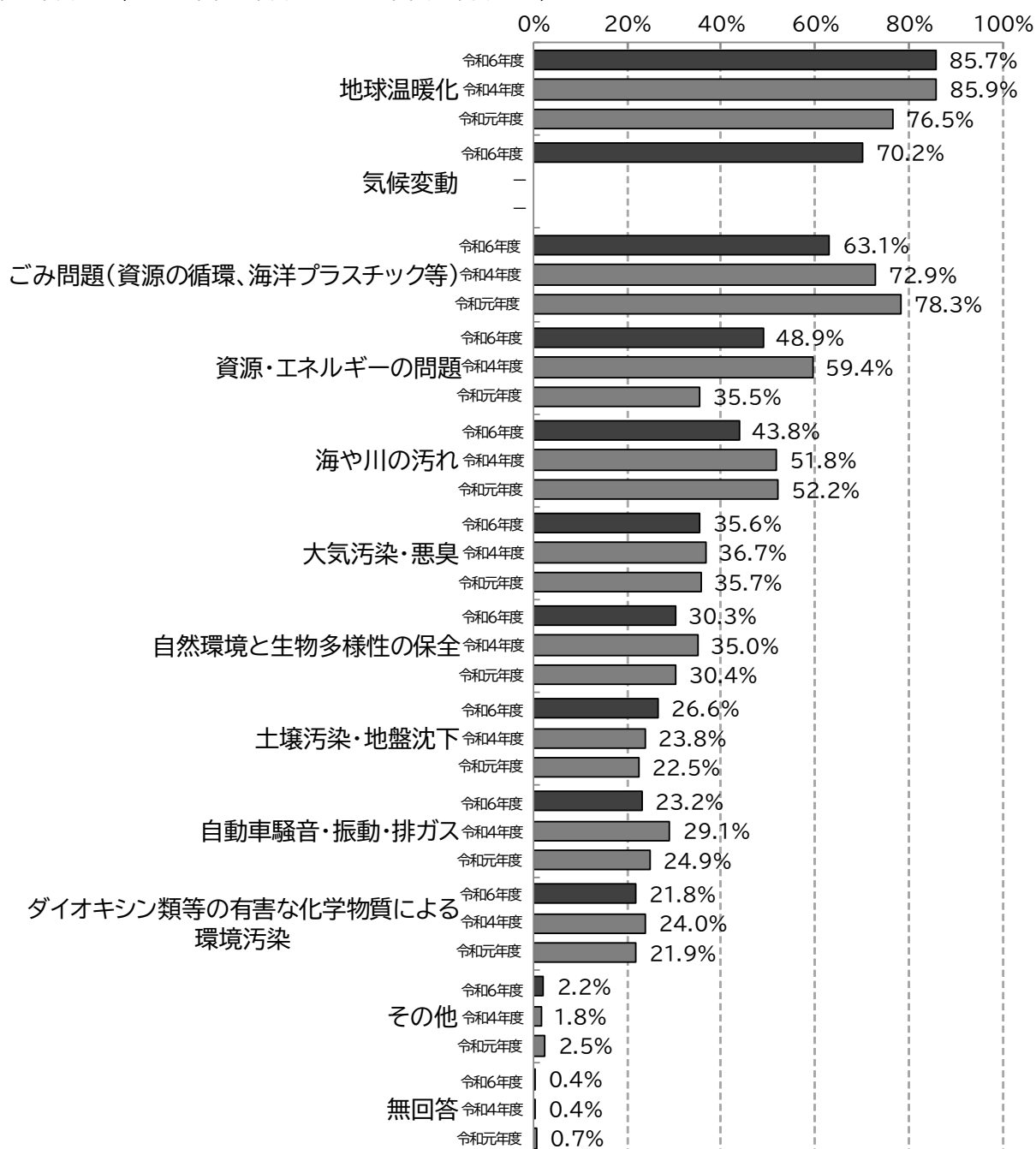


問 5 問 4 で「1. 非常に興味がある」、「2. 興味がある」、「3. 少しは興味がある」を選んだ方にお尋ねします。
現在どのような環境問題に関心がありますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 「地球温暖化」が最も多く 85.7%、次いで「気候変動」が 70.2%、「ごみ問題（資源の循環、海洋プラスチック等）」が 63.1%でした。

「地球温暖化」は令和元年度に実施された調査では 76.5%で二番目に関心のある環境問題でしたが、令和 4 年度、令和 6 年度ともに最も関心のある環境問題になりました。

令和6年度N=1,094、令和4年度N=757、令和元年度N=1,130

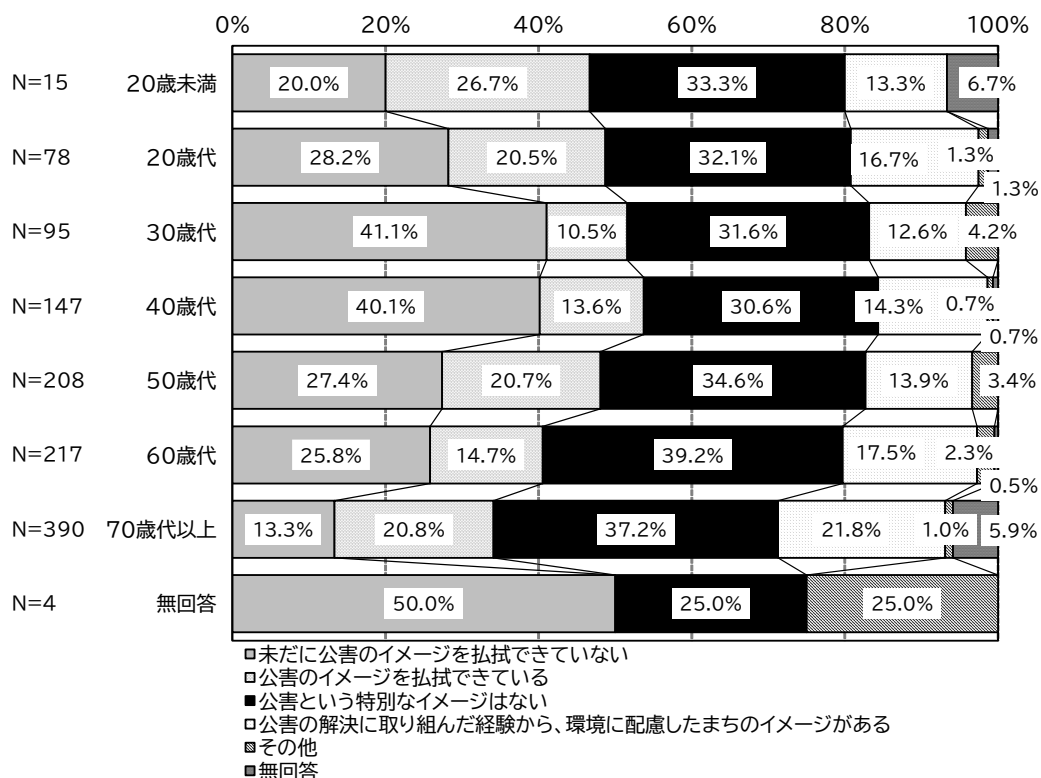
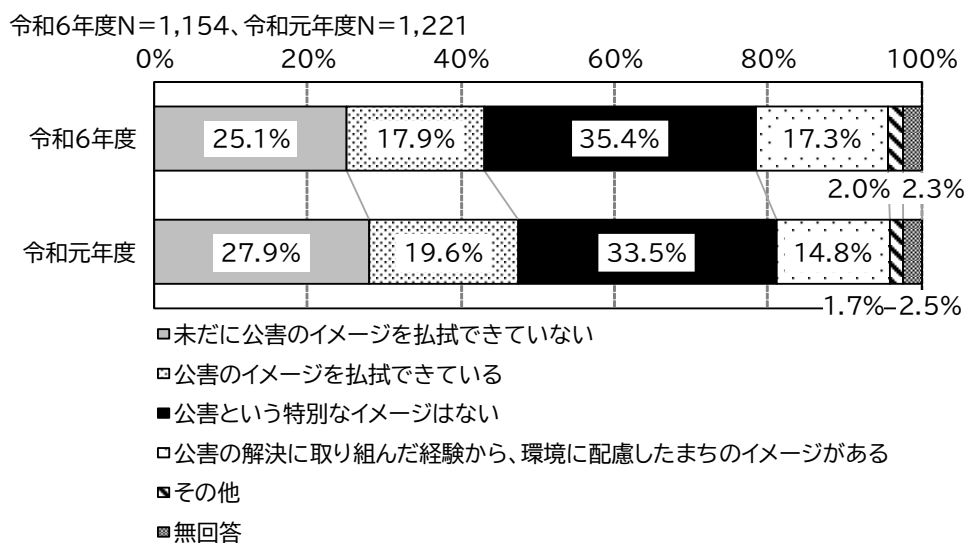


問 6 本市は過去に「四日市公害」という深刻な公害を経験しましたが、現在の本市における公害のイメージをどのように感じていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 「公害という特別なイメージはない」が 35.4%と最も多く、次いで「未だに公害のイメージを払拭できていない」が 25.1%、「公害のイメージを払拭できている」が 17.9%でした。

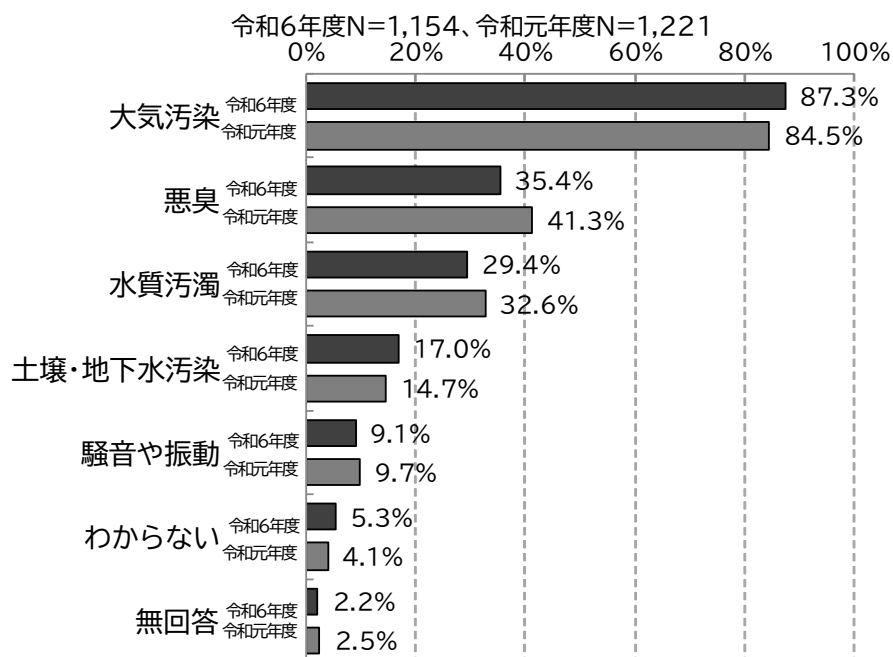
令和元年度に実施された調査と比較すると「未だに公害のイメージを払拭できていない」と回答した割合は 2.8 ポイント減少し、「公害のイメージを払拭できている」、「公害の解決に取り組んだ経験から、環境に配慮したまちのイメージがある」を合わせた割合は、0.8 ポイント増加しています。

30 歳代、40 歳代は「未だに公害のイメージを払拭できていない」と回答した割合が約 40%であり、他の年代と比べて高くなっています。



問 7 問 6 の回答では、特にどのような「公害」をイメージされましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください

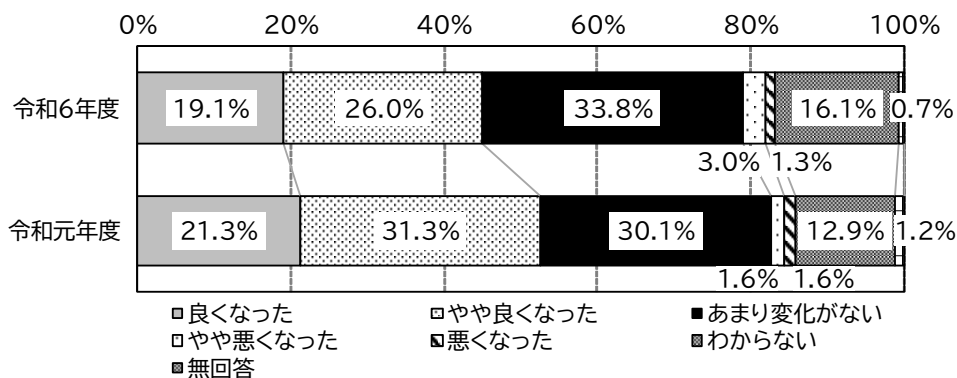
- 「大気汚染」が 87.3%と最も多く、次いで「悪臭」が 35.4%、「水質汚濁」が 29.4%でした。
令和元年度に実施された調査と同じ傾向となりました。



問 8 あなたは、四日市市の環境について、以前（概ね 10 年前）と比べてどのように変化してきていると思いますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 「良くなった」、「やや良くなった」を合わせた「四日市市の環境が良くなった傾向」は、45.1%でした。
令和元年度に実施された調査と比較して、「四日市市の環境が良くなった傾向」は 7.5 ポイント減少し、「わからない」、「あまり変化がない」を合わせた割合は 6.9 ポイント増加しました。

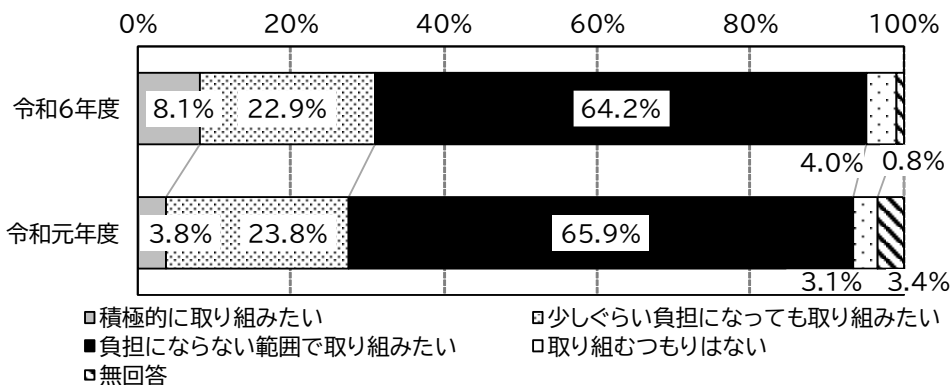
令和6年度N=1,154、令和元年度N=1,221



問 9 環境問題に取り組む姿勢として、あなたの考えに近いものはどれですか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

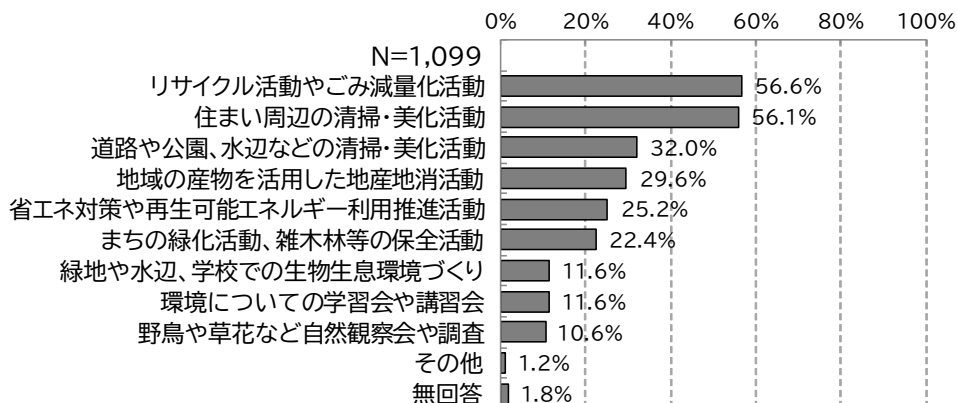
- 「負担にならない範囲で取り組みたい」が 64.2%と最も多く、次いで「少しぐらい負担になっても取り組みたい」が 22.9%、「積極的に取り組みたい」が 8.1%でした。
令和元年度に実施された調査と比較して、「積極的に取り組みたい」と回答した割合は 4.3 ポイント増加しました。

令和6年度N=1,154、令和元年度N=1,221



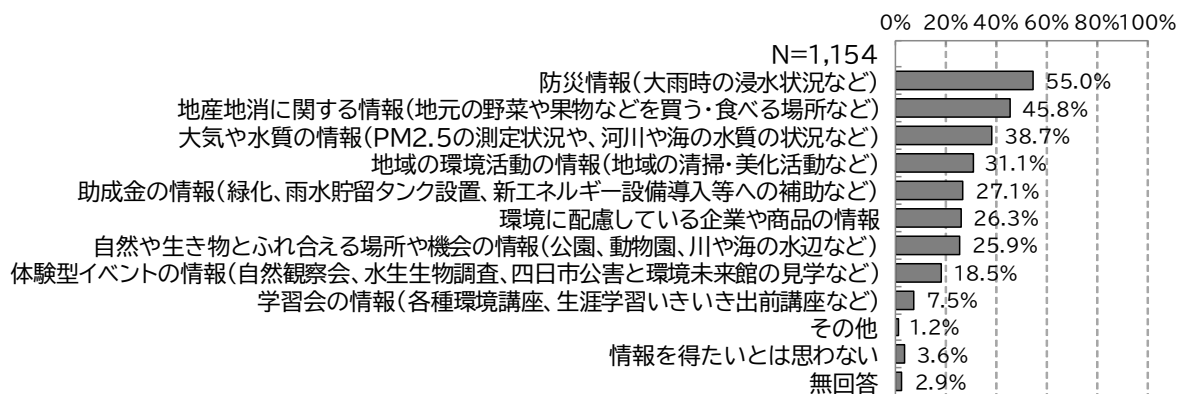
問 10 問 9 で「1.積極的に取り組みたい」、「2.少しい負担になっても取り組みたい」、「3.負担にならない範囲で取り組みたい」を選んだ方にお尋ねします。どのような環境保全活動に、参加や協力をしてみたいと思いますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 「リサイクル活動やごみ減量化活動」が 56.6%と最も多く、次いで「住まい周辺の清掃・美化活動」が 56.1%、「道路や公園、水辺などの清掃・美化活動」が 32.0%でした。



問 11 あなたが、環境に関する取組を積極的に行うために、どのような情報が必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

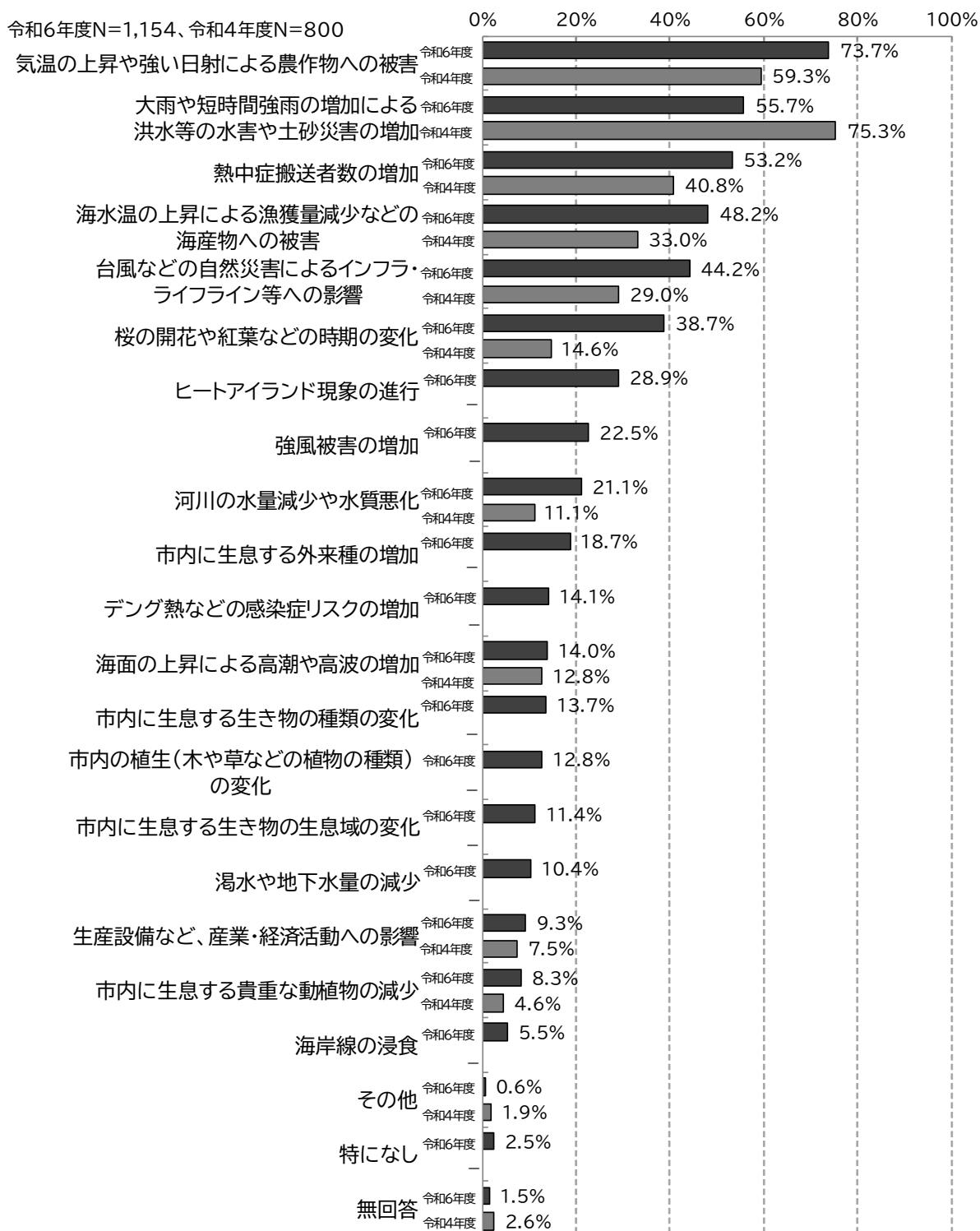
- 「防災情報（大雨時の浸水状況など）」が 55.0%と最も多く、次いで「地産地消に関する情報（地元の野菜や果物などを買う・食べる場所など）」が 45.8%、「大気や水質の情報（PM2.5 の測定状況や、河川や海の水質の状況など）」が 38.7%でした。



問 12 地球温暖化による影響として、以下のようなことが代表例としてあげられます。あなたが身近に感じていることはありますか。あてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

- 地球温暖化による影響として身近に感じている事柄は、「気温の上昇や強い日射による農作物への被害」が最も多く 73.7%、次いで「大雨や短時間強雨の増加による洪水等の水害や土砂災害の増加」が 55.7%、「熱中症搬送者数の増加」が 53.2%でした。

「気温の上昇や強い日射による農作物への被害」は、令和4年度に実施された調査では二番目に身近に感じている地球温暖化による影響でしたが、令和6年度の調査では最も身近に感じている地球温暖化による影響となりました。

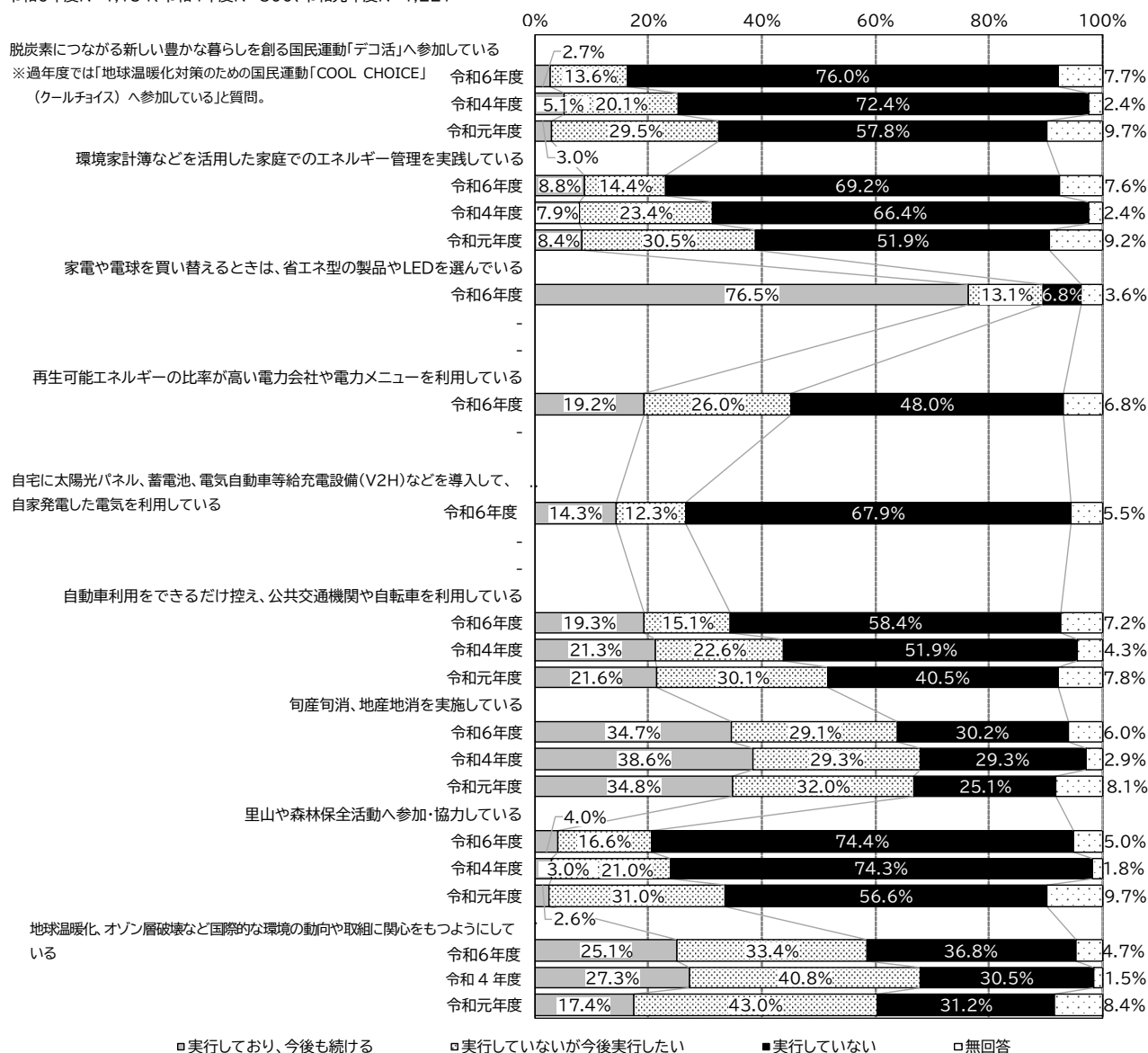


問 13 あなたが（または、あなたの家庭で）日ごろ行っている環境保全の取り組みについてお聞きます。以下の 1～26 のそれぞれの取り組みについて、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 「実行しており、今後も続ける」と回答した割合は、「ごみの正しい分別、ルールを守ったごみ出しを行っている」が最も多く 94.5%、次いで「買い物時にはマイバッグを持参し、レジ袋の利用を控えている」が 89.3%、「家電や電球を買い替えるときは、省エネ型の製品や LED を選んでいる」が 76.5%でした。

令和元年度に実施された調査と比較すると、「実行しており、今後も続ける」と回答した割合は、「地球温暖化、オゾン層破壊など国際的な環境の動向や取り組みに関心をもつようにしている」が最も増加しています。

令和6年度N=1,154、令和4年度N=800、令和元年度N=1,221



令和6年度N=1,154、令和4年度N=800、令和元年度N=1,221



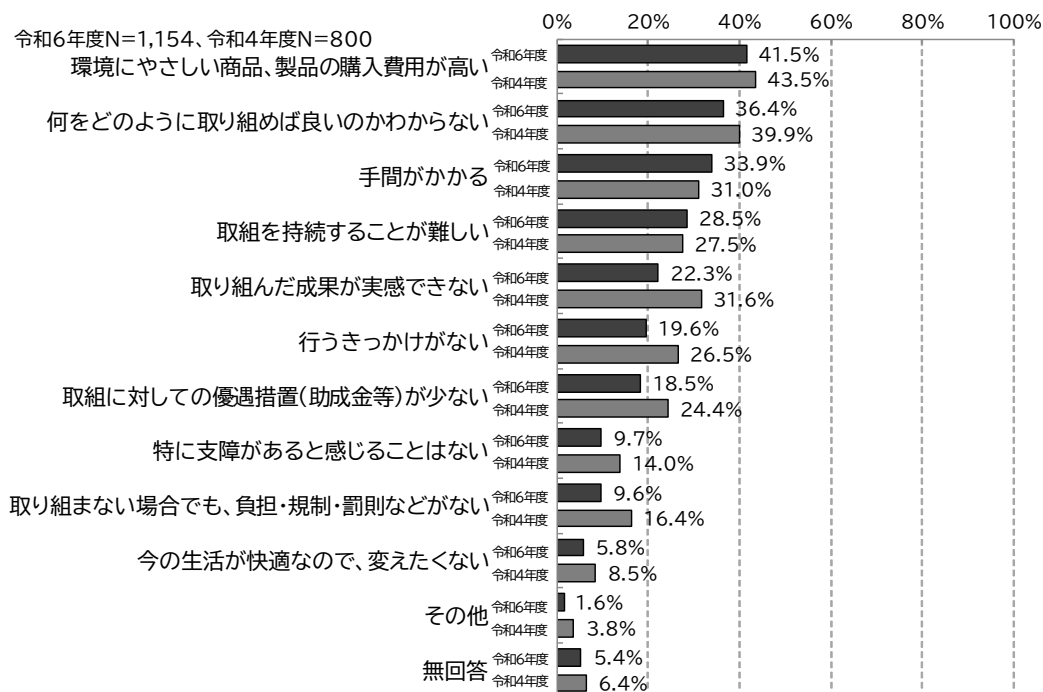
令和6年度N=1,154、令和4年度N=800、令和元年度N=1,221



問 14 問 13 にあるような環境保全の取り組みを実施するために、支障があると感じるものは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 環境保全の取り組みを実施するために、支障であると感じる事柄は、「環境にやさしい商品、製品の購入費用が高い」が最も多く 41.5%、次いで「何をどのように取り組めば良いのかわからない」が 36.4%、「手間がかかる」が 33.9%でした。

「環境にやさしい商品、製品の購入費用が高い」は令和 4 年度、令和 6 年度ともに環境保全の取り組みを実施するうえでの支障であると最も感じる事柄となりました。

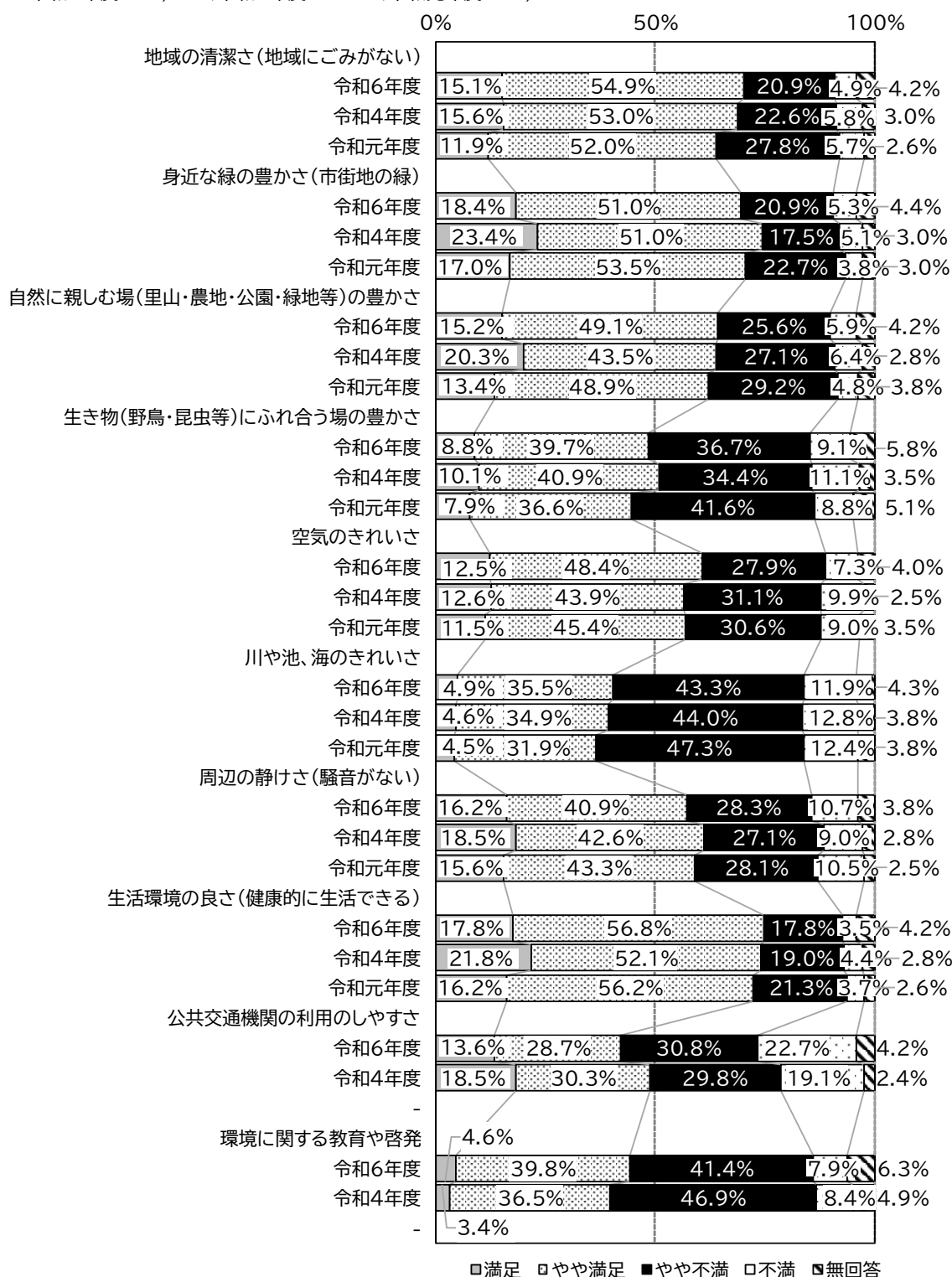


問 15 現在の四日市市の環境や市の取り組みについて、あなたの満足度と期待度をお聞きます。以下の 1～13 のそれぞれの項目について、あなたの考えや意見に近い番号 1 つに○をつけてください。(満足度)

- 現状の満足度では、「満足」または「やや満足」と回答した割合は、「生活環境の良さ（健康的に生活できる）」が最も多く 74.6%、次いで「地域の清潔さ（地域にごみがない）」が 70.0%、「身近な緑の豊かさ（市街地の緑）」が 69.4%でした。

令和元年度に実施された調査と比較すると、「満足」または「やや満足」と回答した割合は、「空気のきれいさ」が最も増加しています。

令和6年度N=1,154、令和4年度N=800、令和元年度N=1,221

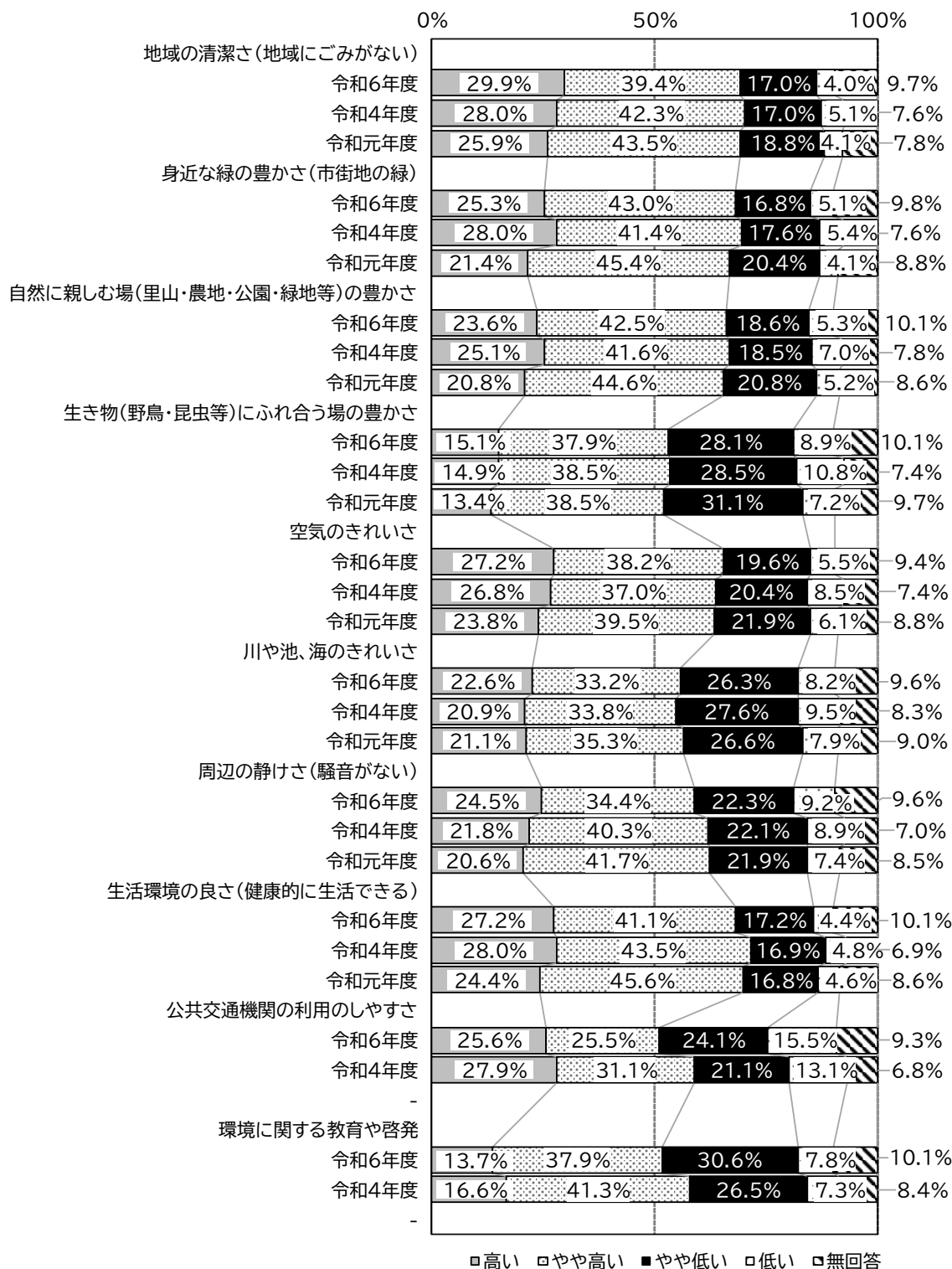


問 15 現在の四日市市の環境や市の取り組みについて、あなたの満足度と期待度をお聞きます。以下の 1～13 のそれぞれの項目について、あなたの考えや意見に近い番号 1 つに○をつけてください。（期待度）

- 将来の期待度では、「高い」または「やや高い」と回答した割合は、「地域の清潔さ（地域にごみがない）」が最も多く 69.3%、次いで「身近な緑の豊かさ（市街地の緑）」、「生活環境の良さ（健康的に生活できる）」が 68.3%でした。

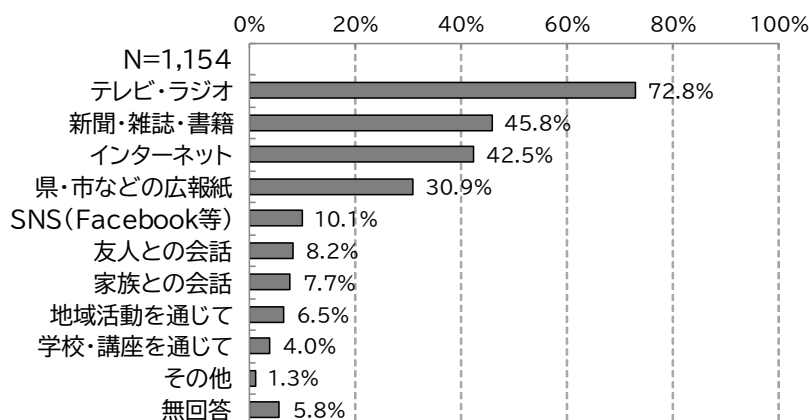
令和元年度に実施された調査と比較すると、「高い」または「やや高い」と回答した割合は、「空気のきれいさ」が最も増加しています。

令和6年度N=1,154、令和4年度N=800、令和元年度N=1,221



問 16 あなたは地球温暖化問題に関する情報を主にどこから得ていますか。あてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

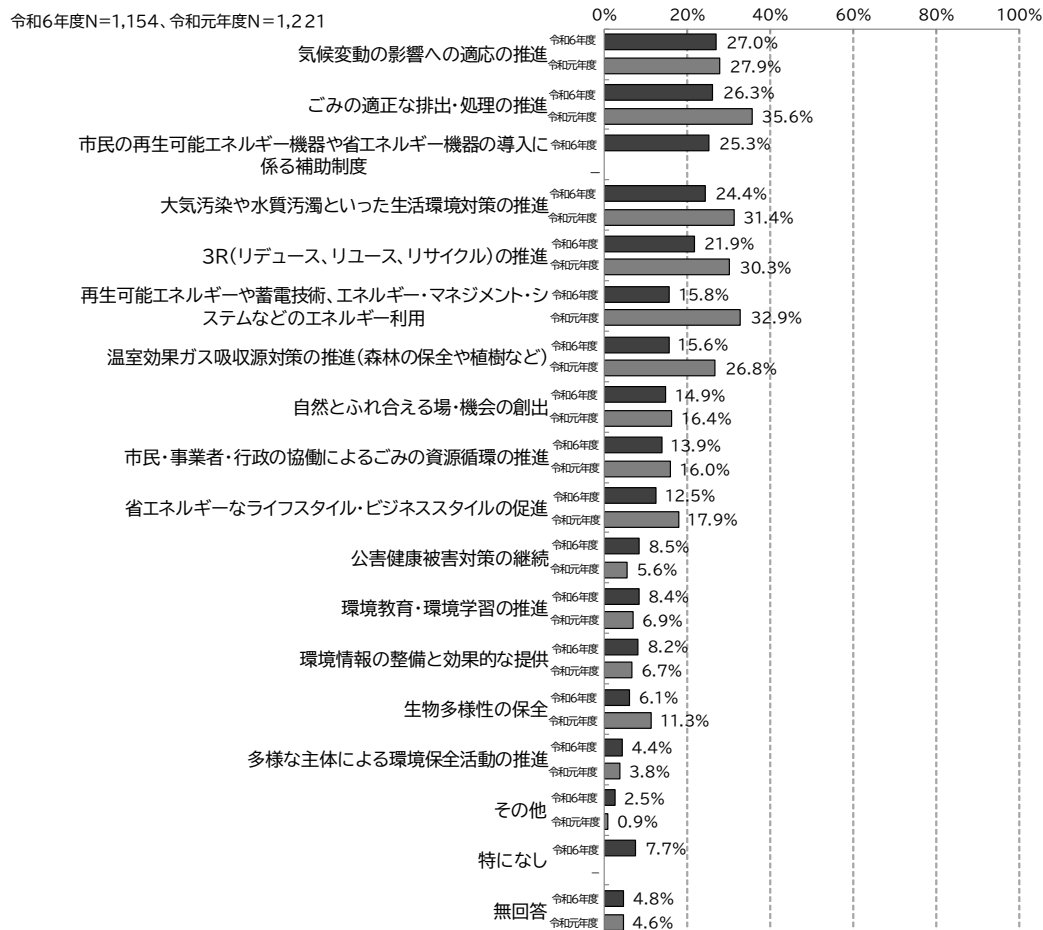
- 情報収集のための媒体は、「テレビ・ラジオ」が最も多く 72.8%、次いで「新聞・雑誌・書籍」が 45.8%、「インターネット」が 42.5%でした。



問 17 四日市市で重点的に進めて欲しい取組について、あてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

- 重点的に進めて欲しい取組は、「気候変動の影響への適応の推進」が最も多く 27.0%、次いで「ごみの適正な排出・処理の推進」が 26.3%、「市民の再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の導入に係る補助制度」が 25.3%でした。

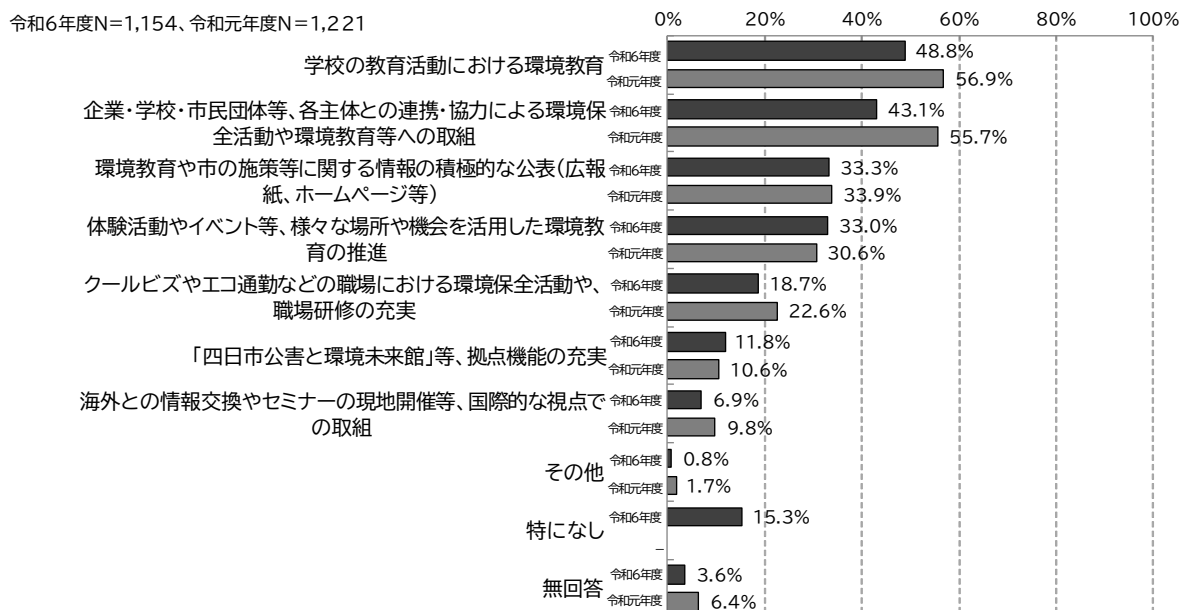
「気候変動の影響への適応の推進」は令和元年度に実施された調査では四番目に重点的に進めて欲しい取り組みでしたが、令和6年度の調査では最も重点的に進めて欲しい取り組みとなりました。



問 18 「環境をともに学び、考え、行動する」ために、四日市市で重点的に進めて欲しい取組について、あてはまる番号を 3 つまで選んで○をつけてください

- 「学校の教育活動における環境教育」が 48.8%と最も多く、次いで「企業・学校・市民団体等、各主体との連携・協力による環境保全活動や環境教育等への取組み」が 43.1%、「環境教育や市の施策等に関する情報の積極的な公表（広報紙、ホームページ等）」が 33.3%でした。

令和元年度に実施された調査と比較すると、「学校の教育活動における環境教育」、「企業・学校・市民団体等、各主体との連携・協力による環境保全活動や環境教育等への取組」と回答した割合は令和 6 年度も変わらず多いです。



問 19 本市の環境面でのまちづくりに関する提案、期待、要望等があれば、ご自由にお書きください。

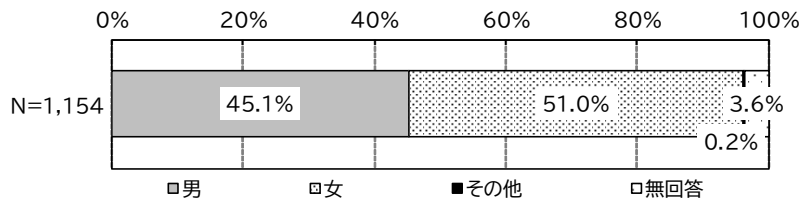
●環境目標ごとに分類し、代表的なものを抜き出して掲載しました。

分類	代表的な意見	総件数
環境目標Ⅰ 気候変動	<ul style="list-style-type: none"> ●四日市は緑駅（四日市）周辺を整備よりも、地域の道路の劣化が著しいので、何とかするべきだと思う。同じ所が何回も陥没しているのに応急処置だけとは、おかしいと思う。全体的に点検して欲しい。地が少ないと思われるので、緑地を増やしてほしい。 ●熱中症搬送者の増加問題に対する対応を期待しています。 ●空家を買いとるなど（むずかしいが）して環境保全のための場所に（公園など）なっていけば緑化又は太陽光発電などに利用できないか。 ●道路整備の充実による渋滞解消をする事により省エネ、CO₂大気汚染減少を。 ●地球温暖化の対策・推進をもっと進めてほしい。・四日市市は、四日市公害として、日本4大公害の一つです。地球キボでの対策にもつめてほしいです。 ●災害に備える環境づくりをしてほしい。（土砂くずれ、河川のはんらんなど） ●ソーラーパネルの設置に必要な補助金の充実・車がないと不便なため、環境にもよくない。公共交通機関の充実が必要。 ●数年前に、市はゴミ焼却炉を新設しているが、なぜ発電機を開設しなかったのか？ ●山林伐採してメガソーラーパネル設置には、賛成できません。 ●バスタ四日市歩道にミスト（夏期）（暑い歩道では、熱中症になりやすく、せっかく造っても人が集まらない状態には、なってほしくない） ●山林部を切り崩して大量のソーラーパネルを設置しているのは自然環境破壊だと思うので気になります。 ●環境面から少し外れるかも知れませんが天白川の堤防工事から約50年、川底に土砂堆積樹木が大きくなりすぎて川底が浅くなってきています。大雨時の決壊、越水の危険の為底撈えを行って欲しいです。 ●気候変動対策として緩和と適応をバランスよく取り組みながら、自然が豊かで住みやすい四日市市になっていくことを期待しています。 ●ここ最近の環境の変化で夏に大雨（ゲリラ豪雨）が増えています。ここの団地の側溝が浅いのと合流地点が直線でないことから大雨の際は側溝から大量に水が溢れ出しています。 ●大雨に対して治水能力が足りてないと感じる時があるので、豪雨に対する災害対策を強化してほしい。 	76 件
環境目標Ⅱ 持続可能な資源循環の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●きれいな町づくりを目指す。（四日市のアーケード街などゴミが多くて目に余ります。） ●個人で出来ることは小さいですが、ウォーキングついでにゴミ拾い、雑草の除去をしようと思ってゴミ袋の価格が上がればかになりません。他府県ではゴミ拾いボランティア用のごみ袋があると聞きます。 ●生ゴミ乾燥機の助成金 もう少しあったら購入したいのですが4万円では考えてしまいます。 ●ゴミ収集時、いろいろなゴミの対応のよさに感心しております。特に違法なゴミに対してすみやかに処理していただいている事に感謝致しますとともに今後ともよろしくお願い致します。 ●四日市というくくりでも大切だと思いますが、まずは自分たちが住む街を綺麗にするという意識を持つ事が大切だと思います。地域で手入れをしてもらってたとえわずかでも助成金を払うなどしてはどうでしょう。自分達の住む場所が美しければ他の所の汚さが目につき周りの事へも関心が高まるのでないでしょうか？ ●他にくらべて、リサイクル率が低いと思います。 ●とにかく、道路へのゴミのポイ捨てが多すぎる。ゴミのポイ捨て禁止の啓発を多くしてほしい。・いまだに、ゴミの分別のできない人に教育を！ ●ごみガイドブックの改訂。分別方法がわからない物品がある。ホームページ上で検索できるようにしてほしい。 	28 件

環境目標Ⅲ 自然との共生、 生物多様性の保全	<ul style="list-style-type: none"> ● 堤防もあんなに桜花がきれいに咲いていましたのに段々桜の木は減りそれとかわり自然木があらこちらに生えています。堤防は1年に1回の草刈りで道路までつがるのびて道路半分をせりょうしている時があります。 ● 外来種（生物・植物等）に危機感をもって対処して頂きたい。 ● 自然に親しむと言っても木や緑を沢山植えても、温暖化で草や木が伸び放題で、木を切ったり草を刈る人も人出不足で伸び放題になるくらいなら植えないでほしいです。 ● 街路樹をまるぼうずにしてしまうようなせんていは、やめてほしい。子どもが、自然と気軽にふれあえるような小さな緑地を身近にふやしてほしい。 ● （小動物の減少）について、春 田植時の蛙の合唱が静かになりました。夏・昆虫類の減少（バッタ、イナゴ、カマキリ、トンボ、蚊、蠅など）。鳥類の減少（雀・燕・白鷺・椋鳥・カラスなど）。小川（用水路）の小魚の減少。 ● 四日市でも農村地域では、野獣の被害が深刻です。田畑があらされて“緑豊かな田舎”とはほど遠いです。野獣の為、耕作をあきらめた土地は草が生い茂って更にジャングル化しています。 	55 件
環境目標Ⅳ 安全で快適な生活環境 の創造	<ul style="list-style-type: none"> ● 地震・津波に対する防災施設の整備。例えば津波タワー等高台の確保のため公共施設だけでなく・民間ビル等の活用策を図る（津波を参考） ● 飲み水の安全性の確保 全国で水質劣化が深刻化しています。水道事業を外資系企業に業務委託する自治体が増えていますが、何をやっているのか不透明で信用できません。四日市市市はそんな事が無いようにして頂きたいと思います。 ● 水源におけるP F A Sの対策実施及びその情報公開を積極的に行っていただきたい。 ● 大気汚染（悪臭）に関しては、住み続けられないと感じる程の為、可能な限り早めに改善に向かえばいいなと思います。 ● 子どもが小学生の時四日市公害と環境未来館の企画で四日市公害で大変な苦労をされた男性の方のお話が大変良く印象に残っています。経験を語りついで下さる方に感謝しております。 ● 公共交通機関を充実させていけば、車の排気ガスも減り空気がきれいになると思う。乗る人が減少するからと廃線にするのではなく、もっと便利になれば利用客も増えると思う。四日市（三重県全体）は南北に通る道路が渋滞しすぎだと思う。 ● 災害に備える環境づくりをしてほしい。（土砂くずれ、河川のはんらんなど） ● 「四日市＝公害」のイメージが対外的には全く払拭できていないし、市中心部では未だに変な臭いがする。昔から知っている人からすれば大幅に改善しているだろうが、外から来た身にとっては、環境に力を入れている都市とは思えない。 ● 四日市港の水質改善を進めてほしい。 	44 件
環境目標Ⅴ よりよい環境を共創する 仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 今の環境より悪くならないようにしていきたい。少しの事でできる事を広報などで知らせたい。みんなの意しきいかくをして、少しでも、よくしていきたいから、情報が欲しいです。 ● 広報より新聞に大きくとり上げてほしい。 ● 四日市は公害で有名な街です 教育でその事を充実し環境変化についてもっと子供達に知ってもらいたいです。私自身は、親と共に高度経済成長と共に育ちました。 ● 今ではなく、将来を見据えて、とりくみを進めていくべき問題だと思う。市は、その舵取り役であり、長いスパンで四日市の未来を考え、発信し続けてほしい。 ● 環境への取組みは即効性がない(結果が出るのに時間がかかる)ので、その辺の理解度を高めるような発信(取組み)が必要ではないか。 ● 市民にとって暮らしやすくはもちろんですが、市外の方にとっても魅力的なメッセージを提示する活動を期待しております。 	20 件
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 紙面でのアンケート調査は、資源や税金の無駄が多いと思います。電子化した方が良いでしょう。 ● 人が多く集まって、お金を落してくれて豊かな四日市になってほしい。四日市ってどこ？と何県と聞かれない存在感のある大きな四日市になってほしい。 ● 環境面でのまちづくりに取り組むことが、環境都市四日市市を作ることになり、持続的な社会を作ることが大切であるから。 ● 市街地の緑はそこまでなくていいので、街中の室内で子供たちが遊べる施設を作って欲しいです。 	42 件

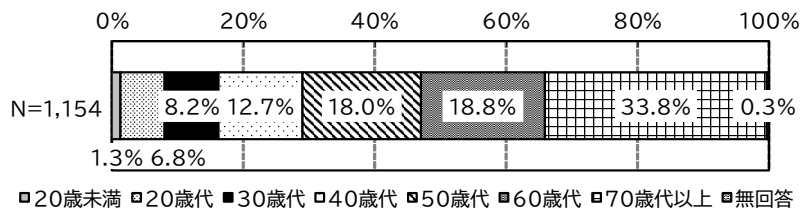
属性 1 性別

●「女性」が 51.0%、「男性」が 45.1%でした。



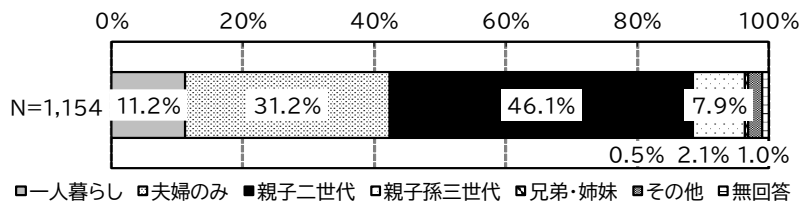
属性 2 年齢

●「70 歳代以上」が 33.8%と最も多く、次いで「60 歳代」が 18.8%、「50 歳代」が 18.0%でした。



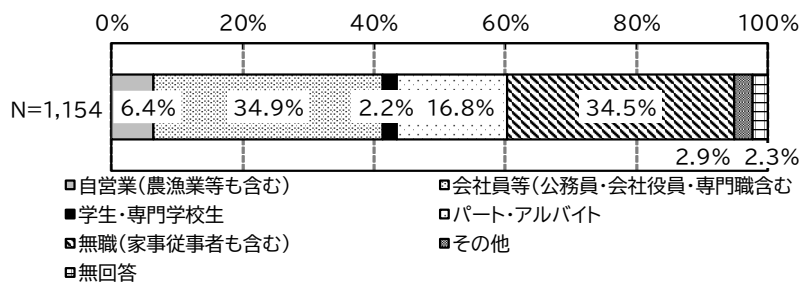
属性 3 家族構成

●「親子二世代」が 46.1%と最も多く、次いで「夫婦のみ」が 31.2%、「一人暮らし」が 11.2%でした。



属性 4 職業

●「会社員等（公務員・会社役員・専門職含む）」が 34.9%と最も多く、次いで「無職（家事従事者も含む）」が 34.5%、「パート・アルバイト」が 16.8%でした。



属性 5 居住地区

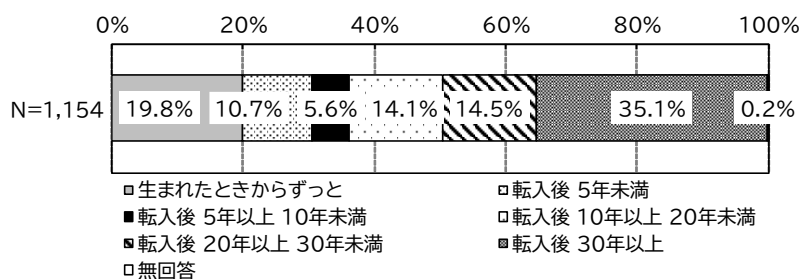
●「常磐」が 7.0%と最も多く、次いで「三重」が 6.9%、「中部」が 6.5%でした。

(N=1154)

中部	富洲原	富田	羽津	常磐	日永
6.5%	2.8%	5.1%	5.4%	7.0%	5.0%
四郷	内部	塩浜	小山田	川島	神前
4.7%	6.4%	2.0%	2.1%	4.7%	2.6%
桜	三重	県	八郷	下野	大矢知
5.6%	6.9%	2.5%	3.0%	2.7%	5.0%
河原田	水沢	保々	海蔵	橋北	楠
1.5%	1.6%	2.3%	3.7%	1.6%	3.6%
わからない	無回答				
5.3%	0.3%				

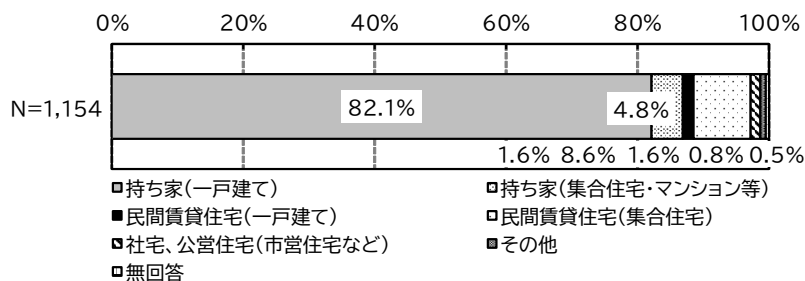
属性 6 居住年数

●「転入後 30 年以上」が 35.1%と最も多く、次いで「生まれたときからずっと」が 19.8%、「転入後 20 年以上 30 年未満」が 14.5%でした。



属性 7 居住形態

●「一戸建て（持ち家）」が 82.1%と最も多く、次いで「民間賃貸住宅（集合住宅）」が 8.6%、「持ち家（集合住宅・マンション等）」が 4.8%でした。



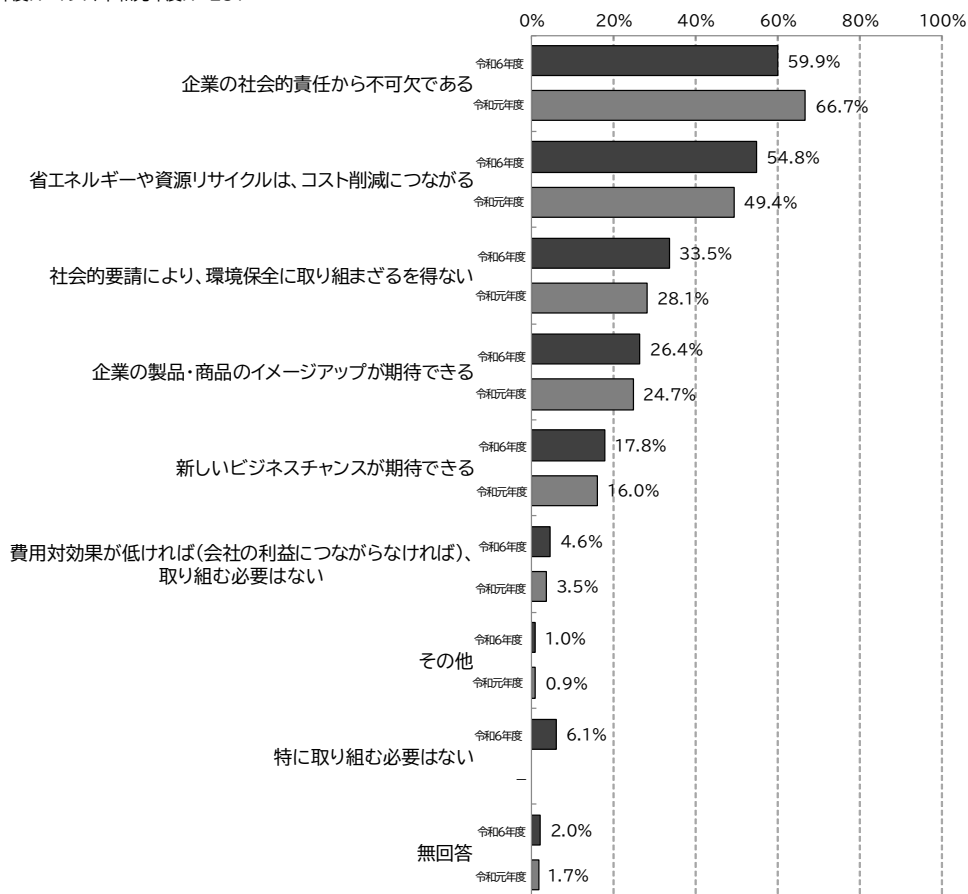
(3) 調査の結果（事業者）

問 1 貴事業所では、環境保全の取組についてどのようにお考えですか。次の 1 ～ 8 のそれぞれの項目について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 「企業の社会的責任から不可欠である」が最も多く 59.9%、次いで「省エネルギーや資源リサイクルは、コスト削減につながる」が 54.8%、「社会的要請により、環境保全に取り組まざるを得ない」が 33.5%でした。

令和元年度に実施された調査と比較すると、「省エネルギーや資源リサイクルは、コスト削減につながる」、「社会的要請により、環境保全に取り組まざるを得ない」と回答した割合が最も増加しています。

令和6年度N=197、令和元年度N=231

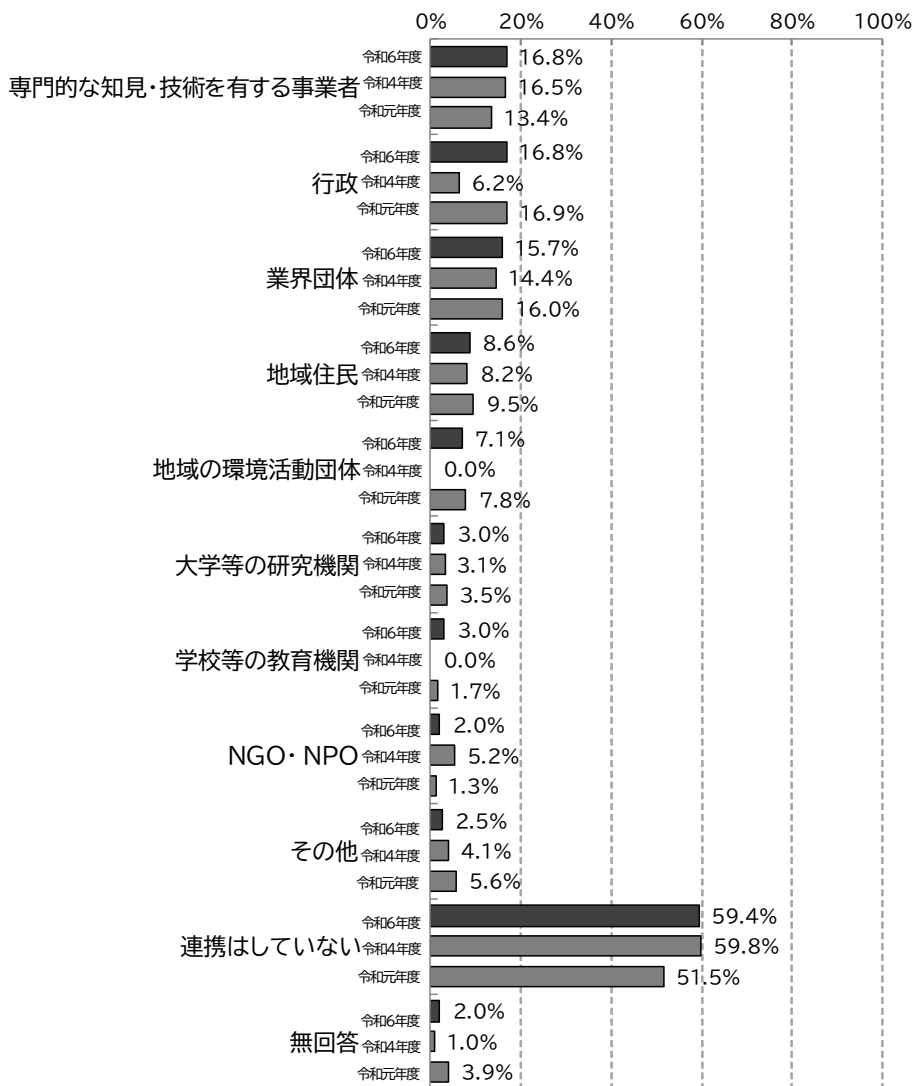


問 2 貴事業所の事業活動において、環境に配慮した取組を進める際、現在、どのような主体と連携していますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 「連携はしていない」が 59.4%と最も多く、次いで「専門的な知見・技術を有する事業者」、「地域の環境活動団体」、「行政」が 16.8%でした。

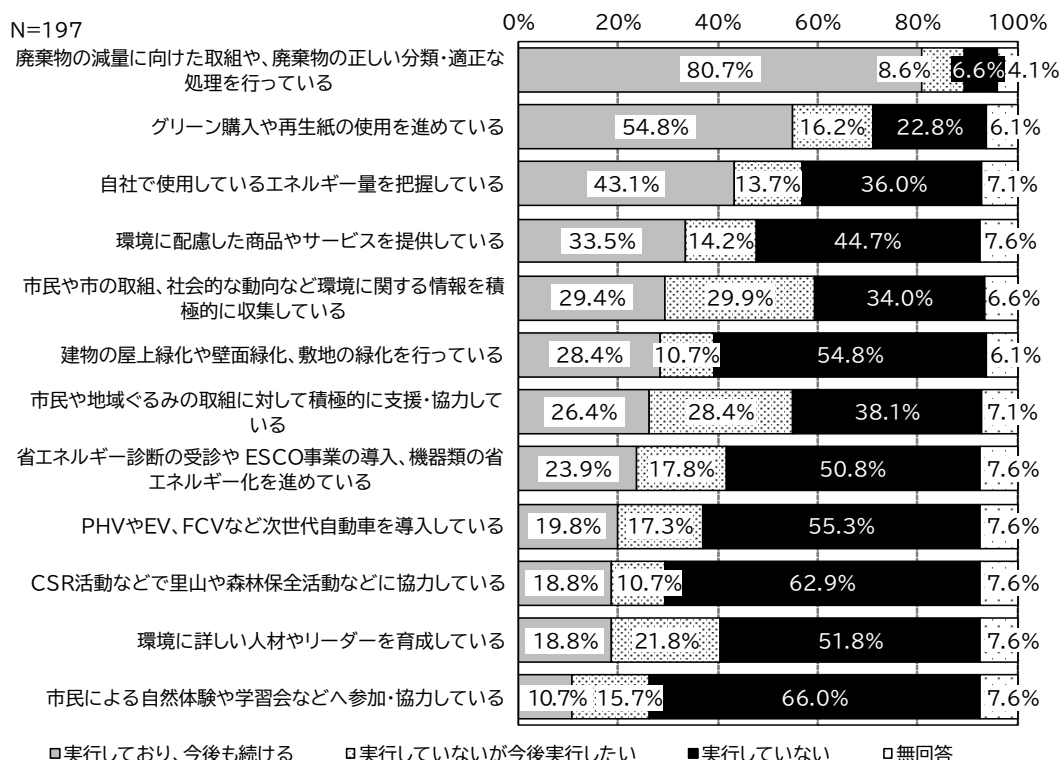
令和元年度に実施された調査と比較すると、「連携はしていない」と回答した割合が令和 6 年度も変わらず最も多いです。

令和6年度N=197、令和元年度N=231、令和4年度N=97



問 3 貴事業所が日ごろ行っている環境保全の取組についてお聞きます。以下の 1～12 のそれぞれの取組について、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

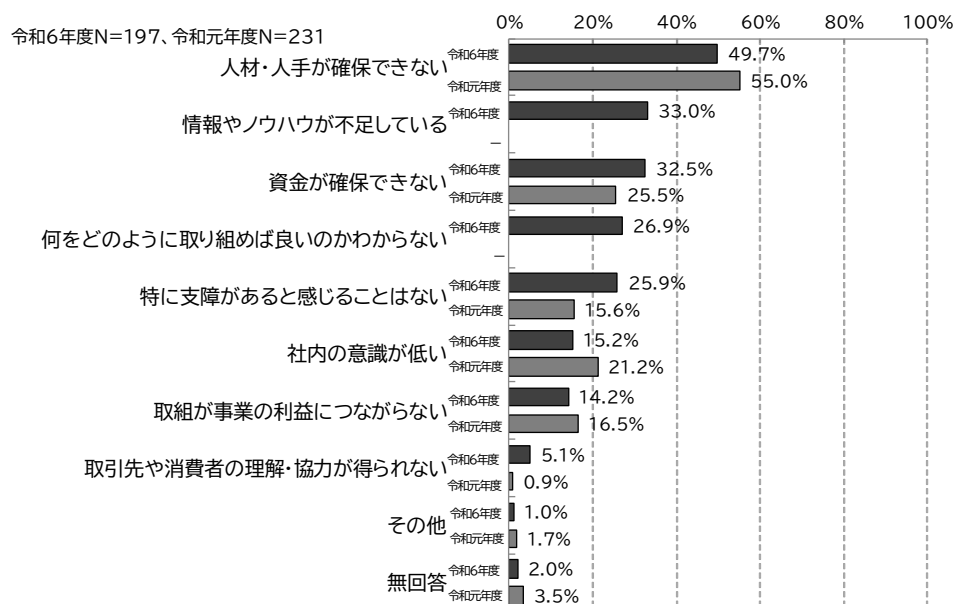
- 「実行しており、今後も続ける」では、「廃棄物の減量に向けた取り組みや、廃棄物の正しい分類・適正な処理を行っている」が 80.7%、「グリーン購入や再生紙の使用を進めている」が 54.8%でした。



問 4 問 3 にあるような環境保全の取組を実行する上で、支障があると感じる理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

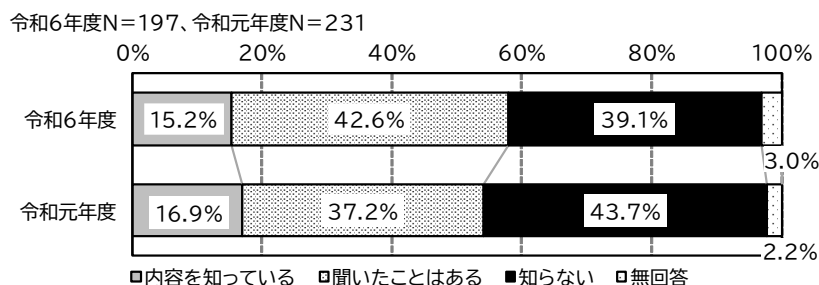
- 「人材・人手が確保できない」が 49.7%と最も多く、次いで「情報やノウハウが不足している」が 33.0%、「資金が確保できない」が 32.5%でした。

令和元年度に実施された調査と比較すると、「人材・人手が確保できない」と回答した割合がと回答した割合が令和 6 年度も変わらず最も多いです。



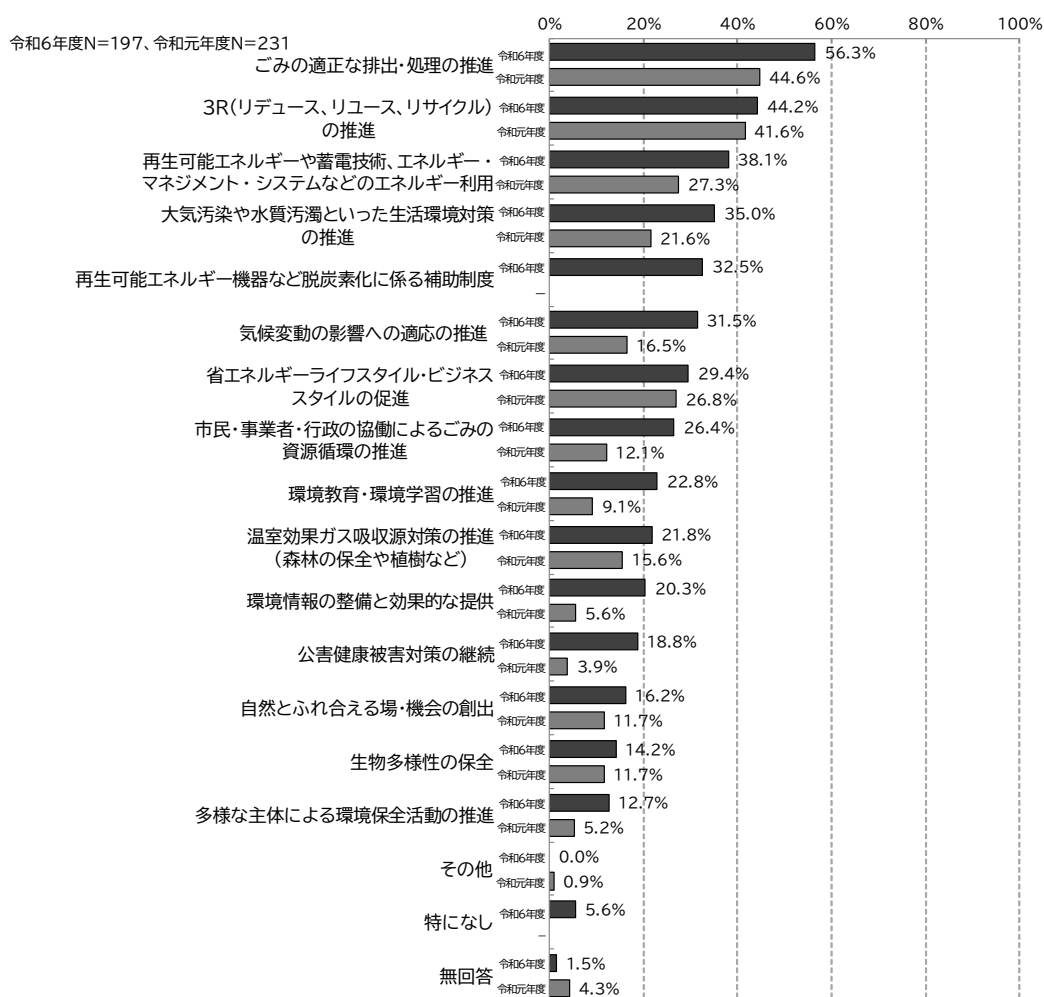
問 5 貴事業所は、「四日市市環境計画」を知っていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 「聞いたことはある」が 42.6%と最も多く、次いで「知らない」が 39.1%、「内容を知っている」が 15.2%でした。
令和元年度に実施された調査と比較すると「内容を知っている」、「聞いたことはある」と回答した割合（認知度）は、3.7 ポイント増加しています。



問 6 本市が取り組む施策のうち、貴事業所が重要と考えるものは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

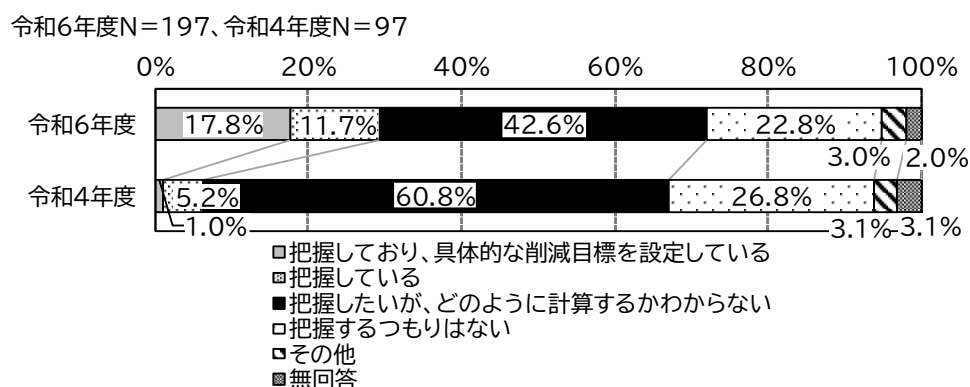
- 「ごみの適正な排出・処理の推進」が 56.3%と最も多く、次いで「3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進」が 44.2%、「再生可能エネルギーや蓄電技術、エネルギー・マネジメント・システムなどのエネルギー利用」が 38.1%でした。
「ごみの適正な排出・処理の推進」は令和元年度、令和4年度、令和6年度ともに本市が取り組む施策のうち、最も重要と考える施策となりました。



問 7 貴事業所では、事業所から排出されている温室効果ガス排出量を把握していますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

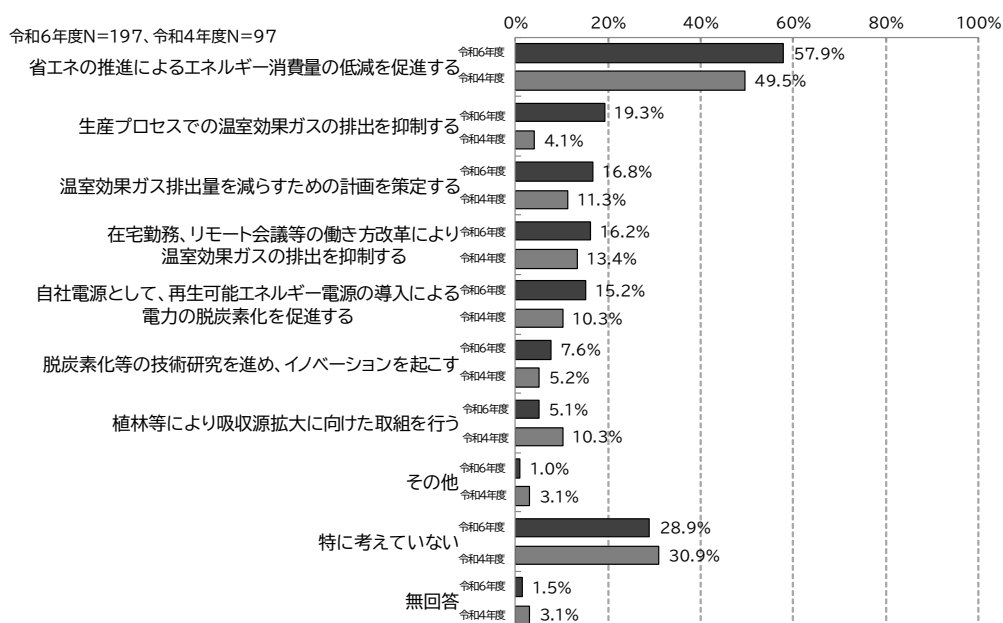
- 事業所から排出されている温室効果ガス排出量の把握について、「把握したいが、どのように計算するかわからない」が最も多く 42.6%、次いで「把握するつもりはない」が 22.8%、「把握しており、具体的な削減目標を設定している」が 17.8%でした。

令和元年度に実施された調査と比較すると「把握しており、具体的な削減目標を設定している」、「把握している」と回答した割合は、23.3 ポイント増加しています。



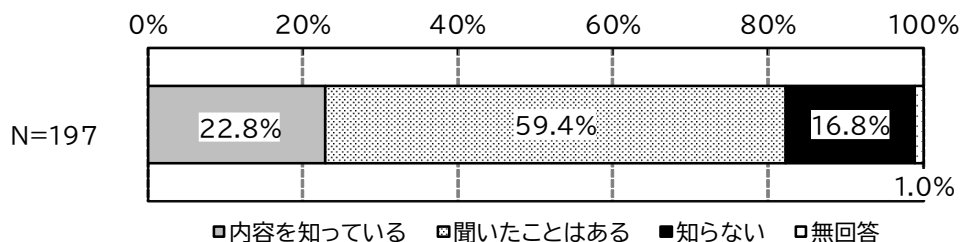
問 8 本市は、「2050 年に温室効果ガス排出量を実質ゼロにする、すなわち 2050 年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」としています。貴事業所では、地球温暖化対策を実施する上でどのような対策を考えていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 「省エネの推進によるエネルギー消費量の低減を促進する」が最も多く 57.9%、次いで「生産プロセスでの温室効果ガスの排出を抑制する」が 19.3%、「温室効果ガス排出量を減らすための計画を策定する」が 16.8%でした。
- 「生産プロセスでの温室効果ガスの排出を抑制する」は令和 4 年度に実施された調査では 4.1%でしたが、令和 6 年度の調査では二番目に考えている地球温暖化対策となりました。



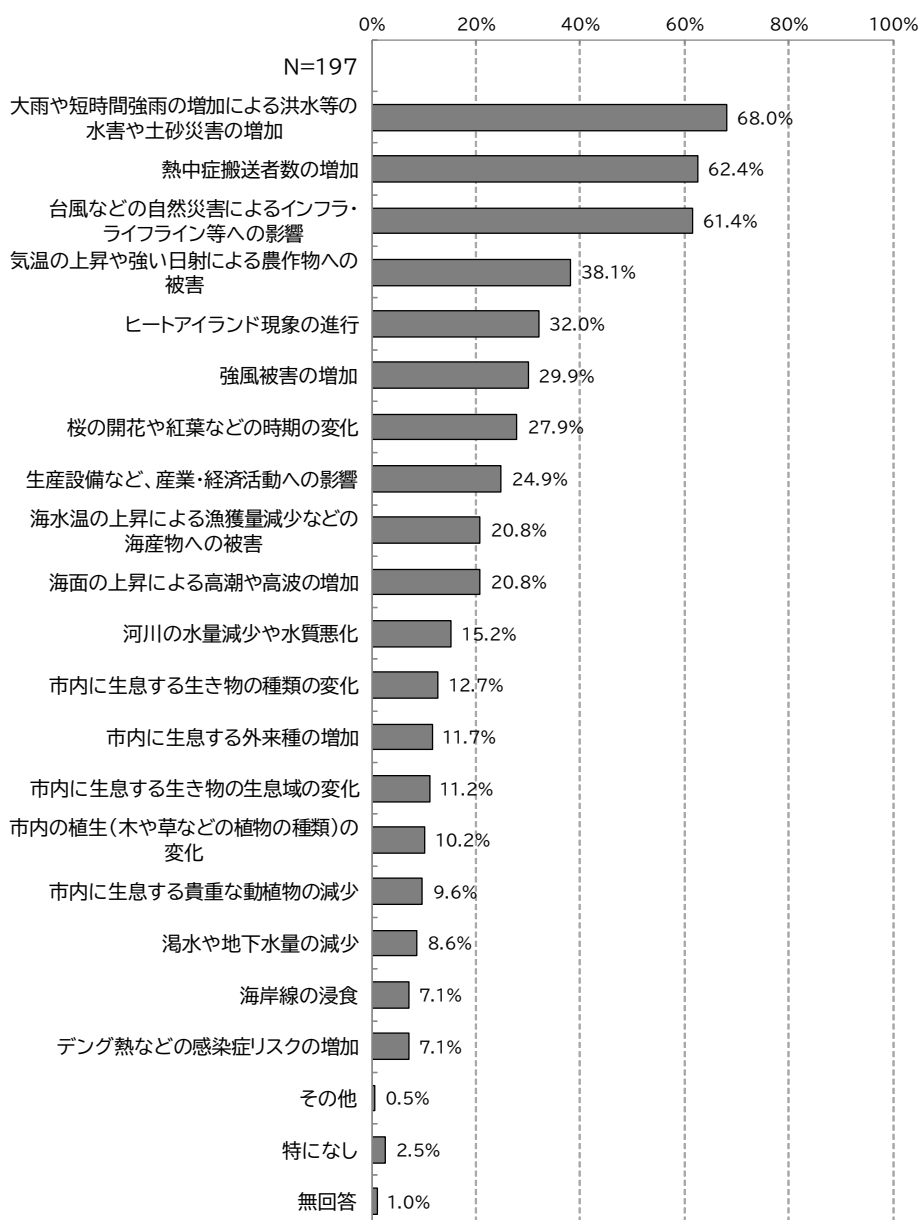
問 9 貴事業所は、「気候変動への適応」という言葉を知っていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

●「聞いたことはある」が最も多く 59.4%、次いで「内容を知っている」が 22.8%、「知らない」が 16.8%でした。



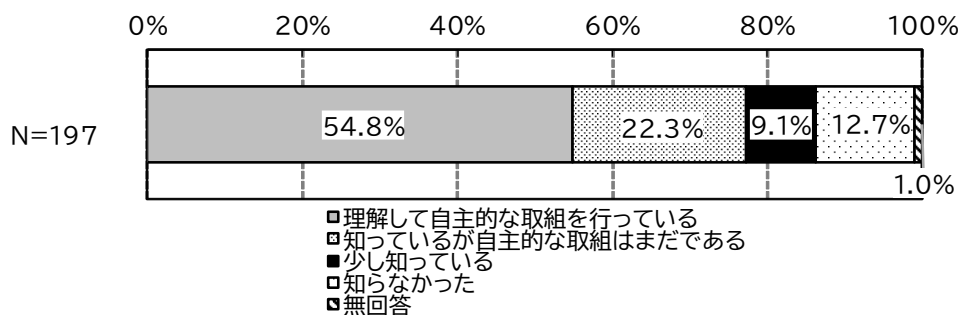
問 10 地球温暖化による影響として、以下のようなことが代表例としてあげられます。貴事業所が身近に感じていることはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

●「大雨や短時間強雨の増加による洪水等の水害や土砂災害の増加」が最も多く 68.0%、次いで「熱中症搬送者数の増加」が 62.4%、「台風などの自然災害によるインフラ・ライフライン等への影響」が 61.4%でした。



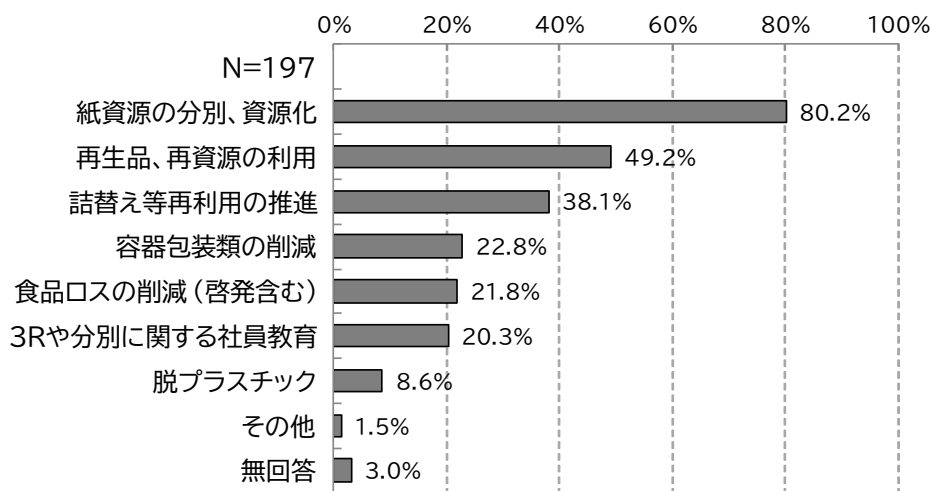
問 11 法律や市条例では、事業者の責務として「ごみの発生抑制や減量化」「再生品の使用の促進」「ごみを自己責任において適正処理」等が定められています。このことについて、貴事業所 の取組状況にあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 「理解して自主的な取組を行っている」が最も多く 54.8%、次いで「知っているが自主的な取組はまだである」が 22.3%、「知らなかった」が 12.7%でした。



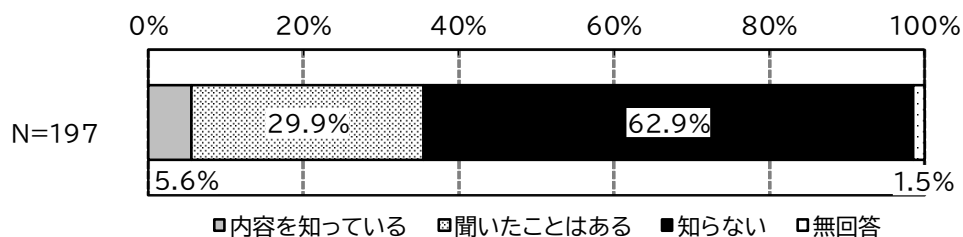
問 12 貴事業所のごみの削減や分別に関して、廃棄物の処理や資源化に関わる取組状況についてお尋ねします。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 「紙資源の分別、資源化」が最も多く 80.2%、次いで「再生品、再資源の利用」が 49.2%、「詰替え等再利用の推進」が 38.1%でした。



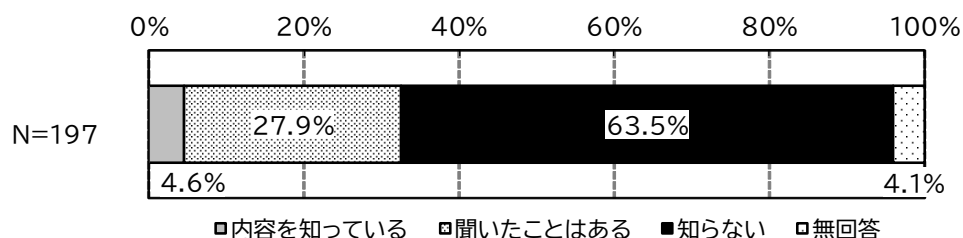
問 13 生物多様性保全のため、国は「ネイチャーポジティブ」に取り組んでいます。貴事業所はこの「ネイチャーポジティブ」という言葉を知っていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

●「知らない」が最も多く 62.9%、次いで「聞いたことはある」が 29.9%、「内容を知っている」が 5.6%でした。



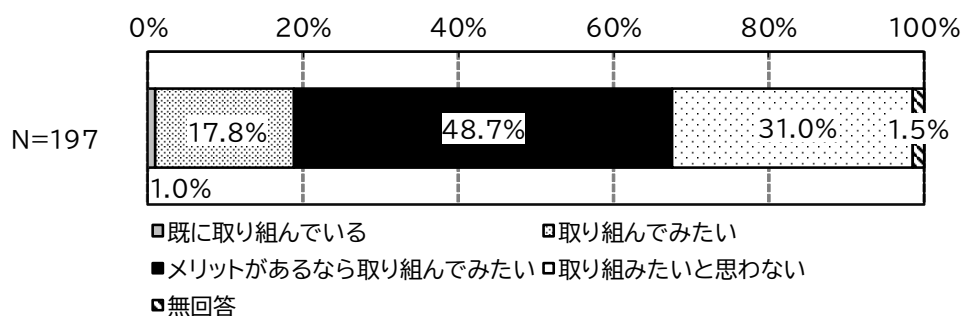
問 14 本市では、2023 年に吉崎海岸が「自然共生サイト」に登録されました。貴事業所はこの「自然共生サイト」という言葉を知っていましたか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

●「知らない」が最も多く 63.5%、次いで「聞いたことはある」が 27.9%、「内容を知っている」が 4.6%でした。



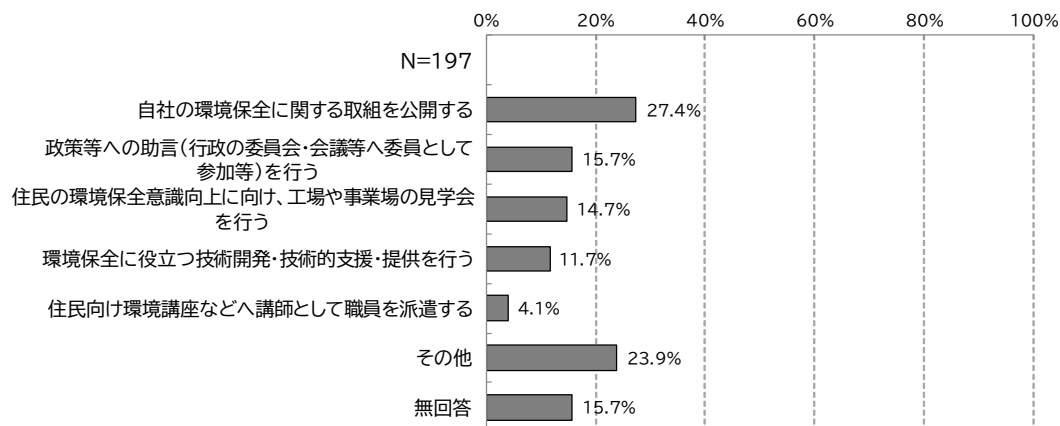
問 15 貴事業所では「自然共生サイト」への登録に取り組んでみたいと思いますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

●「メリットがあるなら取り組んでみたい」が最も多く 48.7%、次いで「取り組んでみたいと思わない」が 31.0%、「取り組んでみたい」が 17.8%でした。



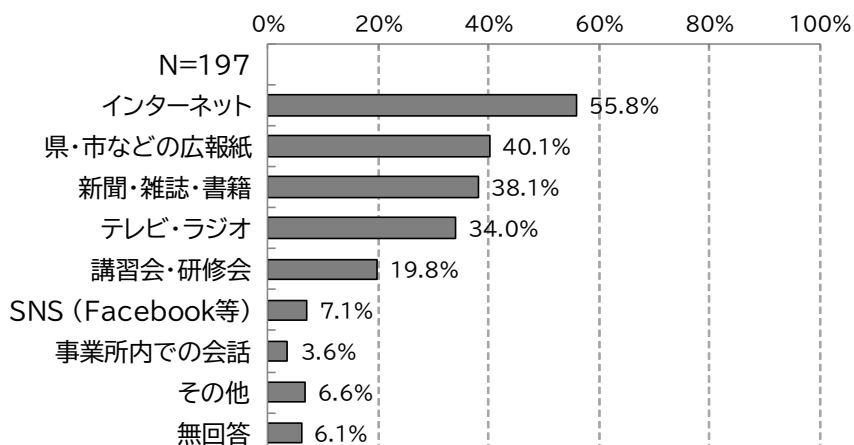
問 16 今後、環境保全等に関連して本市から協力を求められた場合、どのような協力の在り方が考えられますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 「自社の環境保全に関する取組を公開する」が最も多く 27.4%、次いで「政策等への助言（行政の委員会・会議等へ委員として参加等）を行う」が 15.7%、「住民の環境保全意識向上に向け、工場や事業場の見学会を行う」が 14.7%でした。



問 17 貴事業所では、環境に関する情報を主にどこから得ていますか。あてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

- 情報収集のための媒体は、「インターネット」が最も多く 55.8%、次いで「県・市などの広報誌」が 40.1%、「新聞・雑誌・書籍」38.1%でした。



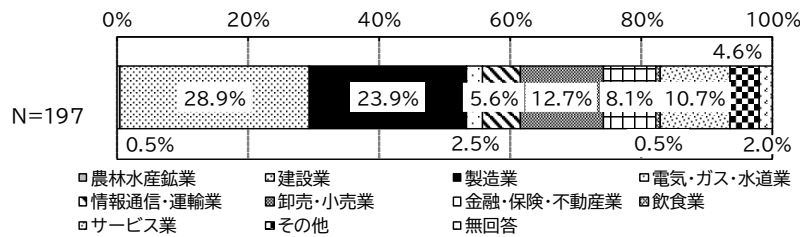
問 18 本市の環境面でのまちづくりに関する提案、期待、要望等があれば、ご自由にお書きください。

●環境目標ごとに分類し、代表的なものを抜き出して掲載しました。

分類	代表的な意見	総件数
環境目標Ⅰ 気候変動	<ul style="list-style-type: none"> ●冠水場所（地域）等の雨水排水計画・施工を早急に！ ●四日市は緑地が少ないと思われるので、緑地を増やしてほしい。 ●省エネ性能の向上と補助金制度の充実。市内における企業で省エネ構想等を一緒に取り組むような会議等。 ●自動車を使用しない場合（歩行者・自転車利用者）においての安全なまちづくり。歩道、路側帯の整備（道路の拡幅、夜間の照度等）。公共交通機関の整備及び利用促進。 	10 件
環境目標Ⅱ 持続可能な資源循環の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●インフラ整備等に係る補助金制度の充実により四日市市全体の取組みがさらに加速されると思います。今後ますます企業側が環境の取組に参加したいと思えるような仕組みづくりを期待します。 ●自然エネルギーの活用は良いのですが、太陽光発電のソーラーパネルは20年前後で使えなくなります。近い将来ソーラーパネルの寿命がきて、大量のソーラーパネルのゴミの山にならないように取り組んで頂きたいです。 	3 件
環境目標Ⅲ 自然との共生、生物多様性の保全	<ul style="list-style-type: none"> ●四日市は緑地が少ないと思われるので、緑地を増やしてほしい。 ●三重県の水環境保全に関する取り組み報告では、近年の窒素、りん濃度の減少に伴い、漁獲量減少、海産物（のり）への被害が増加していると報告されています。四日市市による、窒素濃度等の協定値の緩和、もしくは、撤廃が必要と考えます。 ●自然とふれ合える場・機会の創出を進めてほしい。 	5 件
環境目標Ⅳ 安全で快適な生活環境の創造	<ul style="list-style-type: none"> ●全国的な「公害のまち」というイメージをなくす努力をしてほしいです。 ●時として鶏・牛・豚糞の臭いがすごくて窓も開けられなくて困っています。何とかして下さい。鹿間町 ●市民が街中でゆっくり散歩できる場が無い。市の中心部にその場所を作ってもらいたい。 	3 件
環境目標Ⅴ よりよい環境を共創する仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●web相談窓口の充実化。 ●市による情報発信や補助等を強化頂ければと思います。 ●環境改善への取組みは一人ひとりにどれだけその必要性を認識してもらうかがキーになるかと思っています。個人にメリットが感じられる施策やサービスの提供をされることに期待したいです。 ●ふわっと環境問題への取り組みは、頭にあるが、市として具体的な（地域で取り組める）活動等を増やしてほしい。 	7 件
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●事業所といっても2人で細々している為、環境への取り組みは、事業としては知識が浅い為、アンケートの協力で協力にならないかと思っています。 ●まず、各個人が、気を付けることが大事ではないかと思う。 ●特にありません。 	7 件

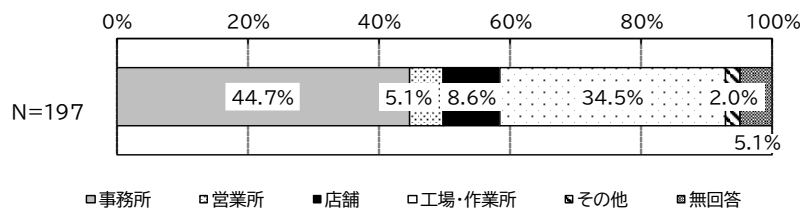
属性 1 業種

●「建設業」が 28.9%と最も多く、次いで「製造業」が 23.9%、「卸売・小売業」が 12.7%でした。



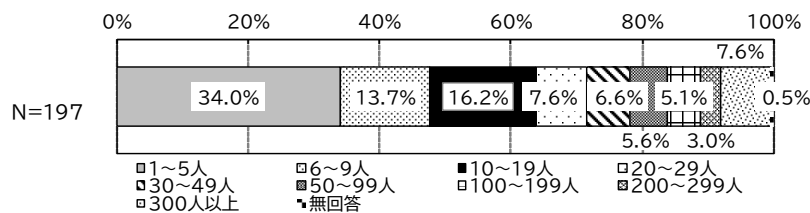
属性 2 事業形態

●「事務所」が 44.7%と最も多く、次いで「工場・作業所」が 34.5%、「店舗」が 8.6%でした。



属性 3 従業員数

●「1～5 人」が 34.0%と最も多く、次いで「10～19 人」が 16.2%、「6～9 人」が 13.7%でした。



属性 4 所在地区

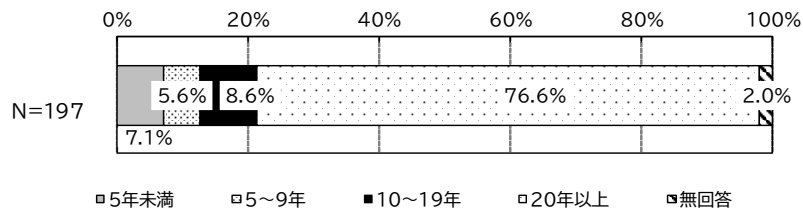
●「中部」が 13.2%と最も多く、次いで「羽津」が 9.1%、「日永」が 7.1%でした。

(N=197)

中部	富洲原	富田	羽津	常磐	日永
13.2%	1.0%	2.0%	9.1%	4.6%	7.1%
四郷	内部	塩浜	小山田	川島	神前
2.0%	1.5%	6.1%	2.0%	1.5%	1.0%
桜	三重	県	八郷	下野	大矢知
0.5%	6.6%	1.5%	1.5%	1.5%	2.5%
河原田	水沢	保々	海蔵	橋北	楠
3.0%	2.5%	0.5%	2.0%	2.5%	2.5%
わからない	無回答				
19.8%	1.5%				

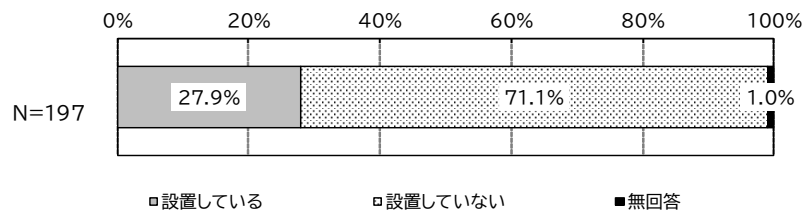
属性 5 立地年数

●「20 年以上」が 76.6%と最も多く、次いで「10～19 年」が 8.6%、「5 年未満」が 7.1%でした。



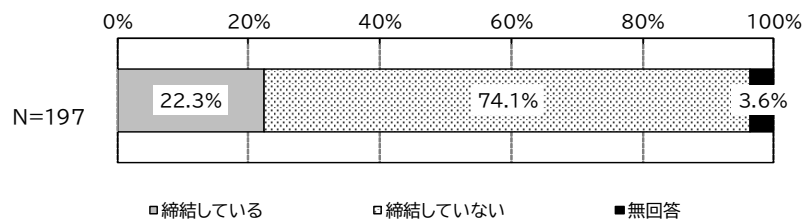
属性 6 環境に関する業務や作業を取り扱う部署・担当者の設置状況

●「設置していない」が 71.1%、「設置している」が 27.9%でした。



属性 7 公害防止協定

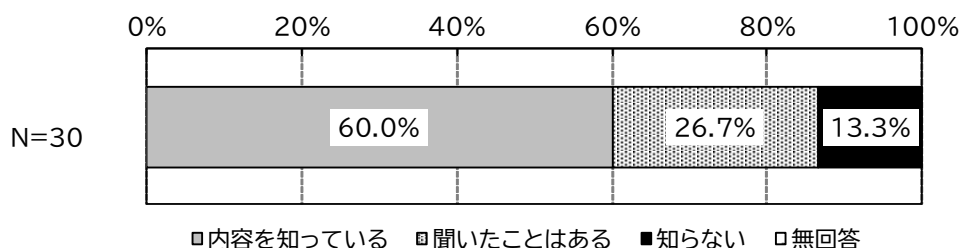
●「締結していない」が 74.1%、「締結している」が 22.3%でした。



(4) 調査の結果（市民活動団体）

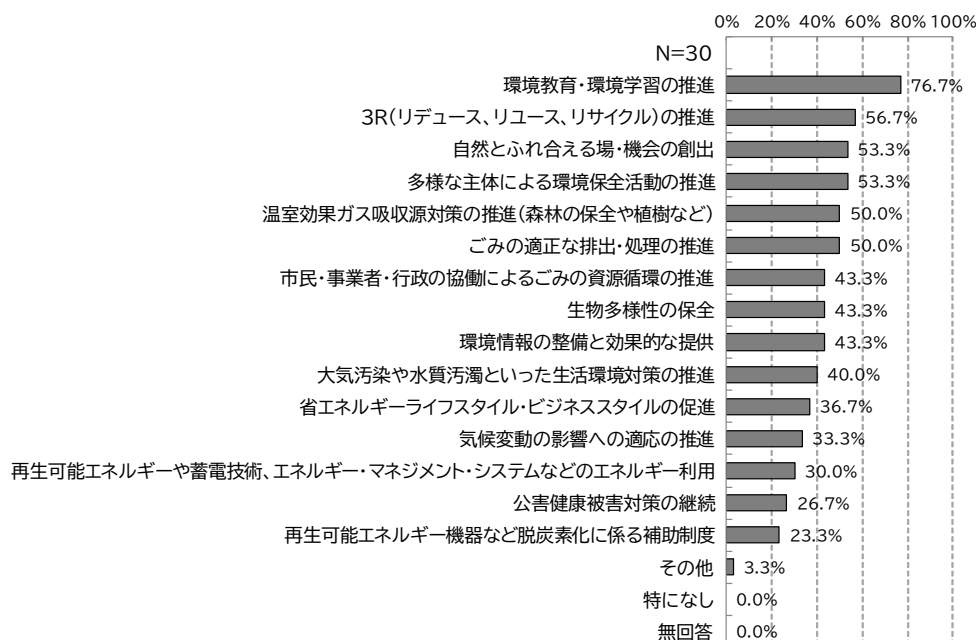
問 1 貴団体は、「四日市市環境計画」を知っていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

●「内容を知っている」が最も多く 60.0%、次いで「聞いたことはある」が 26.7%、「知らない」が 13.3%でした。



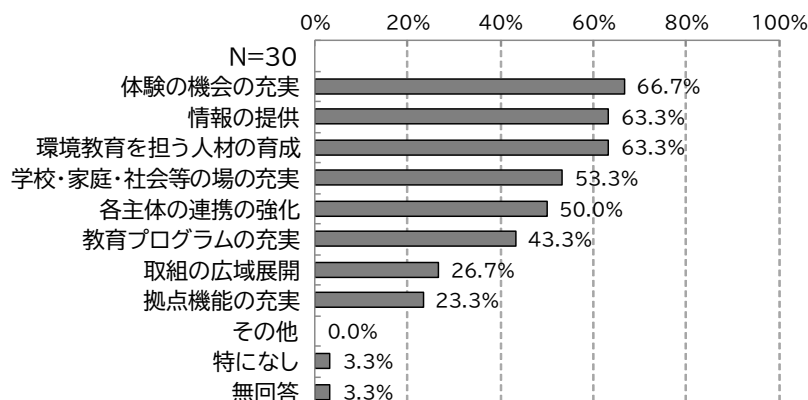
問 2 本市が取り組む施策のうち、貴団体が重要と考えるものは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

●「環境教育・環境学習の推進」が最も多く 76.7%、次いで「3R（リデュース、リユース、リサイクルの推進）」が 56.7%、「自然とふれ合える場・機会の創出」、「多様な主体による環境保全活動の推進」が 53.3%でした。



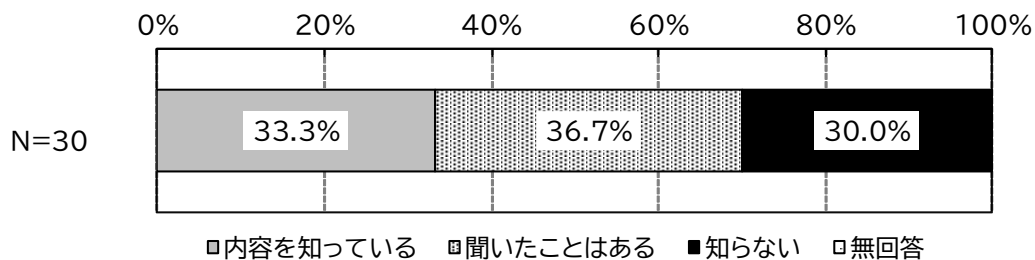
問 3 本市の環境教育等の推進に向けた取組のうち、貴団体が重要と考えるものは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

●「体験の機会の充実」が最も多く 66.7%、次いで「情報の提供」、「環境教育を担う人材の育成」が 63.3%でした。



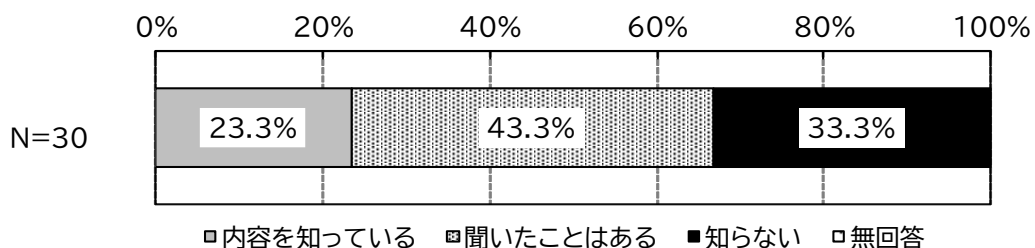
問 4 生物多様性保全のため、国は「ネイチャーポジティブ」に取り組んでいます。貴団体はこの「ネイチャーポジティブ」という言葉を知っていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

●「聞いたことはある」が最も多く 36.7%、次いで「内容を知っている」が 33.3%、「知らない」が 30.0%でした。



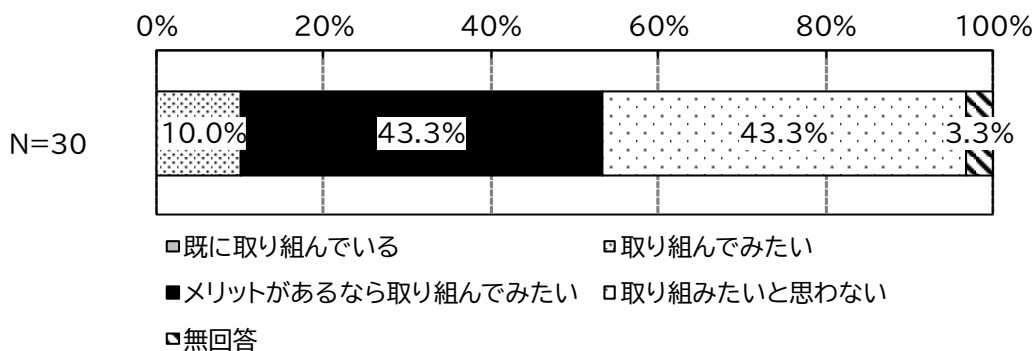
問 5 本市では、2023 年に吉崎海岸が「自然共生サイト」に登録されました。貴団体はこの「自然共生サイト」という言葉を知っていましたか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

●「聞いたことはある」が最も多く 43.3%、次いで「知らない」が 33.3%、「内容を知っている」が 23.3%でした。



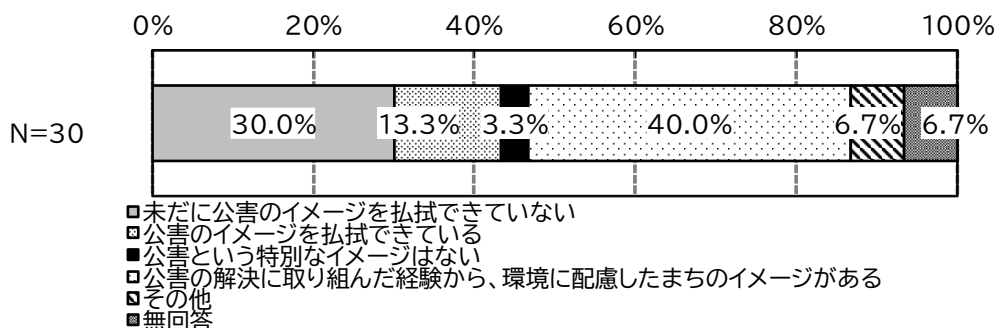
問 6 貴団体では「自然共生サイト」への登録に取り組んでみたいと思いますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

●「メリットがあるなら取り組んでみたい」、「取り組みたいと思わない」が最も多く 43.3%、次いで「取り組んでみたい」が 10.0%でした。



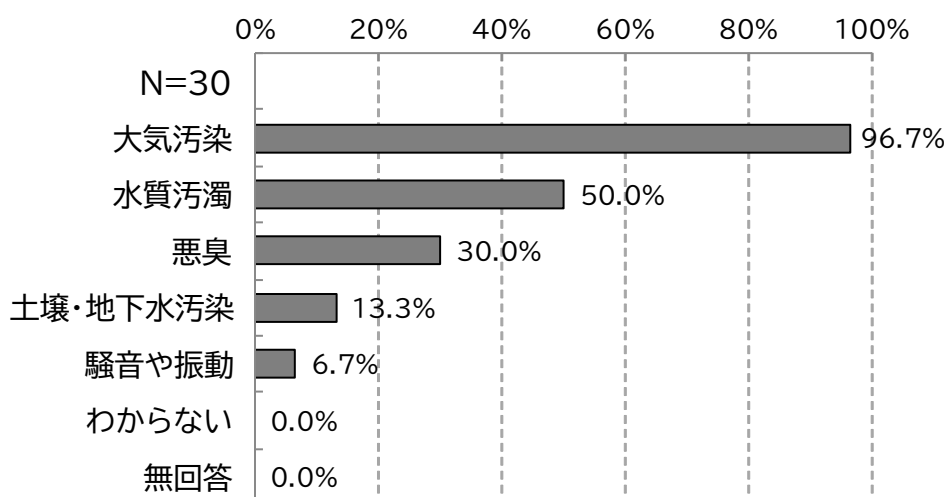
問 7 本市は過去に「四日市公害」という深刻な公害を経験しましたが、現在の本市における公害のイメージをどのように感じていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 「公害の解決に取り組んだ経験から、環境に配慮したまちのイメージがある」が最も多く 40.0%、次いで「未だに公害のイメージを払拭できていない」が 30.0%、「公害のイメージを払拭できている」が 13.3%でした。



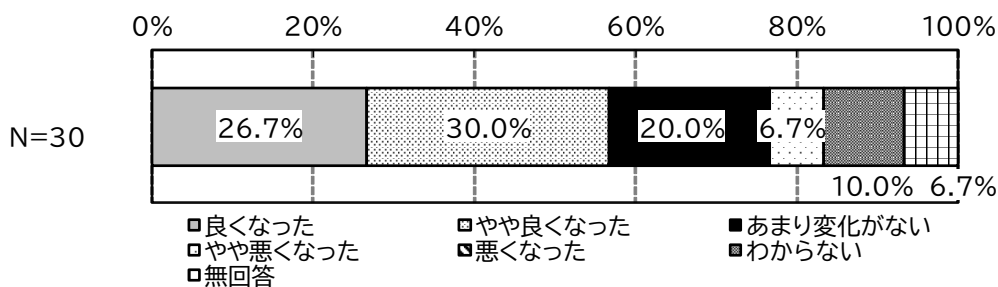
問 8 問 7 の回答では、特にどのような「公害」をイメージされましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください

- 「大気汚染」が最も多く 96.7%、次いで「水質汚濁」が 50.0%、「悪臭」が 30.0%でした。



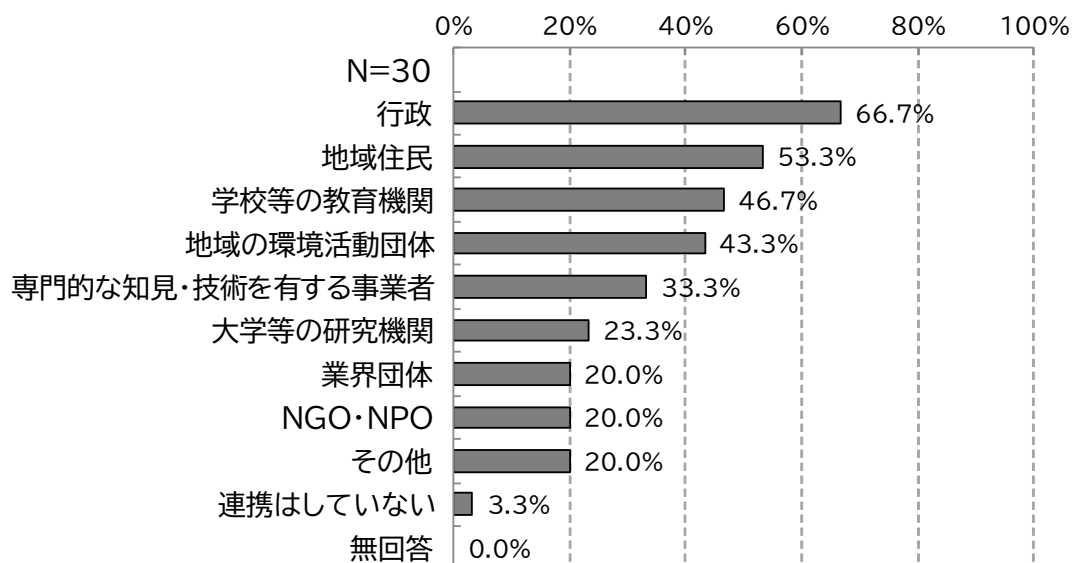
問 9 本市の環境について、以前（概ね 10 年前）と比べてどのように変化してきていると思いますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 「良くなった」、「やや良くなった」を合わせた「四日市市の環境が良くなった傾向」は、56.7%でした。



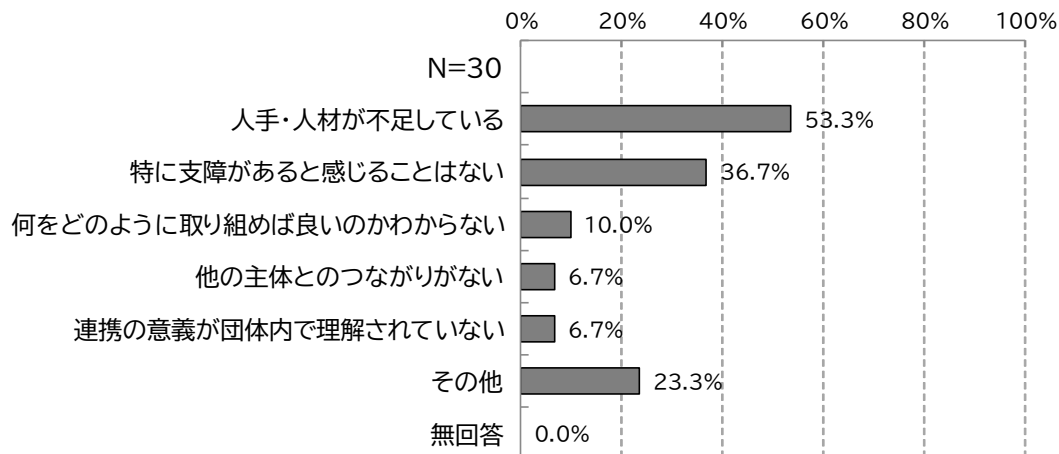
問 10 貴団体の事業活動において、環境に配慮した取組を進める際、現在、どのような主体と連携していますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

●「行政」が最も多く 66.7%、次いで「地域住民」が 53.3%、「学校等の教育機関」が 46.7%でした。



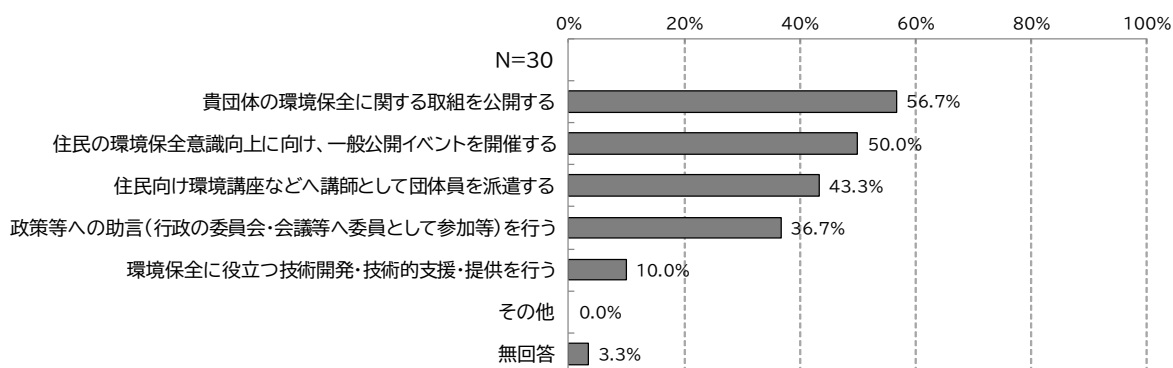
問 11 主体と連携する上で、貴団体にとって支障となることはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

●「人手・人材が不足している」が最も多く 53.3%、次いで「特に支障があると感じることはない」が 36.7%、「何をどのように取り組めば良いのかわからない」が 10.0%でした。



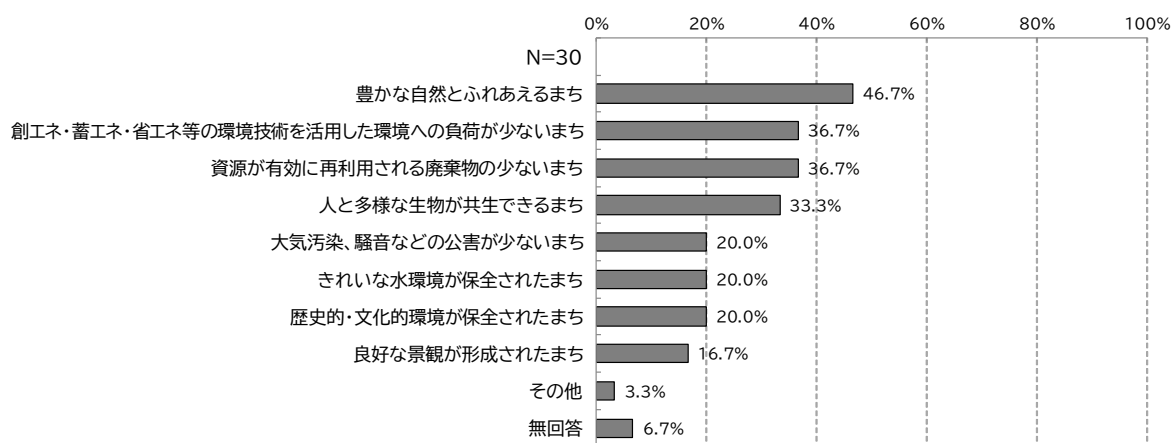
問 12 今後、環境保全等に関連して四日市市から協力を求められた場合、どのような協力の在り方が考えられますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 「貴団体の環境保全に関する取組を公開する」が最も多く 56.7%、次いで「住民の環境保全意識向上に向け、一般公開イベントを開催する」が 50.0%、「住民向け環境講座などへ講師として団体員を派遣する」が 43.3%でした。



問 13 環境面でのまちづくりについて、将来の望ましいまちの姿と考えるものについて、あてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

- 「豊かな自然とふれあえるまち」が最も多く 46.7%、次いで「創エネ・蓄エネ・省エネ等の環境技術を活用した環境への負荷が少ないまち」、「資源が有効に再利用される廃棄物の少ないまち」が 36.7%でした。



問 14 問 13 における将来の望ましいまちの姿の実現に向けて、本市への提案、期待、要望等があればご記入ください。

● 記入いただいた内容を転記しました。

内容

- トラクター、工具をかうお金がたりない。
- 住みたくなる我が四日市市（30分）の更なる向上の為に心の豊かな安全安心のみどり豊かなまちづくり。地球温暖化・環境汚染＝公害防止。「南海トラフ地震」「台風・地震等」対策 教育・研修所の建設 南部丘陵公園＜日永梅休＞登城山の更なる充実と活用！！「公園の拡充」＝「防災設備建物建設」「駐車場・道路整備」
- 環境を守るためには、若い世代の人材育成が欠かせません。環境教育をどのように展開していったら良いかについて時代に合わせにプログラムづくりに励む必要があるのではないのでしょうか。
- 山に生えている木を切り崩して、ソーラーパネルを設置するのは、本来ある自然を人間の手で大幅に変えてしまうことだと思います。そういったことを創エネとするならば、問 13 の 1 は、○を付けることを見合わせました。
- 宅地の新規開発や、太陽光発電の為に、森林、田畑が消えています。空き家の利活用をもっと進めて欲しい。公園や、気軽に市民が自然と触れ合える場所をもっと整備、拡充して欲しい。
- 原発事故は四日市市民にとって、わがことであります。福井に立ち並ぶ原発に、もし事故が発生したら、四日市は風下になり、重大な被害を被ります。原発ゼロをめざす方向へ、四日市の行政を司る立場として、明確なエネルギー対策の方針をもっていただきたいです。
- P F A S 汚染の実態調査（河川、地下水、土壌、海域）・市民の健康を継続的に調査、血液検査、医療的ケアも・市民への説明、情報開示・企業への予防的原則に基づく対応、企業倫理の徹底、レスポンスブルケア・汚染関係自治会への公開説明会、広報・教育現場（小中高大）での P F A S 学習会、カリキュラムづくり、養護教諭研修会、e t c .
- 駅前とか見栄えのいい場所に重点をおかず、周辺地域の充実に力を入れて整備すべし。災害時における危機に重点を置いてほしい。
- 要望して、人格まで偏見に促らえない事をお願い申し上げます。四日市市の森林面積は 14 % 中でも竹林は津市に次いで 2 番目に多い。ところどころの団体が保全されていますが、竹を粉にして資源にする事には、廃棄物処理違反に相当するとされる。有機物のため、土壌に悪影響はないと考える。生物多様性に欠ける現状があり、水への影響、野生生物が多数田畑を荒らす、竹林は 90 % が荒廃している、行政の積極的関与をお願いする。
- 食を切り口にする事業者と消費者が学びあう拠点づくりをすすめたいと考えています。
- 従来から、三重県、四日市市、四日市商工会議所、中部経済連合会などと連携させていただいております。今後ともよろしく願いいたします。
- 4 年前に名古屋から四日市に引っ越してきて、名古屋では「なごや環境大学」の立ち上げから関わってきました。四日市では、環境情報の発信が弱いと感じています。まずはしっかりした拠点づくりが必要だと思います。
- 地区で策定したまちづくり構想を推進するサポート体制を充実してほしい。
- 市民がもっと水辺で安全に自然を感じられるよう、港や河川などの整備が必要。
- 地域の環境改善し、地域住民が安心して暮らせる為、地域猫の考えを市民に広めて欲しい。
- 四日市市には、豊かな自然資源とそれを活用してきた歴史があります。リスクの多い外部からの資源ばかりに頼らず、もっと地元にある資源を循環的に活用する産業や特産物を作り出し、地域に根差した四日市ならではの文かと産業を持つまちを作っていくことを期待します。里山にも田畑にも海にも豊かな自然資源が利用されずに放置されています。

属性 1 活動分野

- 「環境教育」が 17.6%と最も多く、次いで「資源循環・廃棄物対策」が 12.0%、「地球温暖化対策」が 9.6%でした。

(N=125)※回答数は延べ数

1.地球温暖化対策	2.森林の保全・緑化	3.資源循環・廃棄物対策
9.6%	6.4%	12.0%
4.生物多様性の保全	5.有害化学物質対策	6.環境配慮型消費・生活
8.0%	2.4%	6.4%
7.大気環境保全	8.環境教育	9.騒音・振動・悪臭対策
4.8%	17.6%	2.4%
10.水・土壌の保全	11.外来生物対策	12.美化清掃
5.6%	3.2%	7.2%
13.多文化共生・国際交流	14.地域防災・安全	15.環境に係る研究・技術開発
1.6%	5.6%	4.0%
16.その他	0.無回答	
2.4%	0.8%	

属性 2 活動内容

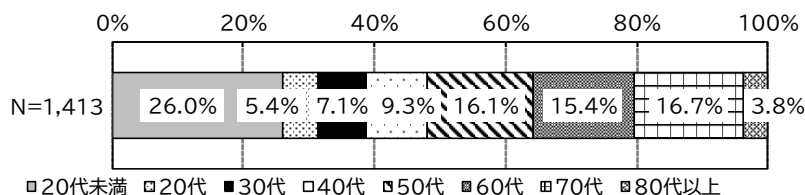
- 記入いただいた内容を転記しました。

内容
<ul style="list-style-type: none"> ●手入れ不足の山林・里山・竹林および依頼山林等の整備、 ●子供の田うえ、サツマイモエコとも小学生と野鳥鑑賞会星空観察会、じゅもく観察会、城山の保全草刈りなど外 ●コンビナートOBとして、コンビナートの説明や四日市公害について語り継いでいる ●市内（大鐘町）不耕作地450坪を9人で活用し、自然農法で野菜をつつている。 ●私達は歴史ある「日永梅林」を復活させ登城山一体南部丘陵公園を再生し永続させる。この活動を通して単に緑化推進にとどまらず地域社会との連携により上段①の各項目に取組み中。①梅・実のある木の植育樹活動②快適環境＆健康づくり活動③地域、人■の連携。④環境・歴史教室（小・幼・学童等）⑤防災安全、安心活動。⑥環境・美化活動他 ●廃棄物を活用した飼料づくり、・〃食品開発、・希少植物の保全活動に協力など ●ほぼ月例でリサイクル工作をしながら「簡易エコ診断」を行い、活動している ●ウミガメの上陸・産卵の調査、ストランディング調査、孵化率調査、子ガメ脱出までの見守り、ウミガメ出前講座、環境学習会やウミガメ報告会の実施 ●自然観察会を行う人材育成、及び、自然に関心のある会員の情報共有、支援、など。 ●自動車を使えない人の移動手段を確保する（公共交通との融和） ●「原発事故は最大の公害である」との考えを基本に、原発事故をわがこととらえ学習を深め、原発ゼロをめざす活動をしています。 ●最近ではPFAS汚染調査と行政・議会へのお願い 南海トラフ地震への備え ●四日市公害に関する資料の整理及び保存 四日市公害に関する記録と次世代への継承 ●四日市市内各所にて自然観察会開催 ●ESD環境教育 農福連携事業 地域循環型社会づくり 水田、畑で研究 ●出前出張等を行い、子ども達に水の大切さ、流れ、未来について、実際に実験を交えて伝える活動、年2回野田地区の美化活動の実施など ●四日市再生「公害市民塾」と連携して、環境教育、四日市の「海の公害」、四日市の「戦争と公害」について考える出前授業やパネル展示にとりくんでいます。 ●四日市市の事業者と消費者が連携して、「食」を通じた人間・経済・環境を大切にする人づくり及び地域づくりを行う。2024年度事業、「食品事業者と食品ロスを学ぶ講座」など

- 我が国及び諸外国が有する環境保全に関する技術を他の地域に移転することで、諸外国及び我が国の環境問題を改善し、地球環境の保全及び世界経済の発展に資することを目的とした活動。
- 産業廃棄物の処理、処分、資源化に資する情報交換・外部活動等
- イベント出展・ワークショップ・講座の依頼に対応して活動。ふろしき研究会名古屋と連動しているので、四日市の会員は1人だが、名古屋の会員は十数名。（一社）ふろしき研究会の地域活動グループ。
- 地元住民のみならず身近な自然に接する機会をつくり、環境保全意識を啓発しています。
- 1971年に霞コンビナート各社共同出資にて設立。コンビナート効率運営、公災害防止対策により地域社会等への信頼向上に寄与を目的。栈橋・配管橋・緑化等の一括保守管理、共同消防・共同排水処理・診療所業務等。
- 四日市市内や周辺地域の動物愛護ボランティアが集まり、四日市市が人と動物がうまく共生できる街になるよう、日々の活動で困ったことなどを出し合い、その事が改善されるように年1回市長へ要望書を提出しています。
- 「つくるつなぐ小さな循環」をスローガンに、里山竹林の持続的活用、「キエーロ」の普及を通じたごみ削減、アサリの育成を通じた豊かな里海づくりなどローカルSDGsの実現とESDの推進に取り組んでいます。
- 「でんきを消してスローな夜を」をスローガンにするキャンドルナイトに協賛し、諏訪公園にて「1000000人のキャンドルナイト in すわ公園」を開催。環境問題への啓発と四日市中心市街地の活性化を目指す。
- 毎年、四日市公害と環境未来館にて小学生を対象にエコゼミを開催、また塩浜地区連合自治会、塩浜地区市民センター、近隣企業と協力して地域環境保全イベントを開催している
- 1.毎月定例会 2.環境フェアや地域のお祭り等での人力自転車発電体験出展 3.省エネルギー教室、風力発電工作教室、牛乳パックリサイクル教室等の出前講座実施
- 公園の自然環境の保全（垂坂公園・羽津山緑地、霞ヶ浦緑地等）。自然環境の体験学習の場づくり及びその企画運営。世代間の交流事業の企画運営。地元公共施設の草刈り等のボランティア活動。
- 前任者からの引き継ぎ後、現在に至るまで活動ができていないことが実情です。今後、子供や子育て世代に向けて、蜜蝋ラップや風呂敷などを使うことから環境問題に取り組めていければと考えています。

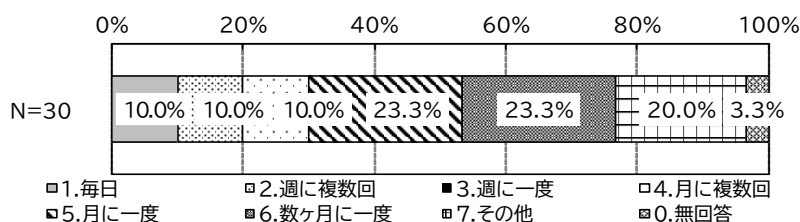
属性3 構成人員

- 「20代未満」が26.0%と最も多く、次いで「70代」が16.7%、「50代」が16.1%でした。



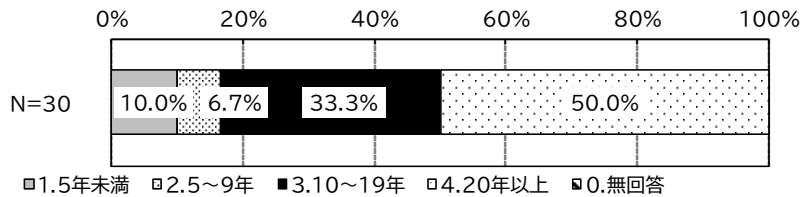
属性4 活動状況

- 「月に一度」、「数ヶ月に一度」が23.3%と最も多く、次いで「毎日」、「週に複数回」、「月に複数回」が10.0%でした。



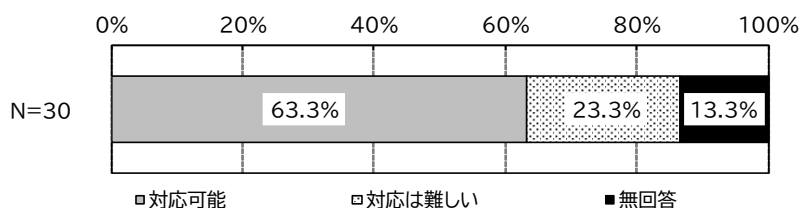
属性 5 活動年

●「20 年以上」が 50.0%と最も多く、次いで「10～19 年」が 33.3%、「5 年未満」でした。



ヒアリングの対応意向

●「対応可能」が 63.3%、「対応は難しい」が 23.3%でした。



将来の望ましい姿について

- 市民が地域や環境に興味を持つことで、市民・地域の意識改革が行われ、地域の課題を解決している。
- 環境と考えると、目に見えない大きな問題ばかりで大事と捉えがちだが、衣食住や清掃など日常生活と繋げて「じぶんごと」として捉え、自主的に環境問題に取り組んでいる。
- 地域の問題を他人任せでなく「じぶんごと」だと捉えて、市民が主体性をもち、日常生活の中で活動を行い、自分たちで守っていくという意識をもって参加している。
- 地域の活性化に加え、生活が豊かになっている。
- 市民が運営側に参加してもらうことで、市民の意識が環境や社会という部門にまで広がっている。
- 2050 年、それ以降を見据え、将来を担う子たちが育っている。
- 若い人たちが自分の為ではなく、地域社会のために積極的に参画している。
- 市民がこれならできる、若い世代が取り組んでみたいと思う取り組みを行っている。
- 四日市市全体でカーボンニュートラル化に向けて何をしているのか理解している。また、都市マスタープランなどの計画で掲げている内容を理解して取り組んでいる。
- ごみ処理削減やネイチャーポジティブなど世界や国の動向を踏まえた取り組みが行われている。時代に応じ、臨機応変に行動をしている。
- 学生が学校内外関係なく問題に対する意識をいつも持っている。
- 市民が自然環境の大切さに気付き、四日市市の自然を守っていこうという意識を持っている。
- 四日市市に豊かな里海がある。
- 子供たちが植物群落など四日市市のこと・場所を認知し、大切にしていこうという意識をもって行動している。
- 環境学習や地域循環など様々な用途が見いだせる場や、地域の特性に沿った教育の場がある。
- ごみ拾い活動に参加することで、「ごみを拾う」ではなく「ごみを捨てない」意識づくりをし、自分自身や周りがごみのポイ捨てをしなくなるのはもちろん、きれいな状態が保たれるという好循環がある。
- ごみの分別ルールを理解や関心が高い。
- 本来捨てるはずだったものを活用することで、食品ロスの対策やごみの減量化を図っている。食品ロスをただの環境問題としてではなく、貧困問題など全てにつながることを知って行動している。
- 四日市市の中で資源が循環している。地域の資源を活用している。

- 公共交通機関の利用者が増加し、一般車両の交通量が減少することで二酸化炭素の排出量削減など、よりよい未来のために貢献している。また、公共交通機関の維持のため、市民に自分たちが公共交通機関を守っていかなければならないという意識を持っている。
- 過去に公害があった地域ではあるが、ごみ拾いなどを通じて環境美化活動をしなが、四日市市はきれいな環境を取り戻したということをアピールでき、公害のイメージが払拭している。
- 市民の交流の場があり、地球とのつながりを大切にしている。

行政に期待すること

- 今の環境問題は、ごみ処理削減やネイチャーポジティブなど取り組むべき内容が時代に合せて変わってきており、それに対応していく必要がある。
- 環境教育の重要性をもっと認知してもらいたい。広報の協力をしてもらいたい。また、環境教育をする際は、山・川・海など地域に沿った学習をしてほしい。
- 教育機関に対して、環境教育費用として自由に使える資金があるとよい。講座を開催するにもお金がかかるため、そのための助成金があるとよい。
- 助成金を積極的に活用しているが、活動するにあたり資金面が問題に挙がる。補助金などでの援助などエコパートナーの活動が継続していけるような仕組み・窓口を設置し、団体を支えられるようにしてほしい。
- エコパートナー同士の交流の場・情報共有の場など、横のつながりが弱いので強くしてほしい。横のつながりには行政の仲介が必要である。
- 高齢者中心に活動している団体が辞めてしまっており、また、教育現場や企業も相互の事情や方向性の違いなどで活動が出来なくなってしまっているため、この現状を何とかできないだろうか。
- 活動の継続のためにも、人材育成が必要である。団体のリーダーなどの人材発掘・養成の場を設けてほしい。
- 市民、特に若い人たちが環境問題になかなか参画できていない現状を何とかしてほしい。
- 「自分の為ではなく地域のために」、「持続可能な社会にするために」という意識作りができる場を整えてほしい。
- 活動を新たなビジネスとして打ち立て、行政と協力しながら強制させるのではなく、市民が自ら入ってくれるような仕組み作りをしていきたい。
- パブリックコメントやマスタープランなど制度・計画が市民に浸透していない。大々的に知らせるべきである。
- 市の政策や補助金が市民に伝わっていない。
- 計画や取組などは実効性があるものを提案してほしい。
- 四日市市の緑の再生やその活用をどのようにしていくのが明白でない。法律を守るために緑地面積を確保するのではなく、市民のための緩衝緑地を増やしてほしい。公園に関して、使われない公園ではなく、意義のある公園を作っていくべきである。
- 政策に盛り込める市民発の取組事例を増やしてほしい。
- 四日市市の取組や PR 方法が固く、若い人層に響く PR ができていない。魅力を内外にうまく伝えられてない。SNS などにおいて市民への PR 力不足を感じている。
- 四日市市のいいところの活性化を市民活動団体と協力しながら行ってほしい。
- 地域特有のシンボルを作り、四日市市の魅力を大きく打ち出してほしい。
- 市内で資源の循環利用がなされる仕組みづくりが必要である
- ペットボトルリサイクルなどを市を挙げて分別に取り組むことで、世界的にも貢献できるのではないかと考えている。
- 街中や河川などで市民が清掃活動をしやすい環境を整えてほしい。
- 収集されたごみの処分方法に悩んでいる。ごみ拾いを善意でやってくれる方が減ってしまうのではないかと懸念している。
- 現場に来てもらい、実際に団体が何を行っているのかを見てほしい。
- 他の課との協力など市役所内の連携を強化してほしい。
- 団体から行政への発言やアドバイスを積極的に行っていき、四日市市を市全体で良くしていきたい。

資-4 環境年表

年度	国	三重県	四日市市
1897(M30)			市制施行
1959(S34)			第1コンビナート稼動（石油精製、電力）
1963(S38)			第2コンビナート本格稼動
1966(S41)			四日市市公害対策審議会条例制定
1967(S42)	公害対策基本法制定	三重県公害防止条例公布	四日市公害訴訟開始
1968(S43)	大気汚染防止法制定、騒音規制法制定		四日市地域公害防止計画承認（第1期）
1970(S45)	水質汚濁防止法制定、廃棄物処理法制定		
1971(S46)		三重県公害防止条例改定 上乗せ排出基準を定める条例施行	第3コンビナート本格稼動
1972(S47)	自然環境保全法制定、労働安全衛生法制定		四日市公害損害賠償事件判決仮執行
1978(S53)			四日市地域公害防止計画承認（第2期）
1979(S54)	エネルギーの使用の合理化等に関する法律制定	三重県環境影響技術指針策定	
1980(S55)	ワシントン条約、ラムサール条約に加盟		
1983(S58)			四日市地域公害防止計画承認（第3期）
1987(S62)			環境庁より「星空の街」に選定
1988(S63)	オゾン層保護法制定、オゾン層保護条約、モントリオール議定書に加盟		四日市市環境保全審議会を設置 四日市地域公害防止計画承認（第4期）
1989(H1)	Eコマース制度スタート		(財)環境技術移転センター設立
1990(H2)			(財)国際環境技術移転研究センター（ICETT）改称
1991(H3)	再生資源の利用の促進に関する法律施行		四日市地域公害防止計画承認（第5期）
1993(H5)	環境基本法制定 アジェンダ21行動計画策定		四日市環境教育プラン策定
1994(H6)	第一次環境基本計画策定	三重県地球環境保全行動計画（アジェンダ21みえ）策定	四日市市環境基本条例制定 四日市市環境計画策定
1995(H7)	容器包装リサイクル法制定 生物多様性国家戦略決定		「快適環境都市」宣言 国連環境計画より「グローバル500賞」受賞
1996(H8)			四日市地域公害防止計画承認（第6期） 四日市市生活排水対策推進計画策定 四日市市環境学習センターオープン
1997(H9)	京都議定書採択 環境影響評価法制定 特定非営利活動促進法制定		市制100周年
1998(H10)	家電リサイクル法制定 地球温暖化対策推進法制定		
1999(H11)	環境影響評価法施行 ダイオキシン特別措置法制定	三重県環境影響評価条例策定	環境マネジメントシステム運用開始 特例市に移行
2000(H12)	建設リサイクル法制定 循環型社会形成推進基本法制定 食品リサイクル法制定 グリーン購入法制定 資源有効利用促進法制定 第二次環境基本計画策定	三重県新エネルギービジョン策定 三重県生活環境の保全に関する条例施行（三重県公害防止条例改正）	
2001(H13)	（環境庁が環境省へ組織改編）		四日市地域公害防止計画承認（第7期） 第2期四日市市環境計画策定 自動車NOx・PM法の特定地域に指定
2002(H14)	新生物多様性国家戦略決定 自然再生推進法制定	三重県産業廃棄物税条例施行	
2003(H15)	循環型社会形成推進基本計画策定 環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律制定 土壌汚染対策法施行	三重県自然環境保全条例に基づく開発行為の届出制が施行	

年度	国	三重県	四日市市
2004(H16)	環境配慮促進法制定 外来生物法制定	改定三重県環境基本計画を策定 三重県バイオマスエネルギー利用ビジョン 策定	四日市市環境計画市民活動編策定 四日市市・楠町合併 環境学習センター内に公害資料室オープン
2005(H17)	京都議定書目標達成計画の閣議決定 わが国における「国連 ESD の 10 年」実施計画 策定	三重県新エネルギービジョン（改定版） 策定 三重県環境保全活動・環境教育基本 方針策定	
2006(H18)	エネルギーの使用の合理化に関する法律の一部改正 第三次環境基本計画策定		四日市市地域新エネルギービジョン策定 四日市市地域公害防止計画承認（第 8 期）
2007(H19)	21 世紀環境立国戦略策定 第三次生物多様性国家戦略策定	三重県地球温暖化対策推進計画改定	市制 110 周年 四日市市地球温暖化対策地域推進計画策定
2008(H20)	生物多様性基本法施行 低炭素社会づくり行動計画策定 第二次循環型社会形成推進基本計画策定 地球温暖化対策推進法改正		保健所政令市へ移行（保健所設置） 「姉妹都市・友好都市中学生による環境サミット」開催
2009(H21)			四日市市ごみ処理基本計画策定
2010(H22)	生物多様性条約第 10 回締約国会議 COP10 開催（愛知県・名古屋市）		ごみ減量リサイクル推進店制度開始 新公害防止協定を 46 社と締結
2011(H23)	環境教育等による環境保全の取組の促進に関 する法律公布（環境の保全のための意欲の増進 及び環境教育の推進に関する法律の改正法）		第 3 期四日市市環境計画策定 (公財)国際環境技術移転センターへ移行
2012(H24)	第四次環境基本計画策定	三重県環境基本計画策定 みえ生物多様性推進プラン策定 三重県地球温暖化対策実行計画策定 三重県新エネルギービジョン策定	四日市公害裁判判決 40 周年事業
2013(H25)	第三次循環型社会形成推進基本計画策定 使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関 する法律（小型家電リサイクル法）施行	三重県地球温暖化対策推進条例制定	
2014(H26)		三重県地球温暖化対策推進条例施行	四日市市アライグマ・ヌートリア防除実施計画策定
2015(H27)	気候変動の影響への適応計画閣議決定		四日市市ごみ処理基本計画改定 四日市公害と環境未来館開館
2016(H28)	地球温暖化対策計画閣議決定	みえ生物多様性推進プラン（第 2 期）策定 三重県新エネルギービジョン改定 三重県の気候変動影響と適応のあり方 について報告書作成	四日市市クリーンセンター稼働
2017(H29)	水銀による環境の汚染の防止に関する法律（水 銀汚染防止法）施行		市制 120 周年
2018(H30)	気候変動適応法施行 気候変動適応計画閣議決定 第四次循環型社会形成推進基本計画策定 第五次環境基本計画策定		四日市市太陽光発電施設設置ガイドライン策 定
2019(R1)			吉崎海岸自然観察路整備
2020(R2)		三重県環境基本計画改定 みえ生物多様性推進プラン（第 3 期）策定 三重県新エネルギービジョン改定 三重県地球温暖化対策総合計画策定	四日市市総合計画（2020 年度～2029 年 度）策定 第 4 期四日市市環境計画策定
2021 (R3)	第 6 次エネルギー基本計画閣議決定 改定地球温暖化対策計画閣議決定 改定気候変動適応計画閣議決定		
2022 (R4)	地球温暖化対策の推進に関する法律の一部を 改正する法律施行 『生物多様性国家戦略 2023-2030』閣議決定	三重県地球温暖化対策総合計画改定	
2023 (R5)			第 4 期四日市市環境計画改定
2024 (R6)	第六次環境基本計画閣議決定 第五次循環型社会形成推進基本計画策定 第 7 次エネルギー基本計画閣議決定 改定地球温暖化対策計画閣議決定		四日市市総合計画（2020 年度～2029 年 度）中間見直し

資-5 SDGs の 17 のゴール

	1 貧困をなくそう あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	<input type="checkbox"/> 極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる <input type="checkbox"/> 貧困状態にあるすべての人の割合を半減させる <input type="checkbox"/> 貧困層・脆弱層の人々を保護する
	2 飢餓をゼロに 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する	<input type="checkbox"/> 飢餓を撲滅し、安全で栄養のある食料を得られるようにする <input type="checkbox"/> 栄養不良をなくし、妊婦や高齢者などの栄養ニーズに対処する <input type="checkbox"/> 小規模食料生産者の農業生産性と所得を倍増させる
	3 すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	<input type="checkbox"/> 妊産婦の死亡率を削減する <input type="checkbox"/> 新生児・5歳未満児の予防可能な死亡を根絶する <input type="checkbox"/> 重篤な伝染病を根絶し、その他の感染症に対処する
	4 質の高い教育をみんなに すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	<input type="checkbox"/> 無償・公正・質の高い初等・中等教育を修了できるようにする <input type="checkbox"/> 乳幼児の発達・ケアと就学前教育にアクセスできるようにする <input type="checkbox"/> 高等教育に平等にアクセスできるようにする
	5 ジェンダー平等を実現しよう ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う	<input type="checkbox"/> あらゆる場所におけるすべての形態の差別をなくす <input type="checkbox"/> あらゆる形態の暴力を排除する <input type="checkbox"/> あらゆる意思決定において、完全かつ効果的な女性の参加及び平等なリーダーシップの機会を確保する
	6 安全な水とトイレを世界中に すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	<input type="checkbox"/> 安全・安価な飲料水への普遍的・平等なアクセスを達成する <input type="checkbox"/> 下水・衛生施設へのアクセスにより、野外での排泄をなくす <input type="checkbox"/> 様々な手段により水質を改善する <input type="checkbox"/> 水に関連する生態系の保護・回復を行う
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	<input type="checkbox"/> エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する <input type="checkbox"/> 再生可能エネルギーの割合を増やす <input type="checkbox"/> エネルギー効率の改善率を増やす
	8 働きがいも経済成長も 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する	<input type="checkbox"/> 一人当たりの経済成長率を持続させる <input type="checkbox"/> 高いレベルの経済生産性を達成する <input type="checkbox"/> 開発重視型の政策を促進し、中小零細企業の設立や成長を奨励する
	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る	<input type="checkbox"/> 経済発展と福祉を支える持続可能で強靱なインフラを開発する <input type="checkbox"/> 雇用と GDP に占める産業セクターの割合を増やす <input type="checkbox"/> 小規模製造業などの、金融サービスや市場などへのアクセスを拡大する
	10 人や国の不平等をなくそう 各国内及び各国間の不平等を是正する	<input type="checkbox"/> 所得の少ない人の所得成長率を上げる <input type="checkbox"/> すべての人の能力を強化し、社会・経済・政治への関わりを促進する <input type="checkbox"/> 機会均等を確保し、成果の不平等を是正する
	11 住み続けられるまちづくりを 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する	<input type="checkbox"/> 住宅や基本的サービスへのアクセスを確保し、スラムを改善する <input type="checkbox"/> 都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する <input type="checkbox"/> すべての人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する
	12 つくる責任つかう責任 持続可能な生産消費形態を確保する	<input type="checkbox"/> 持続可能な消費と生産に関する 10 年計画枠組み（10YEP）を実施する <input type="checkbox"/> 天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する <input type="checkbox"/> 世界全体の一人当たりの食料廃棄を半減させ、生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減らす
	13 気候変動に具体的な対策を 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	<input type="checkbox"/> 気候関連災害や自然災害に対する強靱性と適応能力を強化する <input type="checkbox"/> 気候変動対策を政策、戦略及び計画に盛り込む <input type="checkbox"/> 気候変動対策に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する
	14 海の豊かさを守ろう 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する	<input type="checkbox"/> 海洋汚染を防止・削減する <input type="checkbox"/> 海洋・沿岸の生態系を回復させる <input type="checkbox"/> 海洋酸性化の影響を最小限にする
	15 陸の豊かさを守ろう 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	<input type="checkbox"/> 陸域・内陸淡水生態系及びそのサービスの保全・回復・持続可能な利用を確保する <input type="checkbox"/> 森林の持続可能な経営を実施し、森林の減少を阻止・回復と植林を増やす <input type="checkbox"/> 砂漠化に対処し、劣化した土地と土壌を回復する
	16 平和と公正をすべての人に 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する	<input type="checkbox"/> 暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる <input type="checkbox"/> 子どもに対する虐待や暴力・拷問をなくす <input type="checkbox"/> 司法への平等なアクセスを提供する
	17 パートナリシップで目標を達成しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する	<input type="checkbox"/> 複数の財源から、発展途上国のための追加的資金源を動員する <input type="checkbox"/> 持続可能な開発のための政策の一貫性を強化する <input type="checkbox"/> さまざまなパートナーシップの経験や資金戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

環境目標	施策方針	SDGsの17の目標				
環境目標Ⅰ 気候変動への対応	施策方針(1) 徹底した省エネルギーの推進					
	施策方針(2) 再生可能エネルギー等の導入拡大					
	施策方針(3) 脱炭素型まちづくりの推進					
	施策方針(4) 温室効果ガスの吸収源確保					
	施策方針(5) 気候変動の影響への適応					
環境目標Ⅱ 持続可能な 資源循環の推進	施策方針(1) ごみの発生抑制の推進					
	施策方針(2) 適正な資源化の推進					
	施策方針(3) 適正な処理・処分の維持					
環境目標Ⅲ 自然との共生、 生物多様性の保全	施策方針(1) 豊かな自然環境の保全					
	施策方針(2) 生物多様性の保全					
	施策方針(3) 自然とのふれあいの場・機会の創出					
環境目標Ⅳ 安全で快適な 生活環境の確保	施策方針(1) 安全安心で快適な生活環境の創造					
	施策方針(2) 公害発生の防止					
環境目標Ⅴ より良い環境を 共創する仕組みづくり	施策方針(1) 環境教育・環境学習の推進					
	施策方針(2) 環境に関する情報の発信・活用					
	施策方針(3) あらゆる主体との連携					

資-6 温室効果ガス排出量の算定方法

温室効果ガス排出量（四日市市域施策編）の現況推計は、環境省の地球温暖化対策地方公共団体実行計画策定マニュアルの趣旨を踏まえ、以下の算定方法としています。

温室効果ガス・部門等				算定方法
二酸化炭素	産業部門	製造業		製造業炭素排出量（三重県）×製造品出荷額の比（四日市市/三重県）×44÷12
		建設業・鉱業		建設業・鉱業炭素排出量（三重県）×従業者数の比（四日市市/三重県）×44÷12
		農林業		農林業炭素排出量（三重県）×従業者数の比（四日市市/三重県）×44÷12
	業務その他部門		業務その他部門炭素排出量（三重県）×延床面積の比（四日市市/三重県）×44÷12	
	家庭部門		家庭部門炭素排出量（三重県）×世帯数の比（四日市市/三重県）×44÷12	
	運輸部門	自動車	旅客	車種別燃料消費量（三重県）×自動車保有比率（四日市市/三重県）×単位発熱量×CO ₂ 排出係数
			貨物	
		鉄道		●電力 鉄道事業者別電力消費量×営業キロ比率（四日市市/全線）×電力排出係数 ●軽油 鉄道事業者別軽油消費量×営業キロ比率（四日市市/全線）×単位発熱量×CO ₂ 排出係数
		船舶		船舶の炭素排出量（全国）×入港船舶総トン数比率（四日市市/全国）×44÷12
廃棄物分野		年間焼却量×廃プラ率×（1-水分率）×CO ₂ 排出係数＋年間焼却量×繊維くず割合×繊維くずの固形分割合×合成繊維の割合		
その他ガス	メタン（CH ₄ ）	燃料の燃焼		●炉の燃料燃焼 CH ₄ N ₂ O 産業部門、業務その他部門、家庭部門のエネルギー消費量×排出係数 ●自動車の走行 CH ₄ N ₂ O 車種別走行距離×排出係数
		一酸化二窒素（N ₂ O）	農業分野	耕作
	畜産			●家畜の飼養に伴う排出 CH ₄ 飼養頭数×排出係数 ●家畜排せつ物管理に伴う排出 N ₂ O 飼養頭数×排出係数
	農業廃棄物		●農業廃棄物の焼却 CH ₄ N ₂ O 作物別収穫量×残渣率×野焼き率×排出係数	
	廃棄物分野	焼却処分	●一般廃棄物 CH ₄ N ₂ O 焼却処理量×排出係数	
		埋立処分	●一般廃棄物 CH ₄ 埋立処理量×排出係数	
		排水処理	●終末処理場 CH ₄ N ₂ O 年間下水処理量×排出係数 ●し尿処理施設 CH ₄ N ₂ O （し尿処理量＋浄化槽汚泥処理量）×排出係数 ●生活排水処理施設 CH ₄ N ₂ O 処理人口×排出係数	
	代替フロン等 4 ガス		項目別全国排出量×按分率（四日市市/全国）	

資-7 四日市市環境基本条例・快適環境都市宣言

(1) 四日市市環境基本条例

平成 7 年 3 月 30 日 四日市市条例第 12 号

わたしたちのまち、四日市は、西に緑豊かな鈴鹿山脈、東に恵み豊かな伊勢湾という自然に育まれ、東海道の宿場町として、古くから栄えてきた。

また、我が国有数の工業都市として、我が国の発展に寄与してきたが、その過程で四日市公害という悲惨な経験をし、貴い教訓を得ている。

一方、わたしたちが生活の利便性や豊かさを追求するあまり、わたしたちのまちのみならず、地球的規模での環境の汚染や自然の破壊がもたらされつつある。

わたしたちはすべて、良好な環境を享受し、健康で文化的な生活を営む権利を有しているとともに、こうした良好な環境を保全し将来の市民へ引き継ぐ責務を負っている。

貴い教訓を礎として、すべての者の参加と協調により、人と自然が共生できるまちづくり、環境への負荷の少ないまちづくり及び地球的な視野に立った取組ができるまちづくりを推進することがわたしたちの使命である。

ここに、わたしたちは、この使命を深く自覚し、市民の総意として、本市の良好な環境の保全と創造に向けて、この条例を制定する。

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 この条例は、良好な環境の保全及び創造に関し、環境基本法（平成 5 年法律第 91 号）の精神にのっとり、基本理念を定め、市、事業者及び市民の責務並びに基本方針を明らかにするとともに、基本方針に基づく施策を総合的かつ計画的に推進することにより、現在及び将来の市民の健康で文化的な生活の確保及び福祉の向上に寄与することを目的とする。

(定義)

第 2 条 この条例において「環境への負荷」とは、人の活動により環境に加えられる影響であって、環境の保全上の支障の原因となるおそれのあるものをいう。

2 この条例において「良好な環境」とは、土地利用、人口等の社会環境と動植物等の自然環境との調和によって生ずる快適性、利便性、安全性等に優れた質の高い環境をいう。

(基本理念)

第 3 条 良好な環境の保全及び創造は、わたしたちの存在基盤であり、かつ有限である恵み豊かな自然環境を、現在及び将来の市民が享受できるよう、行われなければならない。

2 良好な環境の保全及び創造は、すべての者の積極的な取組みと参加により、環境への負荷の低減並びに持続的発展が可能なまちづくりを目指して、行われなければならない。

3 良好な環境の保全及び創造は、本市の優れた環境保全技術の活用など地球的視野に立った取組により、人類共通の課題である地球環境の保全に資するよう、行われなければならない。

(市の責務)

第 4 条 市は、各種施策を進めるに当たり、前条に定める基本理念（以下「基本理念」という。）をその基底として、良好な環境の保全及び創造に関する施策（以下「環境施策」という。）を実施する責務を有する。

2 市は、環境施策の実施に当たっては、国、三重県及び近隣の地方公共団体との連絡調整を緊密に行うものとする。

(事業者の責務)

第 5 条 事業者は、基本理念にのっとり、事業活動を行うに当たって、環境への負荷の低減に自ら努めるとともに、良好な環境の保全及び創造に必要な措置を講ずる責務を有する。

2 事業者は、基本理念のっとり、事業活動に関し、市が実施する環境施策に積極的に協力する責務を有する。

(市民の責務)

第 6 条 市民は、基本理念にのっとり、日常生活における環境への負荷の低減に自ら努めるとともに、市が実施する環境施策に積極的に協力する責務を有する。

第 2 章 良好な環境の保全及び創造に関する基本的施策

(施策の基本方針)

第 7 条 市は、基本理念の実現を図るため、次に掲げる基本方針に基づく環境施策を推進するものとする。

- (1) 産業公害の防止、自動車交通公害の防止、生活排水による水質汚濁の防止、廃棄物の適正処理等により、大気、水、土壌等を良好な状態に保持し、もって人の健康の保護及び生活環境の保全を図ること。
- (2) 水や緑に親しむことができる都市空間の形成、地域の個性を活かした美しい景観の形成、だれもが利用しやすい施設の整備、歴史的文化的遺産の保全と活用等により、潤いと安らぎのある都市環境を創造すること。
- (3) 森林、農地、水辺等における多様な自然環境の保全、貴重な野生生物の保護及び生態系の多様性の確保を図るとともに、人と自然との豊かな触れ合いを確保すること。
- (4) 廃棄物の減量、資源及びエネルギーの効率的かつ循環的な利用、環境保全技術の活用等により、地球環境の保全を図ること。
- (5) 人間と環境との関わりについて理解と認識を深め、環境への負荷の低減に主体的に取り組むことができるよう、環境に関する系統的な教育及び学習の推進を図ること。

(環境計画)

第 8 条 市長は、環境施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、環境計画を策定するものとする。

2 環境計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。

- (1) 良好な環境の保全及び創造に関する長期的な目標、地域別目標、環境施策の方向及び環境配慮の指針
 - (2) 前号に掲げるもののほか、環境施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項
- 3 市長は、環境計画を策定するに当たっては、市民の意見を反映することができるよう必要な措置を講ずるものとする。
- 4 市長は、環境計画を策定するに当たっては、あらかじめ四日市市環境保全審議会の意見を聴くものとする。
- 5 市長は、環境計画を策定したときは、遅滞なくこれを公表するものとする。
- 6 前 3 項の規定は、環境計画の変更について準用する。

(年次報告)

第 9 条 市長は、環境の状況、環境施策の実施状況等を明らかにするため、年次報告書を作成し、公表するものとする。

(総合的調整)

第 10 条 市は、環境施策の実効的な推進を図るため、次に掲げる事項について総合的な調整を行うものとする。

- (1) 環境計画に関すること。
 - (2) 環境へ著しい負荷を及ぼすおそれのある市の施策の実施に関すること。
 - (3) その他環境施策の総合的推進に関すること。
- 2 市は、前項に規定する総合的な調整を行うため、四日市市環境調整会議を置く。

（調査研究体制の整備等）

第 11 条 市は、科学的予見性に基づく環境施策の推進を図るため、環境に関する調査研究体制の整備を図るとともに、他の研究機関との積極的な交流に努めるものとする。

（指導等）

第 12 条 市は、良好な環境の保全及び創造を図るため、事業者、市民又はこれらの者の組織する団体（以下「民間団体」という。）に対し、必要な指導及び助言を行うことができるものとする。

（自主的な活動の支援）

第 13 条 市は、事業者、市民又は民間団体による良好な環境の保全及び創造に関する自主的な活動を促進するため、情報提供その他必要な支援の措置を講ずるものとする。

（教育、学習等の振興）

第 14 条 市は、事業者、市民又は民間団体が良好な環境の保全及び創造について理解を深め、責任ある行動がとれるよう教育及び学習の振興並びに広報活動の充実に努めるものとする。

（国際環境協力）

第 15 条 市は、海外の地域の環境の保全等に関する国際協力の円滑な推進を図るため、必要な措置を講ずるものとする。

（財政措置）

第 16 条 市は、環境施策を推進するために必要な財政上の措置を講ずるものとする。

（委任）

第 17 条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行についての必要な事項は、市長が別に定める。

(2) 快適環境都市宣言

さわやかな大気、清らかな水、緑豊かな自然の中で、安らぎと潤いに満ちた暮らしを営むことは、すべての人々の基本的な願いであります。

しかし、今日、私たちの活動は、私たちの身のまわりの環境のみならず、人類の生存基盤である地球環境に深刻な影響を与えています。

私たちは、人も自然の一員であることを深く認識し、自然と調和したまちづくりを進め、良好な環境を将来の市民へ引き継いでいかなければなりません。

市民、事業者、行政が一体となって、二度と公害を起こさないとの決意のもと、地球的な視野に立ち、良好な環境の保全と創造を図るため、私たちは、ここに四日市市を「快適環境都市」とすることを宣言します。

平成 7 年 9 月 26 日制定

